



RESEARCH REPORT

調査報告書

2025

療育施設の利用に関する 実態調査

一般社団法人 人間力認定協会

RESEARCH REPORT

調査報告書
2025.10.1



CONTENTS

～療育施設の利用に関する実態調査～

はじめに 専門チーム代表の挨拶	P2
1 章 調査に至った背景	P3
2 章 療育施設の利用に関する実態調査	P5
3 章 調査結果の総括と考察	P20
4 章 アンケート自由記述のご紹介	P22

TOPICS

- ・ 利用開始は 3 歳以下が半数を占める 早期療育の実態
- ・ 62%が「専門機関の勧め」で利用開始 決断の背景
- ・ 施設選びの決め手は“先生と環境” 47%が最重視
- ・ 療育で変化を実感した保護者 7 割超 成長の手応え

はじめに 専門チーム代表の挨拶

この度、一般社団法人 人間力認定協会は、CSR 活動の一環として「発達障害調査研究チーム」を発足いたしました。本報告書を皆様にお届けできますことを、チーム一同、大変光栄に思います。

私たちの理念『発達障害を「障害」としない社会』を実現するためには、一人ひとりの発達障害に対する正しい理解が不可欠です。発達障害への関心が高まる一方、根強い誤解や偏見により、当事者やご家族が生きづらさを抱えています。私たちは、正しい知識と理解を社会に広めることでこの現状を改善すべく、本チームを立ち上げました。

本チームは、発達障害の特性や可能性を引き出す支援のあり方を多角的に調査・研究します。最大の強みは、これまでに3万人を超える皆様が学ばれた、当協会認定「児童発達支援士」の皆様との広範なネットワークです。日々子どもたちと真剣に向き合う受講生や関連団体の皆様から寄せられる「現

場の生の声（一次情報）」は、何物にも代えがたい貴重なデータとなります。

皆様からいただいた実践的な知見を丁寧に分析し、信頼性の高い情報として社会に発信することで、本報告書が支援現場の指針やご家庭でのヒント、さらには教育・福祉における政策提言の礎となることを目指します。

この一歩が、発達障害のある方一人ひとりがその個性をもって輝き、誰もが支え合い成長できる社会の実現に繋がるものと確信しております。

本調査研究にご協力いただく皆様に深く感謝申し上げますとともに、今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人 人間力認定協会
発達障害調査研究チーム
代表 望月 宏彰

1 章 調査に至った背景

近年、発達障害への社会的理解は着実に広がりを見せており、それに伴い、子ども一人ひとりの特性に応じた専門的な支援、すなわち「療育」の重要性が広く認識されるようになりました。全国各地で児童発達支援事業所や放課後等デイサービスといった療育施設が増加し、支援を必要とする子どもとご家族にとって、その選択肢が大きく広がったことは、歓迎すべき社会の変化と言えるでしょう。

しかし、私たちはこの変化の裏側で、保護者の皆様が新たな課題に直面しているという声を数多く耳にしています。それは、「多くの選択肢の中から、何を基準に、どうやって我が子に最適な施設を選べばよいのか分からない」という声です。施設のウェブサイトには、どの施設も魅力的な言葉や理念が並び、SST（ソーシャルスキルトレーニング）、ABA（応用行動分析）、感覚統合療法といった専門的なプログラムが紹介されています。しかし、これらの療育法が具体的にどのようなもので、どのような特性を持つ子に有効なのかを、保護者自身が正確に理解し、比較検討することは難しいものです。情報の多さが、かえって保護者を悩ませているのではないのでしょうか。

本当に知りたいのは、パンフレットに書

かれた言葉の奥にある、施設の「ありのままの姿」です。実際にどのような療育が、どのような雰囲気の中で行われているのか。スタッフはどのような想いで子どもたちと接しているのか。そして何より、通っている子どもたちはどのような表情で過ごしているのか。これらの情報は、外部からは非常に見えにくいのが現状です。

その結果、保護者は限られた情報の中で大きな不安と一縷の望みを胸に施設を選び、通わせてから初めて「我が子には合わなかった」という現実直面するケースも少なくありません。例えば、人との関わりに強い不安を持つ子にとって、いきなり大人数のグループ活動は大きなストレスになりえます。逆に、有り余るエネルギーを発散させたい子にとって、着席中心のプログラムは苦痛かもしれません。このようなミスマッチは、単に「効果がない」というだけでなく、子どもが「また失敗した」という経験を重ね、自己肯定感を損なう原因にもなりかねません。

この課題は、保護者側だけの問題ではありません。療育施設にとっても、自らの提供するサービスが本当に保護者のニーズに応えられているのか、そして子どもたちにとって最善の環境となっているのかを客観

的に把握することは、極めて重要です。保護者がどのような点に満足し、何に悩み、どのような改善を望んでいるのか。こうした「利用者の声」に真摯に耳を傾け、サービスの質を絶えず高めていく努力こそが、業界全体の信頼性を向上させ、持続的な支援の礎となります。

以上の背景から、私たち人間力認定協会は、発達障害調査研究として「療育施設の利用に関する実態調査」を実施することといたしました。

本調査の目的は、保護者の皆様が施設選びで抱える「どの施設が自分の子には合っているのだろうか」「何を基準に選べば良いのだろうか」といった問いに対して、実際に施設を利用した方々の体験に基づいた、具体的な判断材料を提供することです。どのような施設で、どのような療育が行われ、子どもたちはどう変化したのか。そして「合わなかった」と感じたのは、どのようなケースだったのか。これらの多様な実態を数多く集め、客観的に分析することで、これから施設を選ぶ方々にとっての指針となるような情報を提供したいと考えています。

この調査報告が、保護者の皆様の施設選びの不安を軽減する一助となり、療育施設の皆様にとってはサービスの質を高めるための貴重な資料となり、そして最終的には、すべての子どもたちが自分らしく、安心し

てその可能性を伸ばせる場所にたどり着くことができる社会になることを、私たちは心より願っております。

2 章 療育施設の利用に関する実態調査

調査の概要

- 【調査名称】 療育施設の利用に関する実態調査
- 【調査団体】 一般社団法人 人間力認定協会
- 【調査目的】 療育施設を利用している保護者が感じている実態を明らかにすること
- 【調査対象】 当協会認定資格「児童発達支援士」等の受講者であり、かつ発達に特性のあるお子様を持つ保護者
- 【調査期間】 2022 年 6 月 11 日～ 2025 年 6 月 28 日
- 【調査方法】 Web アンケートフォームによる記名式調査 ※1
- 【設問一覧】 ①通い始めた時の子どもの年齢 ②子どもの性別 ③発達障害診断名
④療育施設を利用するに至った理由
⑤療育施設選びで意識したポイント
⑥施設ではどのような療育が実施されているか
⑦子どもは積極的に施設に通えているか
⑧療育施設に通わせたことで見られた変化
⑨施設利用を成功に導くうえで大切なことは何か
- 【有効回答数】 126 件

本章では、アンケート調査の集計結果を客観的なデータとして記述いたします。本章で提示する集計結果には、選択式の設問に加え、皆様から寄せられた自由記述を分析したものも含まれております。自由記述の分析にあたっては、回答者の意図を尊重しつつ、当協会にて内容を精査し、共通するテーマごとにカテゴリー分類を行いました。そのためこれらのデータは、回答者が抱える悩みや意見の全体的な「傾向」を把握するための参考資料としてご覧いただけますと幸いです。

本報告書では、客観的な事実と私たちの見解を明確に区別してお伝えするため、集計結果に基づく私たちの総括や考察は、第 3 章にて詳しく述べております。また、アンケートにご協力いただいた皆様から寄せられた貴重な自由記述（一次情報）に関しましては、第 4 章にて原文のまま紹介しておりますので、併せてご覧ください。

※1 個人情報とは、当協会のプライバシーポリシーに基づき厳重に管理し、本調査目的以外での使用は一切行いません

Q1. 通い始めた時の子どもの年齢

回答方式：単一選択式

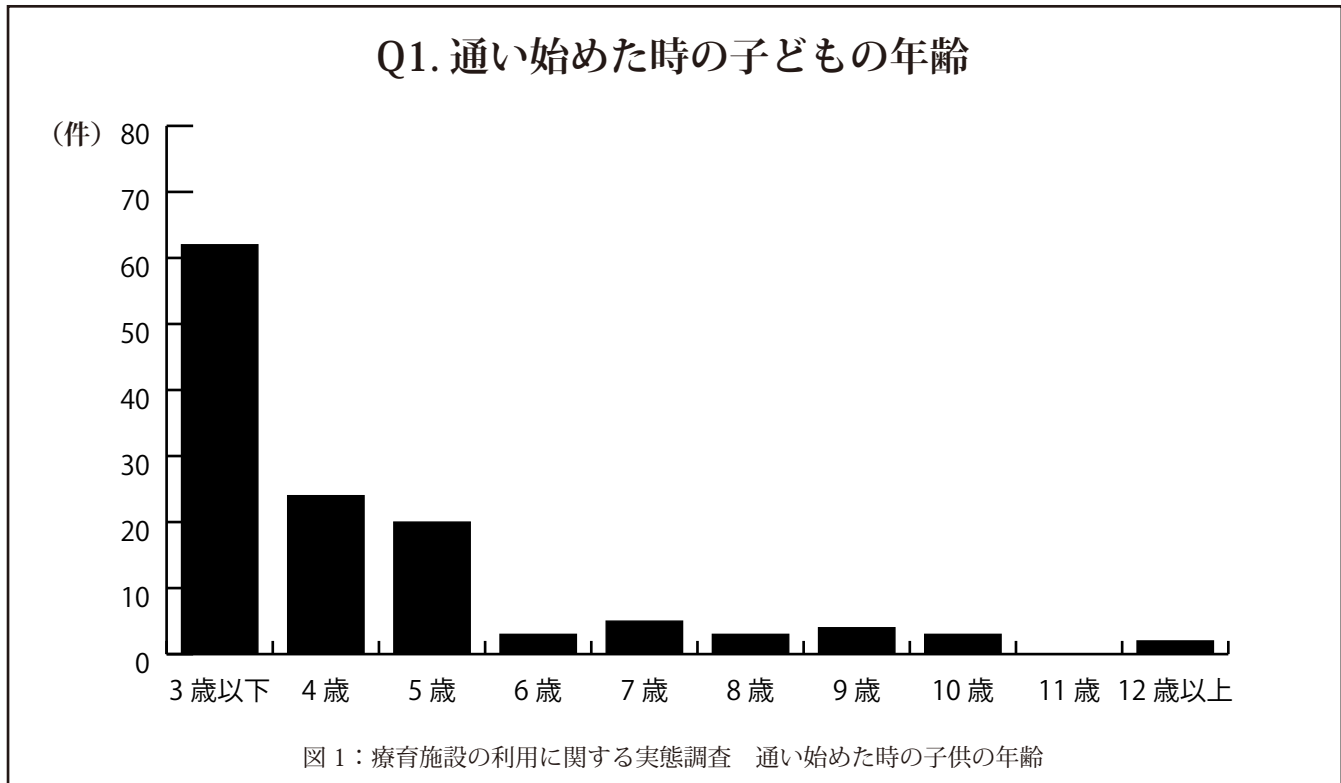


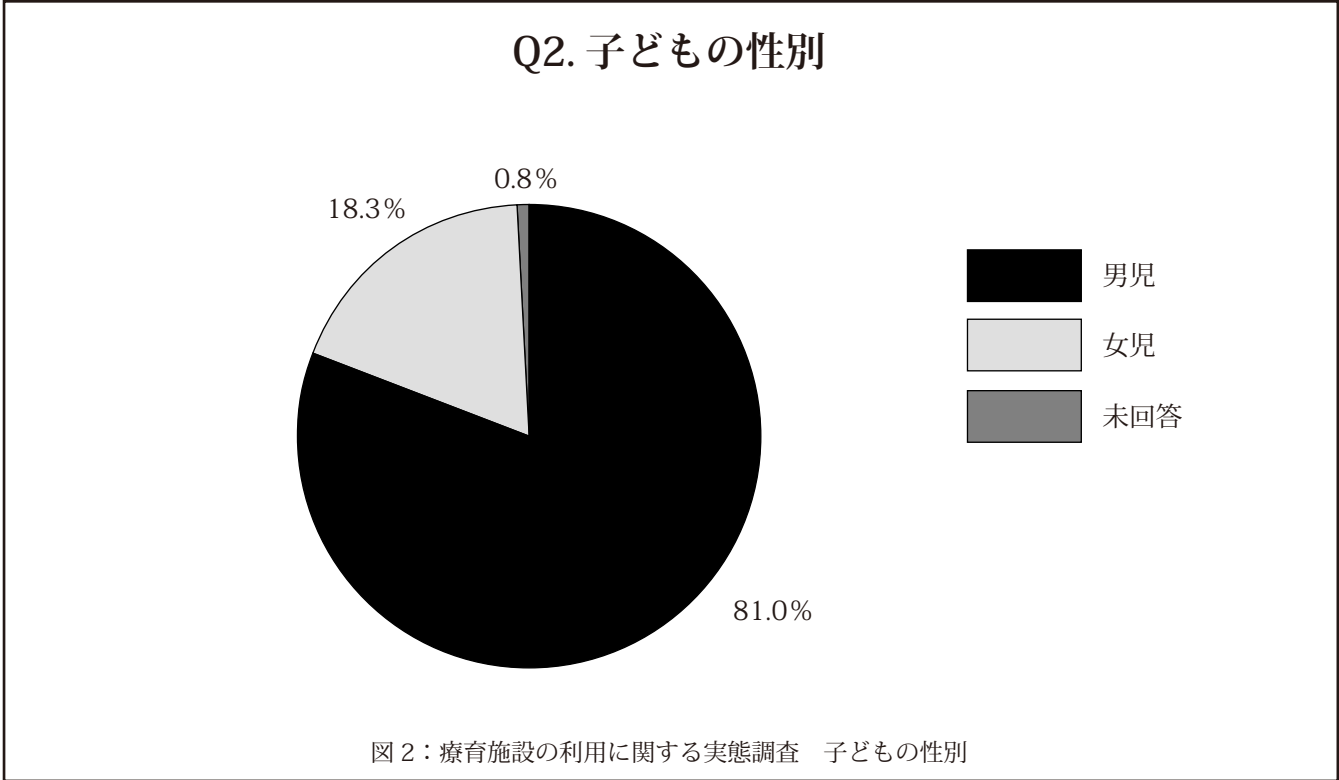
図 1：療育施設の利用に関する実態調査 通い始めた時の子供の年齢

年齢区分	件数	割合
3歳以下	62件	49.2%
4歳	24件	19.0%
5歳	20件	15.9%
6歳	3件	2.4%
7歳	5件	4.0%
8歳	3件	2.4%
9歳	4件	3.2%
10歳	3件	2.4%
11歳	0件	0.0%
12歳以上	2件	1.6%

療育施設に通い始めた時の子どもの年齢について尋ねたところ、図 1 に示すような結果となりました。3歳以下が最多となり、就学前（5歳以下）が 84.1%であることが分かりました。このことから、早期療育が主流であることが見受けられます。

Q2. 子どもの性別

回答方式：単一選択式

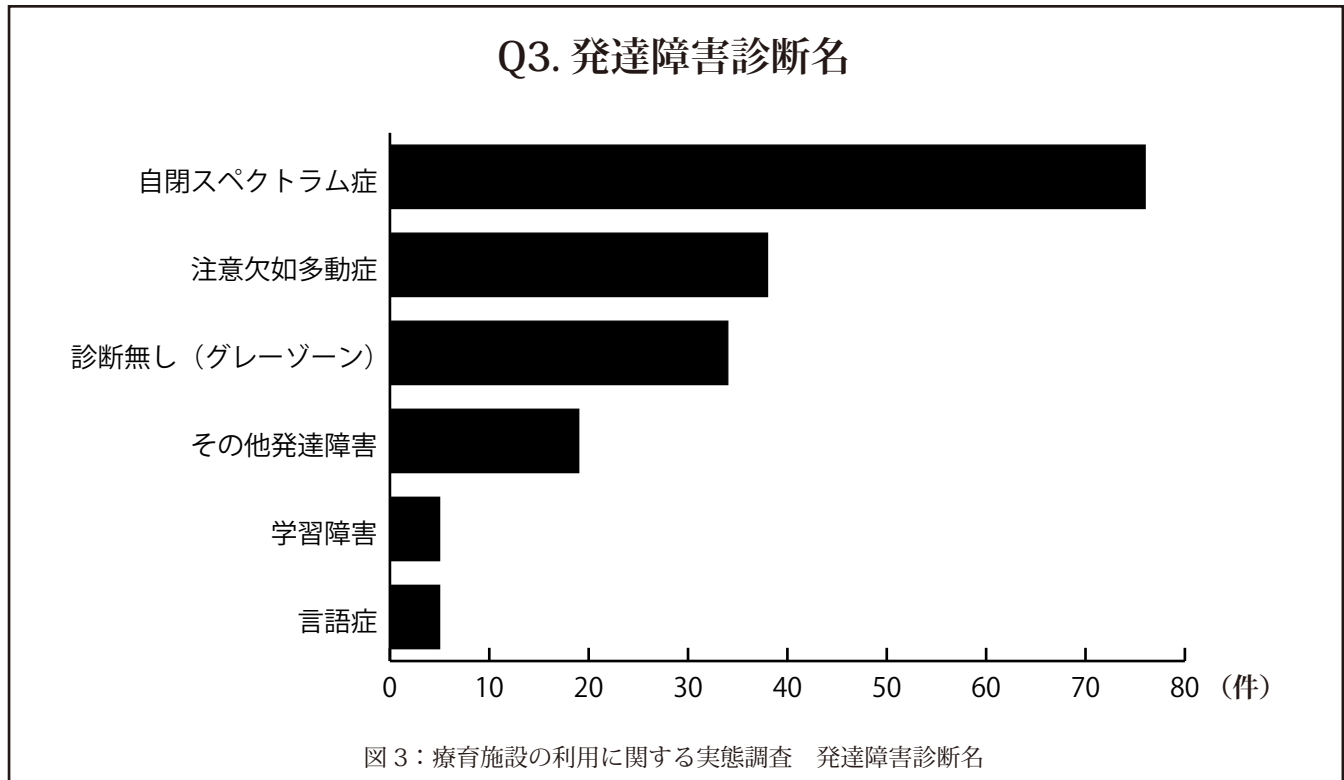


性別	件数	割合
男児	102 件	81.0%
女児	23 件	18.3%
未回答	1 件	0.8%

療育施設を利用している児童の性別は、男児が圧倒的多数を占める結果となりました。

Q3. 発達障害診断名

回答方式：複数選択式



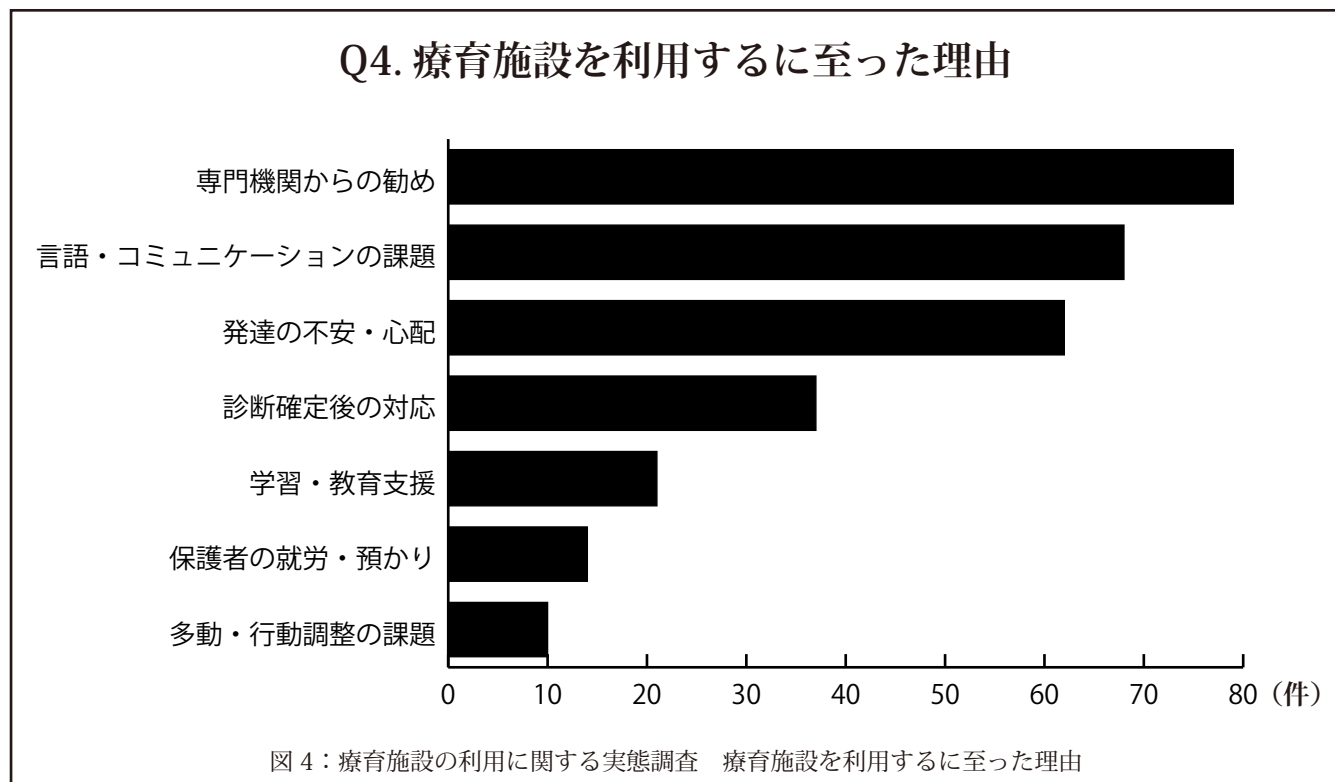
順位	診断名	件数	割合 ※
1	自閉スペクトラム症	76 件	60.3%
2	注意欠如多動症	38 件	30.2%
3	診断無し (グレーゾーン)	34 件	27.0%
4	その他発達障害	19 件	15.1%
5	学習障害	5 件	4.0%
6	言語症	5 件	4.0%

※割合は有効回答数 126 件に対する百分率 ※有効回答数：126 件 延べ件数：177 件

診断名を複数選択式で集計した結果、自閉スペクトラム症児が約 6 割であることがわかりました。障害の診断が単一である子どもは 83 名 (65.9%)、複数の診断が出ている子どもは 43 名 (34.1%) でした。診断無し (グレーゾーン) の子どもも 27.0%であることから、療育施設の利用に際して、障害の診断は必須ではないことがわかります。

Q4. 療育施設を利用するに至った理由

回答方式：自由記述方式



順位	理由カテゴリー	件数	割合
1	専門機関からの勧め	79 件	62.7%
2	言語・コミュニケーションの課題	68 件	54.0%
3	発達の不安・心配	62 件	49.2%
4	診断確定後の対応	37 件	29.4%
5	学習・教育支援	21 件	16.7%
6	保護者の就労・預かり	14 件	11.1%
7	多動・行動調整の課題	10 件	7.9%

※割合は有効回答数 126 件に対する百分率

※有効回答数：126 件、延べ件数：291 件

自由記述にて入力いただいた情報をカテゴリ分けしたところ「専門機関からの勧め」「言語・コミュニケーションの課題」「発達の不安・心配」が多いことがわかりました。1 名あたり平均すると 2.31 件の理由が書き込まれていたことから、保護者は複数の要因で施設利用の決断をしていると考えられます。

Q4. 療育施設を利用するに至った理由

～代表的な自由記述～

<専門機関からの勧め>

- 結婚がきっかけで仕事を離れ二人の子どもを授かり年子の長女(高1)と長男(中3)を育てています二人ともに発達が遅いことを不安に思い保健所に相談し保健師さんに区の保健所で行われている療育センターの先生が来てくれる親子教室に通うことを勧められましたその療育センターの先生に発達検査を勧められたのがきっかけです。
- 1歳過ぎて一時出ていた言葉が消失、それからなかなか二語文を話さず2歳を過ぎました。自分の名前を呼ばれても反応なく、目の前に人がいてもその人と目線を合わせない、言葉が増えないので市の健康診断の度に保健師さんに相談していて、療育施設の利用を紹介されてから利用するようになりました。

<言語・コミュニケーションの課題>

- 新規場面が苦手で場面緘黙やコミュニケーションの困難さを抱えており、幼稚園入園が難しかったため。
- 2歳になっても初語がなかったので保育園から市役所の相談できるところを紹介されて、そこで療育センターの存在を知り行くこととなりました。STです。早期療育を勧められたり、言葉の教室のようなものと聞いてためしに行ってみようという感じでした。

<発達の不安・心配>

- 保育園で周りの子との差が激しいことを自覚したのがきっかけです。3歳までには療育を進めたいと思い、療育手帳を発行しました。
- 発達に心配があり、自治体の母子で通う1時間の療育に週2回通っていましたが、就園を見据えてもっと療育の機会を増やしたいと思いました。その時にママ友さんから民間の療育施設を利用できることを教えていただき、早速施設探しと手続きを始めました。息子は人見知りが激しく母親と離れることが苦手なタイプだったので、母子通園も認めてくれる施設に決めました。

<診断確定後の対応>

- 上の子と比べて言葉が遅れてるな。と感じて市の発達検査を受けた結果やはり遅れてて、上の子が早くおしゃべりしたいって言うてきたので通うことを決意しました。

<学習・教育支援>

- 小学校に入るのに練習をしてあげた方がいいって医師に勧められたから。

<保護者の就労・預かり>

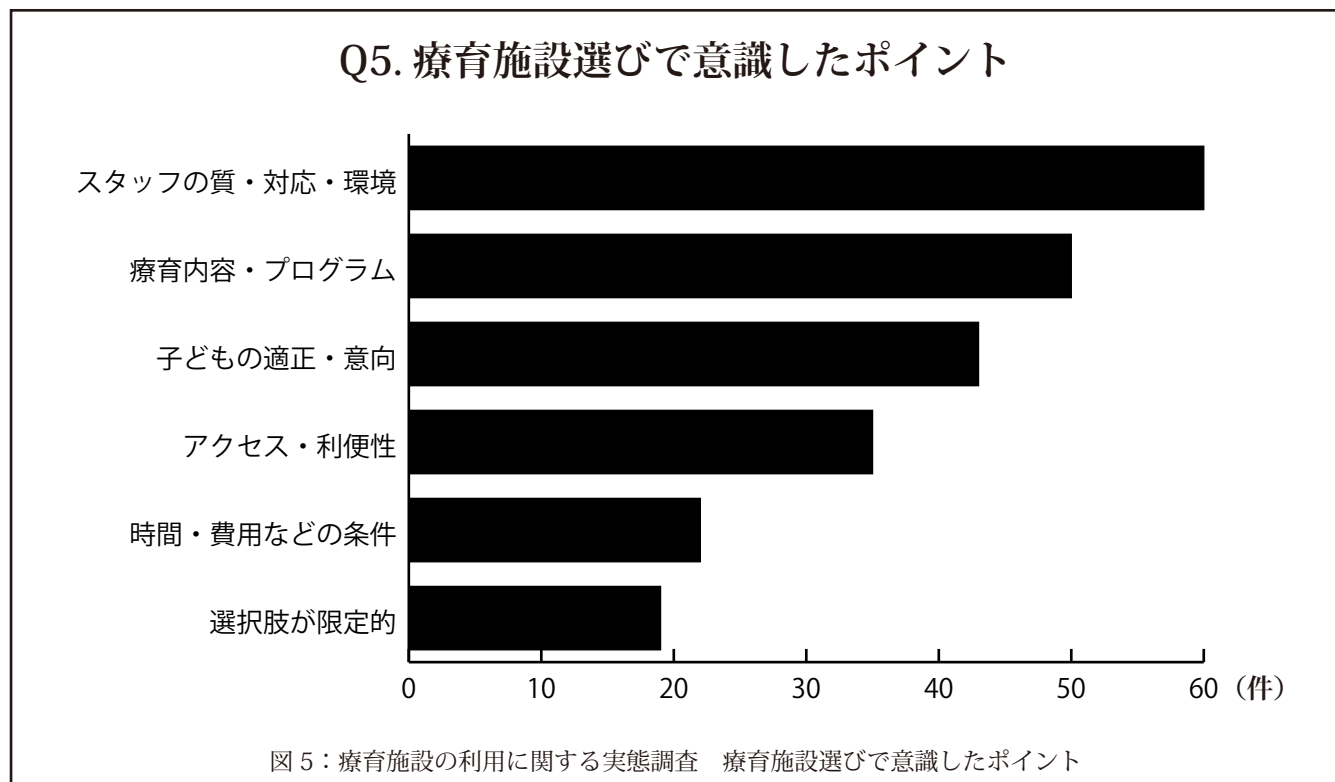
- 私が放課後等デイサービスに勤めており、一人で留守番をさせる事が難しいので利用をさせました。

<多動・行動調性の課題>

- 落ち着きがなく手先も不器用で就学前に不安を覚えたから。

Q5. 療育施設選びで意識したポイント

回答方式：自由記述方式



順位	選択ポイント	件数	割合
1	スタッフの質・対応・環境	60 件	47.6%
2	療育内容・プログラム	50 件	39.7%
3	子どもの適正・意向	43 件	34.1%
4	アクセス・利便性	35 件	27.8%
5	時間・費用などの条件	22 件	17.5%
6	選択肢が限定的	19 件	15.1%

※割合は有効回答数 126 件に対する百分率

※有効回答数：126 件、延べ件数：229 件

スタッフの対応や療育内容やプログラムなどの「質」を求めている方が多く、アクセスや利便性・時間、費用などの「物理的な条件」よりも重要視していることがわかります。また地方の場合は、近くに施設が一つしかないといった事例があることもわかりました。

Q5. 療育施設選びで意識したポイント

～代表的な自由記述～

<スタッフの質・対応・環境>

- 自治体の療育センターは検診の際に紹介されたので。また、別に個別で民間の療育に行っているが、見学の際に先生が話やすいか、困りごとに対してどうアドバイスしてくれるかを意識しました。
- 保育士さんたちの雰囲気や、実際に見学にいて、なにをやっても温かく受け入れてくれる環境に惹かれたので選びました。あと、保育料、給食費、バス代全て無料というところも決め手です。
- 先生との相性。年中のときに複数症状が出て発達障害が発覚したのも担任の先生と合わなかったため。

<療育内容・プログラム>

- 言葉の遅れが気になったのでマンツーマンで指導して下さるところを重視しました。
- 言語聴覚士の言語訓練が月に1回は必ずある。
- 個別と集団を両方見学と体験をしてみて、こどもには個別での療育が合っていると思ったため個別療育を選びました。あとは同じ幼稚園で通っている方がいるという施設を選びました。

<子どもの適正・意向>

- 色々やってみようがあったのであまり考えなかった親が良いと思うのと子供がどう感じているのかが違うから子供が楽しそうが大切。自己肯定感をそがれてまで通う必要はないし、親が楽しく先生と話したりしているのを子供は見てるので、親が行きたくないと思うならやめて親子でスキンシップを沢山したほうがよいとおもう。
- 子供が楽しめたか。お世話になるうえで、子供にとってストレスになるのではなく、楽しめるのが必要。楽しむ中で同じ年頃の友達と遊ぶのが楽しい、と感じて欲しいと言うおもいがあるから。

<アクセス・利便性>

- 個別・ペア・集団療育が可能自宅から近く通所しやすい。
- 両親がフルタイムの共働きの為、送迎ありで個別療育ありの場所を選びました。SSTに取り組んでいる事も重要視しました。

<時間・費用などの条件>

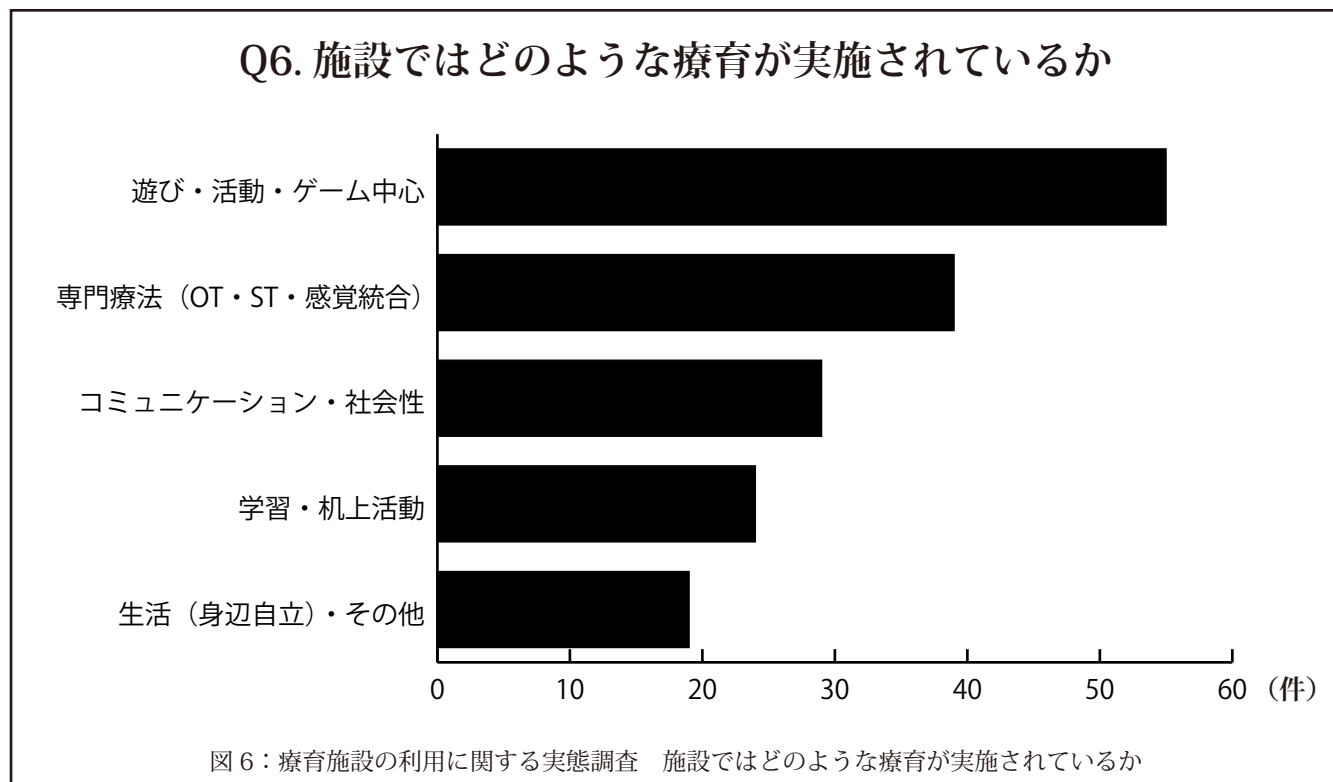
- 当該児のうえに子供がいたので、時間的に幼稚園に行っている間に可能なところ、個別。デイサービスでは、自然とふれあう場所での活動、タイピング、プログラミング、製作系など本人が楽しめることを優先(習い事感覚に)しました。

<選択肢が限定的>

- 田舎だったので選べるほどなかったです。一ヶ所のみでした。

Q6. 施設ではどのような療育が実施されているか

回答方式：自由記述方式



順位	療育内容	件数	割合※
1	遊び・活動・ゲーム中心	55 件	43.7%
2	専門療法 (OT・ST・感覚統合)	39 件	31.0%
3	コミュニケーション・社会性	29 件	23.0%
4	学習・机上活動	24 件	19.0%
5	生活 (身辺自立)・その他	19 件	15.1%

※割合は有効回答数 126 件に対する百分率

※有効回答数：126 件 延べ件数：166 件

療育形態	件数	割合
個別 + 集団併用	59 件	46.8%
集団療育のみ	31 件	24.6%
個別療育のみ	21 件	16.7%
形態不明	15 件	11.9%

Q6. 施設ではどのような療育が実施されているか

～代表的な自由記述～

<遊び・活動・ゲーム中心>

●職員は5名程度、児童は10名以下。サーキットやだるまさんがころんだなど身体を使ってするもの、絵具・粘土・鉛筆等を使った机上の活動などいろいろ。集団では順番やその遊びのルール等を学ぶ。

●少人数で6名の4~5歳児が過ごしていましたクラスは2クラスでそれぞれ児童指導員が1人と保育士が1人の計2人体制で毎週カリキュラムを変えながら子どもたちの出来ることや苦手なことをバランス良く取り入れていました例えば…ハサミや粘土を使った工作、お菓子作りルールやお約束のあるゲームなどコミュニケーションを大切にした療育でした。

●個々に先生がついてくれ、個別に説明してくれたり、集団での活動があったり、最初は、思いっきり体を動かし、日頃のエネルギーを発散させてくれました。運動療法で、サーキットのようなものをしたり、バルーンで体を動かしたりしました。

<専門療法（OT・ST・感覚統合）>

●OTでは遊びを取り入れながら楽しんでしてくださいました。1対1での個別指導。STはまず、困ったときはこの言葉など、生活していく上で優先順位をつけて教えてくださいました。こちらも1対1での個別指導。デイサービスは基本子供10人に対してスタッフは5~7人。集団でのコミュニケーションを学びながら個別に好きなことをさせてもらっています。

●ST。先生がひとりとうちの子との個別指導。おもちゃで遊びながら会話をし、遊びの中で言葉を増やしていくような感じでした。

<コミュニケーション・社会性>

●集団・個別指導が共にあります。まずはトランポリンや平均台で体幹トレーニングを行ったり、絵カードを用いて言語訓練や、SSTを取り入れています。

●お友達、先生との遊びの中でのコミュニケーションスキルのアップや個別ではお名前の練習や就学に向けてのひらながの練習など。

<学習・机上活動>

●最初は個別療育で遊びを通じてのSSTやOT後にペアや集団によるSSTやOT就学前は集団による学習もプラス。

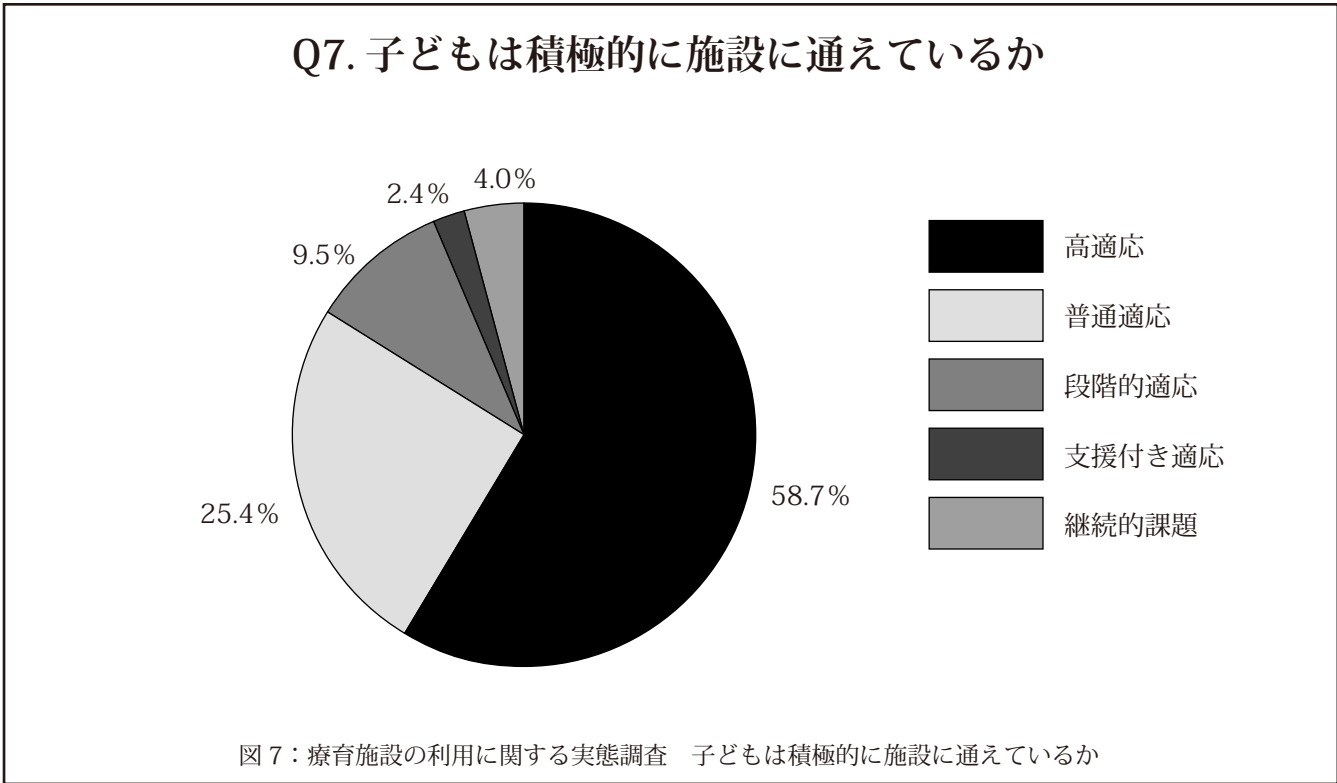
●個別指導、SST小学校に入学するにあたって、まず席に座って何かを言うところから始めてもらいました。挙手をすること、板書することなど、あとは個々の苦手（待つ事、勝ち負けへのこだわり、苦手な学習）小集団指導3人から5人で運動療法にて、運動はもちろん順番を待つ事、守る事など。

<生活（身辺自立）・その他>

●主治医の先生の診療所で心理士の先生と行う、1時間の心理療法（プレイセラピー）でした。前半は子どもと先生の一対一、後半は母も参加して、お話ししながら様子を見ます。週1回、1年間の予定でスタートしました。

Q7. 子どもは積極的に施設に通えているか

回答方式：自由記述方式

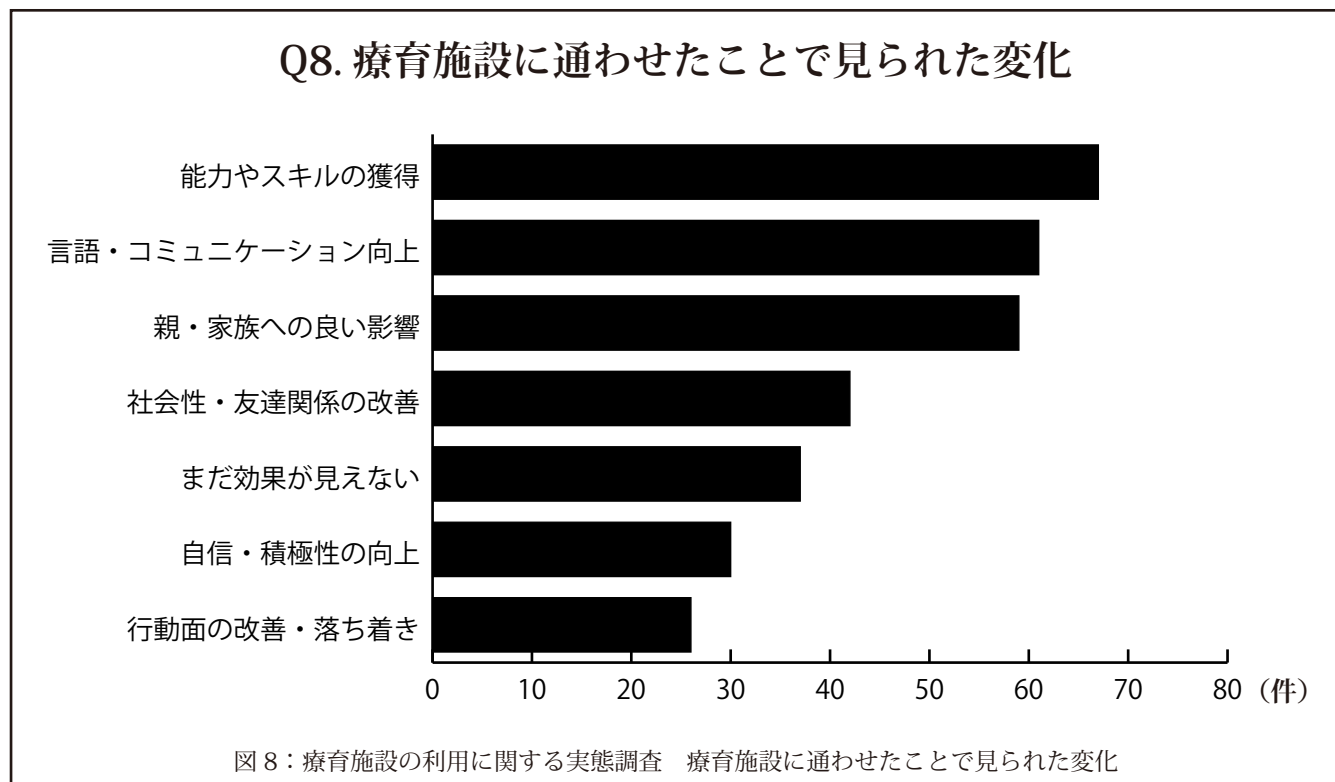


適応レベル	件数	割合	説明
高適応	74 件	58.7%	積極的・非常に気に入っている
普通適応	32 件	25.4%	特に問題なく通所
段階的適応	12 件	9.5%	時間をかけて受け入れられた
支援付き適応	3 件	2.4%	工夫や配慮し通所可能
継続的課題	5 件	4.0%	行き渋りが継続的に発生

療育施設への子どもの適応は極めて良好で、約 6 割が積極的に楽しみ、全体の 96% が受け入れて通所をしていることがわかりました。継続的な行き渋りなどがあるケースは 4% と少数で、適切な環境と支援により、ほぼすべての子どもが療育を受け入れ、参加できることが明確となりました。

Q8. 療育施設に通わせたことで見られた変化

回答方式：自由記述方式



順位	変化のカテゴリー	件数	割合※
1	能力やスキルの獲得	67 件	53.2%
2	言語・コミュニケーション向上	61 件	48.4%
3	親・家族への良い影響	59 件	46.8%
4	社会性・友達関係の改善	42 件	33.3%
5	まだ効果が見えない	37 件	29.4%
6	自信・積極性の向上	30 件	23.8%
7	行動面の改善・落ち着き	26 件	20.6%

※割合は有効回答数 126 件に対する百分率 ※有効回答数：126 件 延べ件数：322 件

約70%が何らかの効果を実感していることがわかりました。子どもの直接的な発達向上(能力・言語・社会性等)だけではなく、家庭に与える影響が非常に大きいこともわかります。療育施設に通うことで、相談できる相手が増えることや、同じ境遇の方とコミュニケーションを取れることも、療育施設利用の一つの価値であることが示されています。

Q8. 療育施設に通わせたことで見られた変化

～代表的な自由記述～

<能力やスキルの獲得>

- 急がされず、その子が納得できるように時間をかけ待ってくれるので、自分でできることが増えました。遊びが広がりました。喋れるようになりました。こだわりがほぼなくなりました。偏食も弱くなりました。
- カバンの中の物を出して、箱に出すなど、家ではやらなかったような生活動作を施設では細かくやるため、こんなことうちの子できるんだ、できるようになったんだと思うことが増えました。そして、その動作を家でもできるように、先生とよく情報交換し、習慣化できるようになってきています。

<言語・コミュニケーション向上>

- 言葉の数が増えたと思います。
- 特性はあるものの、お友達との譲り合いや、コミュニケーションの仕方を学べたと思う。

<親・家族への良い影響>

- 気持ちを伝えることができるように、また、最初に悩んでいた幼稚園での他害も今はなくなりました。子どもだけではなく、私自身も相談できる人がみつきり、気持ちの持ちようが全然違います。子育てで外で辛いことがあっても、療育の先生という味方がいるというだけで、私自身も強くなれた気がします。本当に療育に行ったこと療育の先生に出会えたことは感謝しかありません。
- まずは、療育というものがどのような事かわからない状態でのスタートでした。少しずつ人の話がきけるようになっていたり、勝手に出掛けたりしないようになってきて、変化が現れました。子どもにもプラスでしたが親にもプラスな面がたくさんありました。ADHDと言われることに最初は抵抗がありましたが、今では同じ悩みを抱えているお母さんの相談にもものれるぐらい、療育が大切だということがわかりました。

<社会性・友達関係の改善>

- 異年齢との交流やスタッフとの関わりで家庭、学校以外の世界が出来ました。また、家庭では末っ子でしたが、放デイではお兄ちゃんと頼る子供達もおり成長を感じられました。

<まだ効果が見えない>

- 特に変化はありませんが、似た特性の子の様子も見たり、それに対する対処の仕方を学んだりプラスしかないように思います。

<自信・積極性の向上>

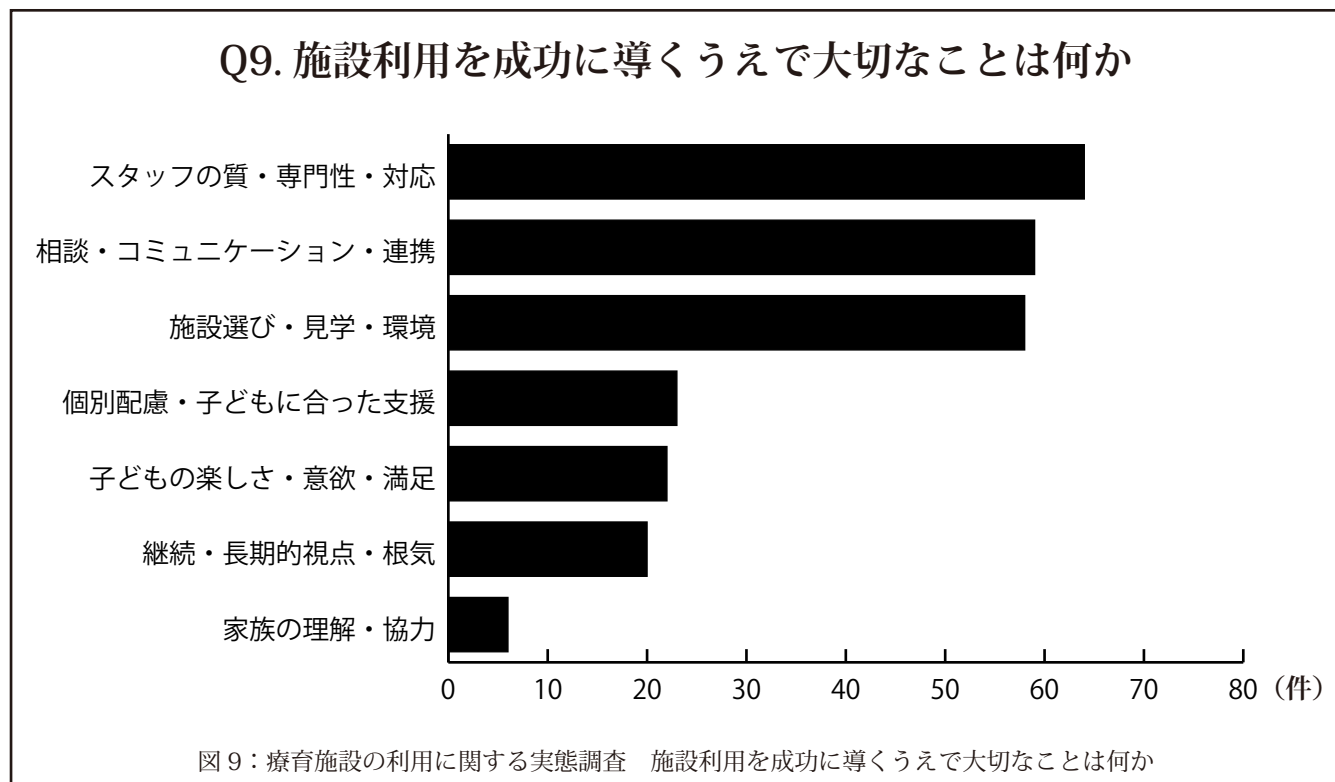
- 年中の秋に途中入園で楽しく幼稚園に通えるようになった。また出来る事が劇的に増え、自己肯定感が高くなり、こだわりが緩和された。意見や気持ちの表出が可能になり、コミュニケーションスキルが獲得、お友達と良い距離感で園で問題無く過ごすことが出来た。

<行動面の改善・落ち着き>

- 私自身は変化はよく分からないが、託児所の先生からは「とても落ち着いてきてる」と話があった。

Q9. 施設利用を成功に導くうえで大切なことは何か

回答方式：自由記述方式



順位	成功要因テグリー	件数	割合※
1	スタッフの質・専門性・対応	64 件	50.8%
2	相談・コミュニケーション・連携	59 件	46.8%
3	施設選び・見学・環境	58 件	46.0%
4	個別配慮・子どもに合った支援	23 件	18.3%
5	子どもの楽しさ・意欲・満足	22 件	17.5%
6	継続・長期的視点・根気	20 件	15.9%
7	家族の理解・協力	6 件	4.8%

※割合は有効回答数 126 件に対する百分率 ※有効回答数：126 件 延べ件数：252 件

施設利用を成功に導くカギはスタッフの人的要素にあることがわかりました。スタッフの役割は、子どもへの適切な支援活動に加え、保護者の相談に乗ることも非常に重要であることが示されています。

Q9. 施設利用を成功に導くうえで大切なことは何か

～代表的な自由記述～

＜スタッフの質・専門性・対応＞

●似たような特性の子達と同じ時間を共にして悩みや不安を聞くこと。楽しい時間を過ごすこと。スタッフの方の専門性。

＜相談・コミュニケーション・連携＞

●通っている療育先、どちらも子どものできないことより、できることを見てくれています。また、相談したことは一緒に考えてアドバイスしてくれます。相談は、本当にささいなことだったりしますが、そんなことでもシッカリと聞いてもらえて、その面でもすごく頼りになります。親身になってくれるのが私にとっては大事な。と思います。

＜施設選び・見学・環境＞

●迷われているなら、まずは見学をしてみたらいいと思います。集団生活に入れたら、子どもは伸びます。子ども同士の見えない力があります。定型の子育てでもそうだと思いますが、子育ては1人ではできません。沢山の人の頼るべきです。その分野のプロもいますし、療育施設への通うことでアドバイスや悩み相談もできます。

＜個別配慮・子どもに合った支援＞

●親が入室しなくてもマジックミラーで外から見る事が出来るので安心でした（療育してくれる人も色々だから窓のない個室は心配）成果が直ぐには出ないので行っているときは不安になったりしたけど今ならわかる発達テストなどその子に合わない方もいるので見極めたほうがよい障害のある子は特に敏感だから療育が終わったあとにすぐ褒める。

＜子どもの楽しさ・意欲・満足＞

●子供が楽しく過ごせるか、先生や他の保護者の方と情報交換できる環境なのかが大事だと思います。子供がどうしても嫌な環境であれば、無理せず他を探していいと思いますし、親としても、そこで学んで家で取り入れてられるような情報交換があるかも判断基準にしてもいいかと思いました。ただ通って帰ってきてだけの分断した生活だと、本当はできることも家ではやらない子になってしまうと思います。

＜継続・長期的視点・根気＞

●すぐに成果が目に見えるものではないし、時間も取られます。なので、定期的に通うとなると保護者の負担が増えますが、長い目で見ると成長し、楽になっています。これはなかなか家庭ではできない経験もあるので、利用したからだと思います。

＜家族の理解・協力＞

●理解ある先生や、指導者。または、身近な存在で同じような悩みを持っているお母さんたちに療育への理解ができるよう話を聞いたり説明したりできると成功すると思います。私は悪かった点はありませんでしたが、一番は家族の理解だと思います。家族の理解度で悪くもなり良くもなると考えています。

3 章 調査結果の総括と考察

第1章では、療育施設の選択肢が増える一方で、保護者が選択に迷うこととなり、我が子に最適な施設を見つけることが困難になっている現状を述べました。今回の調査結果は、その中で療育施設を実際に利用された保護者が何を基準とし、どのような体験を経てきたのかを示すものになりました。そこで浮かび上がってきたのは、施設選びの実態と、療育が「子ども」と「保護者」、双方に大きな影響をもたらしているという現実です。

1. 施設選びの指針

「何を基準に施設を選んだか」という問いに対し、回答は「場所の近さ」「送迎の有無」といった物理的な条件から、「施設の雰囲気」「先生の人柄」といった感覚的なもの、さらには「個別か集団か」「専門プログラムの有無」といった療育内容まで、極めて多岐にわたりました。これは、各家庭が置かれた状況や子どもの特性によって、優先順位が異なることを示しています。一方で、「地域に選択肢がなかった」という声も存在し、療育の地域差という課題が浮き彫りになりました。

この状況に対し、本調査の回答からは、療育を成功させるための共通した要素が見

えてきます。それは、専門的なプログラム以上に、子どもが「安心できる」と感じられる支援者や環境、保護者が「何でも相談できる」と思える支援者との信頼関係の構築です。

2. 療育がもたらす二つの変化「子どもの成長」と「保護者の安心」

今回の調査で最も心を打つのは、療育がもたらした変化に関する記述です。「言葉が増えた」「他害がなくなった」「気持ちを伝えられるようになった」といった子どもの具体的な成長は、保護者にとって何よりの喜びであり、療育が持つ専門的な支援の力を明確に示しています。

しかし、それと同時に、あるいはそれ以上に注目すべきは、保護者自身の内面的な変化です。「相談できる人がみつき、気持ちの持ちようが全然違う」「親の私も助けられている」「味方がいるというだけで強くなれた気がします」。これらの声は、療育施設が単に子どもを支援する場所ではなく、社会的に孤立しがちな保護者の心を支える、重要なセーフティネットとして機能している現実を明らかにしました。専門家からの具体的なアドバイスは育児への自信を与え、他の保護者との交流は孤独感を和らげてく

れます。そして「子どものため」に始めた療育が、結果として「保護者のため」にもなり、家庭全体の雰囲気好転させていくことにつながります。この好循環こそ、療育が持つ非常に大きな価値であると言えるでしょう。

3. 調査から浮かび上がる、社会が取り組むべき課題

皆様の声は、社会が取り組むべき課題も示しています。

第一に、「連携の重要性」です。「施設と家庭、そして幼稚園や学校が連携することで効果がさらに出てくる」という声は、療育を一過性の「点」の支援で終わらせず、子どもの生活全体を支える「面」の支援へと発展させる必要性を示しています。

第二に、「支援の質の担保」です。「親身になってくれる」「子どものできないことより、できることを見てくれる」という声が成功体験と結びついている一方で、施設による考え方やスタッフのスキルの差も垣間見えました。保護者が安心して子どもを託せるよう、施設側は常に利用者の声に耳を傾け、サービスの質を向上させていく必要があることも明確になりました。

今回の調査は、療育施設が発達に特性のある子どもと家族にとって、非常に重要な役割を担っていることを明らかにしました。

この役割を必要とするすべての家庭に届けること。それが、私たちに課せられた使命です。人間力認定協会は、これからも保護者と施設、双方の「生の声」を発信し続けることで、両者を繋ぐ架け橋となり、療育業界全体の質の向上に貢献していく所存です。

4 章 アンケート自由記述のご紹介

本章では、アンケート調査にご協力いただいた皆様から寄せられた貴重なご意見を、一つひとつご紹介します。

本報告書を作成するにあたり、私たちは「いただいたご意見は原則としてすべて掲載する」という方針を基本といたしました。皆様から寄せられた一つひとつの体験談こそが、本調査の根幹をなす最も価値ある情報源であると考えたためです。

しかしながら、全てをそのまま掲載することにより、いくつかの課題が生じることも事実です。まず、全く同じ趣旨のご意見が多数寄せられた場合、それらを全て掲載することがかえって論点を分かりにくくしてしまう可能性がございます。また、極めて個人的な内容を含み、個人が特定されかねないと私たちが判断した一部のご意見については、プライバシー保護の観点から掲載を差し控えるべきであると考えました。

こうした編集上の配慮から、いただいたご意見の大部分を掲載するという形をとらせていただきました。これにより、皆様から寄せられた多様な視点や論点をほぼ網羅しつつ、報告書としての読みやすさも両立できるものと考えております。

ここに紹介する一つひとつの声が、発達障害のあるお子様とそのご家族が向き合う現実であり、喜び、改善への期待、そして深い葛藤といった決して省略されてはならない「生の声」であることに間違いありません。これらの貴重なご意見を原文のままにお届けすることこそが、本調査の価値を最大限に高め、今後のさらなる研究の礎となると確信しております。

読者の皆様が、ご自身の関心に応じて多様なご意見を比較検討しやすいよう、設問ごとに回答をまとめて掲載しております。

Q4. 療育施設を利用するに至った理由

- 私が放課後等デイサービスに勤めており、一人で留守番をさせる事が難しいので利用をさせました。
- 保育園でお友達とのコミュニケーションがうまくいかず押したりがあったので療育を進められました。
- 最初に診断がおりたとき、ショックでした。医師からは治るものじゃないと言われ絶望的になったのを覚えています。その後、自分なりにネットや本でいろいろ調べ、医師を見返したいという負けん気からその病院で行われている OT、通えそうな所に片っ端から電話してお願いできた ST の二ヶ所をとりあえず通いました。その後、数カ所のデイサービスにも通っています。
- 新規場面が苦手で場面緘黙やコミュニケーションの困難さを抱えており、幼稚園入園が難しかったため。
- 幼稚園での他害と、3 歳児検診でまの多動で療育センターを紹介されたのでその後、療育に力を入れたくて、民間も増やしました。
- 2 歳になっても初語がなかったので保育園から市役所の相談できるところを紹介されて、そこで療育センターの存在を知り行くこととなりました。ST です。早期療育を勧められたり、言葉の教室のようなものと聞いてためしに行ってみようという感じでした。
- 1 歳半検診で、明らかに一人だけ動きが激しく同じ行動ができていなかったことで、保健師さんから療育にいったらどうかと言葉をかけられました。最初は、大丈夫。と自分や夫も行くことを拒否していましたが、やはり行動は破天荒なものでした。一回行ってみよう。という気持ちになり、最初の予約をしました。その後、止まれの練習や回りと合わせる療育など行っていくうちに、少しずつ進歩が表れ、勝手に外に出ていくことも少なくなってきました。
- 出生後入院していて、通院も終わるかと言うときに主治医の先生から話があって、思っていたこと不安な事をすべて質問しました。6 歳頃になるとはっきり発達障害がわかってきますが、それまでに見つけてあげるのが私達医師の仕事です。今から療育を受けてもし何も障害がなければ良いことだし療育も無駄ではない。もし障害があったとして小学校までの 3 年間でやってきたことは子供達に取って差は大きいと言われて療育を決めました。個別療育で 40 分座って療育が受けられるほど成長しました。今は支援学校 4 年生です。療育をきっかけに講演を聞いたり先輩ママたちからの話はなしを聞いたり色々考えも変わりました。専門の方からも話をしてもらい、視野が広がったこと、何よりも発達障害は子供達十人十色で出来ることも出来ないことも違っていると言うことに気が付けたのは良かったことです。人と比較は出来ない事。色々な勉強のものを作ってみたりやってみたり買ってみたりしても、今この子には適さない時期だから他のことをしてみよう、良さそうなことは試してみて合わなければ合いそうな時まで待とうと心のゆとりが出来ました。療育のときははじめは一緒に部屋で見ましたが段々と一人で入るようになり支援士さんがやっているようにやればこうなっていくんだと参考になりました。実母や義両親、1 番わかってほしい夫。なかなか理解してくれない場合や反対する場合もあるみたいだけど、小さい時の療育はかもしれないからやってみよう！習い事を感じ。で家に帰ってこれができるようになった、楽しそうにやってるなどプラスなことのみ自分が楽しく嬉しく話すことが理解への一歩だと思います。
- 2 歳半まで発語がなく、受診した療育センターで自閉スペクトラム症と診断されたので。幼稚園に入るまでに少しでも入園後の困りごとを減らすことが出来ればいいなと思い利用を始めました。

Q4. 療育施設を利用するに至った理由

- 指差しや非言語のコミュニケーションはできるが、言葉がでない偏食や着る物などへのこだわり急な変更への対応が苦手など3歳頃の息子は、たくさんの困りがみられ、地域の保育園では、30人ほどの学級に担任2人のところ、10人を2.3人の保育士で見てもらえる療育施設で、息子がいろんな場面で自信をなくさないように、じっくりと関わってくださるので、行かせることにしました。
- 発達に心配があり、自治体の母子で通う1時間の療育に週2回通っていましたが、就園を見据えてもっと療育の機会を増やしたいと思いました。その時にママ友さんから民間の療育施設を利用できることを教えていただき、早速施設探しと手続きを始めました。息子は人見知りが激しく母親と離れることが苦手なタイプだったので、母子通園も認めてくれる施設に決めました。
- 0歳から市の発達相談には通っており、年少になるタイミングでもっと回数を増やしたり、具体的な子供のためになるアプローチ方法を学ぼうかと悩んでいると、今の療育施設を市からも勧めていただきました。そして、見学した際に施設の子供へのアプローチ方法に感動して、入れてあげたいと思いました。
- 保育園で周りの子との差が激しいことを自覚したのがきっかけです。3歳までには療育を進めたいと思い、療育手帳を発行しました。
- 保育園で他の子はお友だちと遊んでいるのに、自分の子どもは一人で過ごしている事が多かった事から担任の先生にお話を伺ったところ、「集団行動について行けていない」という事を知る。それを機に市の発達センターに相談し、3か月間隔週での療育による施設利用が始まった。その後、定期的に通うことを希望していたが多数の応募があり、落選。別の療育センターの存在を知り、HP等で調べ、2か月ほど待って、そこに通う事にした。
- 落ち着きがない2歳の息子だなとは思っていたが、託児所で何気なく先生に「2歳児はこんな落ち着きないものですかね?」と聞いてみると、「疑わしいです。一度児童館に行って他の子との関わり方を見てきてください」と話があり、とても私自身が神経質になったから。
- 一時保育などを利用した際に、あまりにも他児との差があり、本人の困り感が強かったので。ゴールが幼稚園入園や小学校入学ではなく、将来的に困らず生活できるようになること!だったので。それまでは幼稚園などと並行なども考えましたが、週5で通う選択をしました。
- 結婚がきっかけで仕事を離れ二人の子どもを授かり年子の長女(高1)と長男(中3)を育てています二人ともに発達が遅いことを不安に思い保健所に相談し保健師さんに区の保健所で行われている療育センターの先生が来てくれる親子教室に通うことを勧められましたその療育センターの先生に発達検査を勧められたのがきっかけです。
- 0歳の時から支援センターなどに連れて行っていましたが決められた場所から出て行ってしまったりと多動で追いかけて回すことに疲れてしまい行くのを辞めてしまいました。寝つきも悪く毎日何時間もかかって朝も早起き…痛癢も酷く私自身疲れきっていました。市の保健師相談にも何度も相談しましたが「男の子だし普通よ!昼間沢山公園で遊ばせてあげて」とアドバイス頂きましたが…。息子が2歳を過ぎ私が2人目を妊娠した頃には夜驚症も始まり遂に限界が来てしまい泣きながら市の保健師相談に電話しました。そこでやっと療育施設の存在を教えて貰い電話をしました。相談をしに行った時には今までの息子との話を聞いて貰い全てを受け入れてくれたことに安心感を感じお願いすることに決めました。

Q4. 療育施設を利用するに至った理由

●3歳前に病気を発症。それまでは、発達に問題なく保育園に通っていた。発症後は0歳に戻り、身体、知的共に障害が残り療育に切り替えることになった。

●児相に相談し、紹介された施設に見学に行きました。仕事の関係と母体になる園との関係で土曜日を希望しました。母体になる園は月曜から金曜、しっかりと行けるように習慣づけたいと思いがあったのと園長先生も園生活も大事なので、可能なら平日は慣れたお友達と一緒に過ごすことも必要だと思います。との考えを聞いたのも土曜日に通うきっかけになりました。今、お世話になってる療育施設は見学に行った時から子供が楽しんでいて、少しの時間なのに子供の得意、不得意を知り、過ごしてくれたのも大きな決め手でした。声掛けも否定的な言葉ではなく、肯定的な言葉が多く勉強になりました。

●保育園から、切り替えができないと相談され、私達親も切り替えができない、一番になりたがったり、お友達にゆずれずパニックになることを悩んでいた。後は皮膚過敏により水着をいやがりパニックになる当時あった。相談→発達検査をし、凸凹があり、療育センターを進められ、見学ののち使用してみることにしました。

●クレーン現象、視線が合わない、指差ししない、言葉の遅滞（3歳で一語文）エコラリア等ありました。健診や保健師からは、「お母さんはそう思うのね」と言われながら、市の教室に悶々としながら通っていました。3歳になり、集団生活を考えて幼稚園の申請をしていました。しかし、その同時期に引っ越すと、その市の保健師から療育施設への見学の声をかけられ今なら入園申請に間に合うと言われました。勿論、見学もしました。

●息子が1歳頃から、目が合わないことに気付き、2つ上の娘とは違う何かを感じ、病院での発達相談を何回も受けました。2歳になり、言葉が全く出ない事やクレーン現象、人に興味を持たない等、自閉傾向が強く見られるようになってきたので、利用を決めました。小児科の先生に障害のある子供たちの幼児期の1年の遅れは、普通の子に置きかえると3年の遅れと一緒に。少しでも思い当たる事があるなら悩んでないですぐ動いて。と言われた事が、最終的な決定打でした。

●1歳過ぎて一時出ていた言葉が消失、それからなかなか二語文を話さず2歳を過ぎました。自分の名前を呼ばれても反応なく、目の前に人がいてもその人と視線を合わせない、言葉が増えないので市の健康診断の度に保健師さんに相談していて、療育施設の利用を紹介されてから利用するようになりました。

●昔から息子と生活する中で、この子何かあるんじゃないかと思ってはいましたが検診で引っかかることもなく過ごし、幼稚園に入園してから場面緘黙の症状が強く出るようになりました。それから療育を意識し始め、発達センターや児童精神科の予約を取りました。そして受診日までにいくつか療育の見学と体験をさせてもらい、仮予約を押さえました。息子のことで動き出してから4ヶ月後に発達センター、その翌月には児童精神科へ受診することができ、その時点で息子はアスペルガー（今はこの言い方はしませんが）だろうと確信をしていましたので、早めに診断をもらい私がきちんと理解して、周りにも理解してもらい支援を受けることで本人の未来が明るいものになるのではないかと考え、医師に診断がつくものなら、早めにもraitたいと伝えました。私の思いや息子の困り感を考え、精神科の1度目の受診で診断をもらうことになり（IQが高いASD、チック、場面緘黙の診断書）その後発達センターで発達検査を受けました。その後に診断書を持って市役所へ行き、受給者証の申請を済ませて仮予約していた中から私と息子に合うと思った施設に決め、契約しました。通い始めたのは、幼稚園入園から一年後（動きだしてから約10ヶ月です。）

Q4. 療育施設を利用するに至った理由

- 早生まれのため幼いな。(言葉、行動含め)と、上の子と比べて感じていました。家族で出かけた際切り替えの難しさ(イレギュラー)、偏食、こだわり諸々が気になり区の幼児相談へ。そこで簡易発達検査を行い、IQ87ではあるがグレーであると言われ、このまま幼児相談を継続するか、専門機関へ行くか委ねると言われました。私は元々保育士なので、特性のあるお子さんの生きにくさを感じている側の人間という事もあり、抵抗なく、では専門機関へ行きます。とその場で決めました。半年待ち専門機関での発達検査で、この子に起こりうる今後の見通し(就学後どんなことが予測されるか)の話を聞き、就学時のクラスもそうですが、今この子にできることはなんなのか?と考えた時には通所利用を決めていました。今までのやり取りの中で、不快になることはなく、むしろそんなに手厚くしてくれるの?寄り添ってもらえるの?私の悩みも聞いてくれるの?と言った具合で、利用することの安心感。そういう場なので迷うことなく決めていました。これは子だけではなく親にとってもです。
- 小さい頃よりかんしゃくや思い込み、こだわりがあり気になっていたが保育園(年少)の保育参観で活動中にも関わらず興味のある外をみていたり、先生の話をお聞きせず先に自分のやりたいようにやっていたため気になり先生と面談すると興味がないと部屋からでたりすることを聞いたため発達相談に行き療育の先生より本人の特性を知り関わるというがこのままいけば無駄に怒られる子になると思うという言葉で決断しました。
- 自閉スペクトラム症とわかり、市役所で療育手帳発行した際、役所の人の言われる通りにしました。
- 私自身保育園に携わる仕事(保育士ではない)ため、我が子の発達に異変を感じていました。保育所に通っていて、当時2歳児クラスの担任に相談すると「少し発達が遅い、まわりの同年齢の子より幼い」等、日々の姿を聞きました。同じ頃に3歳児健診があったため、そこで簡易的な発達検査を行いました。発達において極端にできない部分もある、という結果となったため、発達支援センターに本格的に検査を行ったところやはり同じ結果となりました。そして療育のこと、加配保育のことを聞き、我が子のためにはこれらが必要と感じ利用することを決意しました。
- 3歳児健診で言葉の遅れ、身体動作の遅れで療育施設を紹介していただきました。市から社会福祉士の方を紹介していただき、療育施設を紹介していただきました。4歳児でありながら、たくさんの大人の方にサポートしていただいていることは本当に心強いです。発達遅滞と診断されなければ、この出会いはなかったと思うプラスに捉えています。
- 何か他の子と違うと感じながら過ごしていましたが、幼稚園に入園時に確信に変わりました。3歳半検診では、保健師さんには何も言われませんでしたでしたが、発育相談を受けたりカウンセラーさんに相談したりで、行き着いたのは発達支援の窓口でした。勿論抵抗が無かったわけではありませんが、昔に比べて差別のような扱いは受けず、幸い児童発達支援サービスを受けていたと言う知り合いの方からの話で、支援を受けたほうが子どもにとっても理解して貰える事が増えるので、利用を始め、3年目になります。まだまだ手を焼く時もありますが、昨年受講しました児童発達支援士のおかげで、療育の先生方の話も理解が深まりました。
- 自閉スペクトラム症の子を持つ姉が息子の様子を見た際、早期療育を受けたほうが良いとアドバイスをしてくれたため。
- 3歳半検診で引っ掛かり、希望していた幼稚園で断られ悩んでいました。公立保育園の地域担当の先生に相談したところ、「大人から見たらそんなに変わらないと思っても、子ども達は敏感に感じ取る。小さい内はいいが、年長ぐらいになると、自分達とは少し違うと言う事でイジメに繋がる事がある」と言われ、療育施設を利用する決心

Q4. 療育施設を利用するに至った理由

がついた。

- 下の子を妊娠中から赤ちゃん返りが始まり、産まれてからは問題行動が目立っていたのと、言葉の発達が遅くコミュニケーション面の心配があった。幼稚園の年少の頃、ずっと悩んでいたのでキンダーカウンセリングを受けた際に、療育を受けるという方法もあると言われて初めて療育の存在を知り、すぐに手続きの方法とかを調べて手続きし、療育に通い始めた。
- 気になることが視界に入ると、集中力が途切れてしまい、すぐに動いてしまうので、少人数での手厚い支援が必要と判断しました。
- 幼稚園を入園する前に面談があり、その際に園長より発達に関する指摘があり行政の児童発達についての相談をして、幼稚園に通うと平行して療育施設にも通いました。1時間半(フィードバック込み)の療育です。母子分離が厳しく幼稚園に慣れず、これ以上本人に負担をかけるのを考え直し、1か月後に退園し通っていた療育施設に週4で通ってました。
- 就学に向けての準備やコミュニケーション力を付けてほしくて。
- 年中の終わりの頃に、チック症、むずむず脚症候群、睡眠障害等の複数症状が現れる。登園拒否。一年で半分も登園していませんでした。もともと多動傾向にあると思っていたことからクリニックを受診。ADHDと軽度の自閉傾向を指摘。登園拒否もあり、相談したところ一回でも多く療育を受ける方が良いと、年長さんの一年は特に大切であるとアドバイスを受けました。
- 小学校に入るのに練習をしてあげた方がいいと医師に勧められたから。
- 公的な施設による療育は、内容が良いのに、通える日数がとてもすくなかった。・保育園に置いてあったパンフレットを参考にした。・ホームページなどを参考にした。・知り合いからの評判を参考にした。・学校の支援学級での自立活動では、不十分だと感じた。・療育を受けることで、専門家からの具体的なアドバイスを受ける事ができた。
- 幼稚園の同じクラスに支援の子がいて、デイのことを知った。その子のお母さんから療育を受けて落ち着いたという話を聞いて、体験してみました。
- 早産児で発達の遅れはあったが年中の頃より伝わりにくさなどで育児に行き詰まりを感じ療育に相談したことがきっかけです。
- 落ち着きがなく手先も不器用で就学前に不安を覚えたから。
- 精神科の先生に勧められたから。・転居したばかりで友達が居なく、友達作りの場になると思ったから。
- 運動能力やコミュニケーション能力が低いため、学校だけでは追いつかない部分を見てもらえるため。兄弟がいるため、本人中心で家庭での指導が難しいため。通うクリニックでも勧められた。

Q4. 療育施設を利用するに至った理由

- 児童精神科の医師の勧め。学童保育で怒られてばかりいた。
- 長男、2次障害(自傷行為)で発達障害に気付きました次男、てんかん発作があり手術後発作はないものの、右半身麻痺が残り運動が苦手。(筋緊張有り)術前、てんかんの重積発作で正常成長の子より知的発達が少し遅れていた為、年長よりST、PT、OT、療育を年中から現在小3も通わせてます。三男、何も診断はついてませんが2歳になる前から現在年長幼稚園と併用で療育に週一通ってます。
- 小学校に入ってから、できないことが増えて、不登校になり、心療内科を受診したところ自閉症スペクトラムと診断されました。2年生の10月から支援学級に在席して、今は4年生になり、1日支援学級ですごしています。支援学級では、常に年上の子と同じクラスになるので、同世代の子供とも関わりがもてたらいいなと思った事と、苦手な事が多いので専門の方の力を借りようと思いました。放課後の預かりを目的ではなく、出来る事が増えたらいいなと思い通わせる事にしました。
- 小学2年生のとき 学級崩壊になったころ息子の問題行動がでてきました。学校からの脱走、友達とのトラブル、他害行為など2年生の終わりには、学校に行きたくないと言いました。不登校になると、家だけの生活になり私が(母親)辛くなると思ったのと、息子も成長出来ないと思い療育施設を探しました。
- 5歳児検診で始めて指摘されて市の保健師さんに療育を勧められました。それでも支援員さんを探すのは何ヶ月待ちや新規は請け負ってないところばかりでしたが縁があり紹介して頂きトントン拍子で決まりました。IQが1歳ほど遅れてるので就学に向けて利用したいと思いました。
- 園での他害が続いていたため。
- 1歳を過ぎた頃から、成長がゆっくりだと感じており、1歳半検診の際に相談。しばらく様子をみるも、その後の経過相談でも、発語・指差しが全く出でず、自治体からの勧めで、区の発達支援センターへ入所。2～3歳の1年間、週2回親子通所で療育を受けました。そこで小児神経科の先生から、全体的な発達の遅れは新生児仮死による影響だと教えて頂き、PTリハビリも開始。その後、幼稚園入園に伴い、週1回の民間療育へ切り替えました。現在は、週4回幼稚園・週1回民間療育・隔週でPTリハビリ・隔週でSTリハビリに通っています。
- 言葉が遅く、話していることも理解していないと感じることが多く、コミュニケーションのキャッチボールがほぼ成り立たずイヤイヤ期なこともあり、悩んでいました。育児相談窓口から臨床心理士さんに診てもらうことになり、一度目安として発達検査を勧められ、受けたところ、療育施設というものがあることを知り年少の春から通わせました。
- 保育園が子供の発達障害について他の子と同じような保育はできるが、それ以上のことはできないと言われたため。
- 個別療育)乳幼児健診で担当の臨床心理士に、自身の勤務先の個別指導に通うことを提案されたため。言語療法)通院していた小児科担当医より紹介を受けたため。
- 小学校の敷地内にある学童に通う事が日々難しくなり、仕事中によく電話がかかって来てました。診断されてから、

Q4. 療育施設を利用するに至った理由

学童は本人にとってキツイ環境だと知りました。知識のない学童の先生や、周りの子にも迷惑をかけていた事も心苦しい状態でした。いろんな心配の中、学童に通わせるより他にないかとスクールソーシャルワーカーと通院中の病院の先生に相談した結果、放課後デイサービスに行く事を決めました。

●1歳半健診で発語がなく、できないことが多かったため、2歳になった時、個別面談を受けました。その時、とても心配だと相談したら、親子教室を勧められました。その親子教室の先生に紹介されて、療育施設に通うことになりました。

●1歳半健診で引っかかり、発達支援の施設を紹介された後引っ越すことになり、引越し先の自治体の方で発達検査を受けたところ(3歳になったばかりの頃)「高機能自閉症」と言われ、次年度(4歳児の年)からその市の療育を紹介されたので利用することになりました。

●私は息子の発達の遅れを感じていましたが、夫や祖父母は遅れているとは思っていなかったようです。きっかけは3歳児検診で言葉の遅れを指摘されたとき療育を勧められ、受ける決意をしました。祖母は診断名がつくことに嫌がり療育を反対していましたが私の住んでる地域では診断名は必要なく専門家の診断があれば受けられました。

●息子が定型とは少し違うとわかってはいたけど、どのように動けば良いかわからなかった。地域の「発達支援センター」へ相談に行ったら療育を勧められ、紹介してもらった。

●年中の年からですが、愛知県にあるモンテッソーリ教育を掲げてる幼稚園に子供の状況を承知で入園させて頂いた事があります。事前に調べてみてモンテはいわば海外の療育プログラムだと思っていたのと、園の1日の流れの説明を聞いたりプレを体験したりして本人も大丈夫だと思って入れたのですが、本園の方では全然モンテッソーリ教育になっておらず普通の幼稚園の状態、先生方も普通の教師でなおかつ障害児の理解もなく、1日1時間だけの登園やイベントは何も出ない等いろいろ譲歩したのですが、先生方には障害児を知ろうとする姿勢もなく挙句忙しい時期になるからしばらくお休みして下さいと言われたのでそのまま退園しました。こんな事があり、やはりちゃんと療育とあげている所で専門の知識がある先生の所に行くべきだったと反省した事がきっかけでした。

●幼稚園卒園間近でグレーゾーンとの診断(そもそものwisk受験きっかけは、こだわりの強さとかんしゃく、吃音の矯正)。あくまでも診断名はつかないので支援級は検討不要といわれたものの、できないことにぶつかった時に学校でかんしゃくをおこしたり友だちに手が出てしまうことがあるかもしれないので気にかけてくださいと言われました。入学当時は問題なく通学していましたが、漢字の練習が始まった時に鏡文字になってしまう、図工で空想の絵が描けない、など問題発生でサポートルームにて相談を受けていたのですが、最終的に友達に手をあげてしまいサポートルーム(学外通級)を決めました。『大勢の子どもたちとの“差異”は、年齢を重ねるほど大きくなる。何か手を差し伸べるなら早いほうがいい』というカウンセラーさんのアドバイスがいちばんの決定打です。

●小学校に入ってから咳込みチック、音声チックが酷くなり、地元の病院では診てもらえず、大学病院の小児科を受診し発達障害と診断され療育施設(通級学級)に通うようになりました。

●1歳半健診の際言葉の遅れを指摘され、様子見していましたが、日常生活での様子でも明らかに遅れが見られた事や保育園の先生からも一度検査を受ける事を勧められたことがきっかけ。自宅から療育センターが子供も歩きで行ける程近かったのもきっかけです。

Q4. 療育施設を利用するに至った理由

- 未熟児で産まれて、発達、発育ともに遅れていて発達を見てもらおう為に児童相談所の小児科に通っていました。そこで発達検査を受けて、療育に行く事を進められました。
- 一歳半健診前に貧血フォロー中の主治医から言葉が遅く引っ掛かるだろうと言われていた。案の定、指さしや発語がほとんどなく経過観察に。主治医から療育施設の紹介も受けていたため相談に行き2歳を目前に利用を開始した。
- 落ち着きがなく、外出がストレスになった為。プレ幼稚園に通い周りの子との違いがはっきりとした為。
- 疾患があって産まれてきたので、発育に遅れが出ました。そのため、療育施設を利用しました。その後、学習障害も出てきて同じ年の子とコミュニケーションが取れなかったので、その療育もかねて10歳頃まで通いました。
- 我が子の育て方を教えて欲しい、という切実な気持ちでした。息子は全然寝ない子でいつも機嫌が悪く、2歳2ヶ月での診断は睡眠障害・情緒障害・知的障害疑い・自閉傾向ありでした。市の育児相談などでは話を聞いてはくれますが、気休めを言われるばかりで、どうしたら機嫌が良くなるのか具体策が見出せなかったので、一緒に子どもの現状に向き合ってくれる、親が出来ること、やるべきことを教えてくれる存在が欲しいという気持ちで利用を決めました。
- 1歳半健診で言葉(ちょっとの単語と宇宙語しかしゃべらない)でひっきり、しばらく様子見→2歳2ヶ月のとき電話で言葉の増えの確認をしたところ、保健師さんから「小児科に行ってください」と言われ小児科に行き、紹介状を書いてもらい、市の発達相談センター→発達医療センターという流れで相談に乗ってもらいました。発達医療センターで発達検査をしたところ自閉スペクトラム症の診断が出たので療育に通いましょうという話になりました。
- グレーゾーンで、何か他の子と違うなと直感的にと思っていた事をはっきりさせて、息子に合ったより良い支援に繋がらなかったのを通うことに決めました。幼稚園を不登園になり、児童発達支援施設に通うことにしました。
- 通っている保育園の園長先生と担任の先生から一度、市の発達相談を受けてみてはとの打診があり、受けた結果利用した方が良かったと思った。
- 療育の基本は家庭生活にあるものの、専門先生からのご指導を受けることができ、個別や集団それぞれの課題も見えてくるので、利用を希望しました。
- 第1子言葉の出が早く、パーソナルスペースを守るために他害があったため。第2子言葉の出が遅いため。
- 自分だけでは療育をするのは難しく、専門の先生方がいる所での療育を受け、私自身もしっかり学びたいと思ったのがきっかけとなりました。
- 手をあげそうなくらい子供を見ていてイライラするため。手をあげないために適度な距離が欲しくて利用しました。

Q4. 療育施設を利用するに至った理由

- こだわり、ことばの発達や体幹が弱いことが気になった（横目で走る、言葉が遅くやりとりがしにくい、走り方が不安定）ため。
- 発達の主治医からの提案で福祉型の児童発達支援センターへ通った方が良いと言われた為。
- プレ幼稚園の入園をする予定だった幼稚園に、息子の発達の遅れを指摘されて入園を断られ、役所に相談したところ今通っている集団療育施設を紹介していただいた。幼稚園みたいな所だと聞いたのと、少しでも他の子供達との関われる機会があれば良いなと思い、今年の4月から通い始めました。こちらでの生活が落ち着いてきたので、今年の10月から新たに個別療育に通い出しました。先に通っていた集団療育では、特に専門的な指導やアドバイスをしてくれるわけではなく、小さな集団で過ごして幼稚園入園までに自信をつける事が目的の所だったので次は息子の状態に合わせて療育してくれる所を探しました。
- 自閉スペクトラム症と診断されていたが、療育は入園してから様子を見て決めようと思っていた。入園してから運動会がありリレーを走る事や他の競技が困難だった。焦って療育機関へ相談したが空きがなく次年度からの利用開始になった。
- 幼稚園の年中、集団活動に入れなくなりトラブルも増加、担任の先生からは丁寧に話をしていただき、何より両親ともにこの目で園での様子をみて納得しました。先生方との信頼関係がしっかりできていたので、色々と相談しつつ勧められた施設を見学、入所しました。
- 学校で、同性の友達との関係作りがうまく行かず、学校以外で友達作りや異年齢児との関わり合いが持てると良いと考えたから。また、3年生までで学童ルームの利用を終了するというのも利用する決め手となった。
- 感覚統合運動を市の支援センターで受けていて、よかったのですが、半年くらいしか見ていただけなかったので、よく似た感じの療育施設を探して通わせることにしました。
- 元々早産で発達面の遅れは気になっていたが、次男が生まれる前から、癇癪が酷かった。発達検査を受けて、発達障害がある事が分かった。小学校に入るまでに出来ることはないか考えた時に、療育が思い浮かんだ。
- 幼稚園の年長になっても集団行動が出来ず、固まっている。運動会では棒立ちのままで、頑なに参加を拒否していました。他にも、他害してしまい毎日幼稚園から電話がくるようになったので。あとは、もともと病院のOTを利用していたのですが担当の方と親子で相性があまりよくなく、いつやめても大丈夫なようにです。
- 学校以外で、大人や友達と関わる経験や、学校以外で経験すること（レクリエーションなど）で、自信をつけたり、人と関わる良い経験を積んで欲しかったから。もし、学校がいやになった時、頼れる場所があると良いと思ったから。
- 2歳半頃から当時通っていた保育園の先生から、落ち着きがない、集中力がない、お友達とのトラブル（衝動性がきっかけによるもの）が多いと報告を受けることが増えてきたことがきっかけです。看護師という職業柄多少発達障害に対して知識もあり、我が子の発達に対してなんとなく違和感を持てはいました。日々子どもののを見てくれている先生からの報告が決定打になったと思います。それから3歳児検診で心理相談を行い、まず市の集団療育センターから利用することになりました。

Q4. 療育施設を利用するに至った理由

- 一歳になり、指差しや発語が少なかったことから通い始めた。
- 元々3歳～6歳まで療育に通っていたが、引っ越しのため利用できない期間があった。小学校に入学ししばらく様子を見ていたが、体幹の弱さや友だちとの距離感、集中力のなさを指摘され、療育に通うことに決めた。
- 一歳半健診で上の子よりも発語が遅く、半年後の二歳健診で市のクローズのサークルに通い始めました。臨床心理士の先生が来る日は保護者が心理士さんを囲んで最近の子どものエピソードを話します。その時話した内容で心理士さんに検査をしようと言われ検査。この子にはクローズのサークルでは足りないということになり、市の保健師さんに療育先を紹介してもらい入所しました。
- 小さいときから一つ失敗などすると長い間泣き続けたりすることがあり、何度か相談等もしていましたが今のところ問題は無いだろうと言われていました。発達支援センター等にも相談に行きましたが個別では問題ないとのこと。新しい保育園での生活が始まり、新しい環境のせいかな…と思ってはいたものの、市の保育園の訪問が有念のためみていただいたところ療育を受けた方が本人も少し楽になるかもしれないと言われた。早いほうが良いと思っていたし、「習い事」だともって行っただけで大丈夫ですよ！という後押しがあって利用を決定した。
- 発語がほぼ無く、周りが言っていることの理解があまり出来ておらずコミュニケーションが難しかったので、言葉を話せるようになってもらいたいと思い、療育施設に通うことにしました。(療育施設に通い始めた後、発達の病院で"" 自閉症まではいかない、自閉傾向あり "" と診断をされました。)
- 学校で担任の先生と合わず色々な不安から落ち着かず暴れてしまうことが多くなり発達障害が判明。よくわからずどこに相談したらいいかもわからない状態で療育の存在を知る。身近なお友達が勤めていたところへ紹介してもらう。
- 自閉スペクトラム症を疑っていましたが、どこへ相談すれば良いか分からず3歳児健診を迎えました。その際に、療育センターへ紹介され、療育センターで児童発達支援教室と言う施設を教えてもらいました。療育センターで自閉スペクトラム症の診断がつけました。少人数縦割り保育の認可外保育園に通っていた為、特に問題なく過ごしていたのですが、正式に自閉スペクトラム症の診断がついたので今後の相談も含めて療育施設に通う事を決めました。
- 生後7か月の時に心不全が発覚し半年間入院生活をしていました。入院前は5つ上の姉との関わりや大好きなミッキーをテレビで見て体を揺らしたりあやせば笑う子でした。入院中にだんだんと目があいずらくなり、真似っこをしたり音楽をきいても体を揺らすこともだんだん減りました。あれ？と思いましたが入院のストレスや点滴での腕の拘束など色々普通では経験しない事をしているからだろうと話していました。栄養チューブや酸素療法での影響で嚥下も上手ではなくSTさん、PTさん、OTさんを入れてもらっても全てがなかなか進まずでした。退院後はコロナ真っ只中なので自宅で過ごす毎日で、心不全の悪化を恐れ保育園はもちろん子供が多い場所などはNGでした。おもちゃで遊ぶというよりはじっと出来ずに家中走り回ってます。手先も不器用でスプーンもまだ使えず、砂場などは極度に嫌がります。コップやオムツなど毎日使う物への理解もありません。退院後も病院でのリハビリをしていましたが、療育園で専門に見てもらいたいと私自身が希望し2歳の時に病院でのリハビリから療育園でのリハビリに切り替えました。こだわりの強さ、感覚過敏、痙攣、多動、おもちゃの遊び方をみて、まだ集団にはいないのではっきりは言えないが自閉スペクトラム症の疑いがあると言われていました。心不全が落ち着いてきた今、いきなり大人数の保育園に行くよりは小規模のデイサービスからならと3月から週二回デイサービスに通い、月に

Q4. 療育施設を利用するに至った理由

一度リハビリ、3ヶ月に一度療育園での診察があります。

●1.5歳検診の際、知的遅滞と診断され、保健師の方に紹介されて、通うようになりました。

●よちよち歩きが始まると、公園などでお友達とのトラブルが続き、外に出ると、謝らない日はない程でした。具体的には言葉より先にすぐ手が出ると言うものでした。その他、水がぐるぐる流れていくお風呂の排水口を夢中で眺める、どれほど工夫しても夜12時まで寝ない、ショッピングセンターなどですぐ迷子になる、弟に対して攻撃性がひどい、などの理由で療育施設を探しました。

●多動がひどく、言葉も話せなくて、どうしていいのか困っていた時に、療育センターの方から放課後デイサービスの事を教えてもらいました。

●市が実施している一歳半検診で発語がないことを相談し、その後半年置きに電話で経過観察をして頂いていました。2歳半頃もまだ発語が見られず、療育という施設があると教えて頂き利用に至りました。

●子どもが生まれた時から育てにくさを感じていたが、第一子だったのと、発達障害の知識がなかったため、分らなかった。3歳の時に幼稚園に入ったことで、園の先生(発達障害に詳しい第三者)から見ても問題があると思われたようで、市の発達相談に行くようアドバイスされた。市の相談では、療育センター受診を勧められ、療育センターで、心理の個別相談と、作業療法を受けることになった。発達障害について知り、育てにくさは自分の育て方のせいでは無かったというホッとした気持ちと、療育に通って障害者というレッテルを貼ってしまうのではないかと、迷いがあった。しかし、早期療育の大切さや、大人が周囲の目を気にして何もしないでいても、いずれ困るのはこの子自身で、大人の都合や周囲の目を気にするよりも、子ども自身の利益になる方を優先しようと思ったため。

●ことばも遅く、名前を呼んでも振り向かない、好きなアニメはテレビのボリュームも大きくして試していたため、耳が聞こえないのかと思い3歳児検診でも相談したが静かな所だと聞こえてるから様子見まじょうといわれました。子育てサークルで、一緒だったお母さんからの紹介でことばの教室へ問い合わせをしました。面談をして、療育が必要とのことで通級することになりました。

●最初は、自分の足で動けるようになってきた頃から、とにかく一瞬も目が離せないような子でした。公園やお買い物に行くにも、1人で連れていくのが憂鬱になるほどです。初めての公園ではまず出入り口の確認(道路へ出ていってしまいかねないから)、広すぎる公園ではもう、呼んでも戻ってこない、行きっぱなしになる子を、安全確保する為には、ひたすら走って追っかける日々。お買い物に出かける時には、必ずリストを準備して必要な物だけを短時間で買いに行きました。カートに乗るのを嫌がる、手を繋ぐのも離せ離せと嫌がる子を連れて、物の吟味なんて、とても出来ませんでした。お買物の難関は、お会計です。今にも動き出す息子を両足でガードしながら、お財布を出してお支払。その後は袋詰めも待っています。毎回全てが終わって車に乗り込んだ頃には、もうぐったりでした。最終的に、保険センターでの2歳の定期検診の際に、療育をすすめられて、今に至ります。周りの親族からは療育に理解が得られなかったのが、色々な事を言われてきました。でも、何かが違うという違和感というか、どうしても譲れないものがありました。母親の直感のような、今では、あの頃とんでもなくきつかったけど、療育の場を子供に与えられて本当に良かったと、心から思っています。

●保育園でお友達に手を出してしまうことがあった。遊びの場などでも友達に手を出してしまうことがあり、保育

Q4. 療育施設を利用するに至った理由

士さんに心理相談してみるよう勧められたことがきっかけ。その後、発達検査を受け療育をすすめられた。

●三歳の誕生日を迎えても、発語がない状態でした。私は「今から喋れるようになるだろうな」と期待していました。小児科に予防接種を受けに行ったときに小児科の先生から「一度療育センターで話を聞いてみたらどうか」と言われ、その時に「言葉が遅いのか、」と思うようになりました。療育センターのスタッフさんからも「発語が遅いのは気になりますね」となり、発達検査を行い、自閉スペクトラム症の診断を受けました。療育センターで半年ほど集団療育に参加したりしました。その後は民間療育の教室を見学し、現在通っている教室で今も頑張っています。療育施設を利用することにした理由は、「子と喧嘩してみたい」「子の声を聞いてみたい」と思ったからです。話すことができなくて、会話してみたかったからです。その当時は「あっ、あっ」や指差ししかできなかったもので、会話することに慣れていました。それと、話してくれることで子の思いが伝わる嬉しさも感じたかったからです。

●私は現在、就労支援 A 型事業所で精神保健福祉士として、営業に携わっています。合間に利用者さんの相談にも携わらせて頂いております。その中で、発達障害で苦しまれている方があまりにも多く、今回勉強の意味で受験させて頂きました。更なる努力をしまして、人の役に立っていける人になって参ります。

Q5. 療育施設選びで意識したポイント

- 学校のお勉強も見てくれて ソーシャルスキルトレーニングも兼ねていること。子供が伸び伸びと生活でき 楽しく学べるところ。送迎付き。
- 当該児のうえに子供がいたので、時間的に幼稚園に行っている間に可能なところ、個別。デイサービスでは、自然とふれあう場所での活動、タイピング、プログラミング、製作系など本人が楽しめることを優先 (習い事感覚に) しました。
- 個別・ペア・集団療育が可能自宅から近く通所しやすい。
- 自治体の療育センターは検診の際に紹介されたので。また、別に個別で民間の療育に行っているが、見学の際に先生が話やすいか、困りごとに対してどうアドバイスしてくれるかを意識しました。
- 田舎だったので選べるほどなかったです。一ヶ所のみでした。
- 保育士さんたちの雰囲気や、実際に見学にいった、なにをやっても温かく受け入れてくれる環境に惹かれたので選びました。あと、保育料、給食費、バス代全て無料というところも決め手です。
- 色々やってみようがあったのであまり考えなかった親が良いと思うのと子供がどう感じているのかが違うから子供が楽しそうが大切。自己肯定感をそがれてまで通う必要はないし、親が楽しく先生と話したりしているのを子供は見ているので、親が行きたくないと思うならやめて親子でスキンシップを沢山したほうがよいとおもう。
- 本人が楽しく通えるか・施設や職員の方の雰囲気がどうか・利用するにあたって通える範囲にあるか。
- 近くにあるのは、一件の療育保育園でしたので、選ぶことはしていません。
- 来年度から療育園に就園する見込みだったため、就園してからも週末や長期休暇の時などに継続して利用できる施設を選びました。また、見学に行ったときのスタッフさんの対応や、すでに利用している子供達から慕われている様子を目にして、ここなら発達がゆっくりで繊細な息子でも安心して通わせられるだろうという信頼性を重視しました。
- 子供が楽しく過ごせるかを重視。子供が苦痛ばかり強いられるような環境だと、自己肯定感が育たないため、伸び伸び過ごせるかを意識しつつ、子供にあったスモールステップで進められるカリキュラムができるかを重視しました。
- 息子に合っているかどうか。スタッフの方、施設の雰囲気。
- 両親がフルタイムの共働きの為、送迎ありで個別療育ありの場所を選びました。SST を取り組んでいる事も重要視しました。
- 療育の内容や子どもの診断や普段の様子など、親の考え含め、良く聞いて下さり、参考になるアドバイス等をして頂いている。また、保育園に通っている時に実際に保育園で過ごす様子も見学に来て下さり、今後どの様な関わ

Q5. 療育施設選びで意識したポイント

りが良いのか等も担任の先生含め、私達にアドバイスをくださった。

●当時、通える施設は2ヶ所しかなく待機待ちのない場所を選びました。

●地域の療育センターに通いました。学区(?)があったので、選択の余地はありません。それ以外に児童発達支援も利用しました。場所に慣れるのに時間がかかるので、小学校になってからも使える場所をなるべく早くに慣れて欲しかったので。

●横浜市は区ごとに療育センターが分かれていたため決められたセンターに行っていました週3か週5センターに通う通園が週1で通う短時間療育の分園を選べたので少人数で楽しく過ごせる分園を選びました。

●まだ知識の薄い私は市で勤めて下さった児童発達支援（地域では有名な大きな所）やっぱりスタッフの方達はベテランで安心しました。もう一箇所は、お友達が通っていて明らかに言葉、文字、数字の読み書きが出来るようになった児童発達支援。やっぱり通っている子のお母さんからの情報は参考になります。

●継続できるように、自宅から通える範囲で。子供の特性からして、子供とスタッフさんとの相性と環境整備ができているかは重要視しました。

●身体障害もあり、まずは身体にもアプローチしてもらえる療育施設を探した。知的は最重度で適した療育先がなかなかなかった。病院から紹介された市の運営する支援センターに通うことになった。週2回親子通園があり、子供の様子を一緒に見ながら療育を受けれること、自分自身も色々学べると思い支援センターに通う決め手になった。現在は、歩行が可能になり、仕事もしているため自閉症の子が沢山通われているデイを利用。発達にあった場所がなかなかないのが現状。ほとんどが預かり支援。現在は、放課後デイサービス。

●子供が楽しめたか。お世話になるうえで、子供にとってストレスになるのではなく、楽しめるのが必要。楽しむ中で同じ年頃の友達と遊ぶのが楽しい、と感じて欲しいと言うお母さんがいるから。

●怒られることも多いため、本人が楽しめているか？本人のペースに合わせて、支援してくれるかどうか。

●言語聴覚士の言語訓練が月に1回は必ずある。？給食がある。(コロナ前、年に1回は試食体験の日があった。美味しいし、施設内で作っているので温かい)？バスの送迎がある。？母子分離型である。？保護者はいつでも見学できて、マジックミラー越しの見学ができる。？嘱託医と看護師の常勤。？保育料が安い。(未就学児無償化前)

●住んでいる市内にはその施設しかなかったの、選べませんでした。

●自宅から近いこと、自分が仕事をしているのとお姉ちゃんが保育園を利用していたため近場を優先しました。

●施設内の雰囲気が明るい、通いやすい場所かどうか、先生方の雰囲気、下の子を連れてくることに理解がある、活動内容、息子が楽しんでいてまた行きたいと言っていた。

Q5. 療育施設選びで意識したポイント

- 見学をしてみて雰囲気が良かったのと近いところにしました。
- 全くどこがいいのかもわからなかったのですが、担当していただいた方が、療育先の内容を知ってらしたので、言われた場所を2、3箇所にしぼりました。
- 送迎の有無、利用時間、どのような療育をすすめているのか、を重視しました。仕事をしているため送迎は大事なことでした。子どもの弱いところに配慮してもらい、方向性が一緒であるところの方が発達について相談しやすいと思ったからです。
- 言葉の遅れが気になったのでマンツーマンで指導して下さるところを重視しました。
- 通える範囲であること。
- 個別と集団を両方見学と体験をしてみて、こどもには個別での療育が合っていると思ったため個別療育を選びました。あとは同じ幼稚園で通っている方がいるという施設を選びました。
- 下の子（当時1歳）と一緒に連れて行くため、家から通いやすい場所にあること。
- 子供がずっと通っていける楽しい所である事、療育施設の方が的確に相談に乗ってくれる事、目的が明確である事を重視しました。
- 扉が一つで、窓が高い位置にあったので、外に気を取られず、集中力が身に付くと思い選びました。
- 空き状況があるのでなかなか選べる状況ではありませんでしたが、本人が馴染めるか（好きか）で選びました。伸ばしてあげたい点（不得意としてるなど）をカバーできる療育を選べるといいですね。
- 幼稚園で集団生活をしていたので個別でできるところを探しました。
- 個別療育があるのか。就学に向けて個々にあった対策をしてほしかった。
- 先生との相性。年中のときに複数症状が出て発達障害が発覚したのも担任の先生と合わなかったため。
- 自宅から近くて、市内で一番有名な病院だったから。
- 子供の苦手にアプローチできる療育内容があるか。・管理者の療育に対する専門性、知識、誠実さ。・本人が、通いたいと思えるか。
- とりあえず、同年代の子の輪に入って見る。落ち着いた環境でゆっくり過ごすこと。少人数から、人に慣れてみる。

Q5. 療育施設選びで意識したポイント

- 運動療育など、施設の特徴に惹かれたから。施設にある遊具の良さ。施設全体の雰囲気。
- 毎回プリントやパズルを使用しぐるぐる描きや波線など手先を使う事で集中力をつけ、それが終わったら自由に遊ぶというメリハリがよかった。
- 年度途中だった為、まずは「障害レベルに合わせて入れる所」で給付日数分埋めた。→4 施設を並行利用していた。・カリキュラムや通いやすさも大事だが、最後は本人が合う所にした。
- 所長さんの人柄、施設の雰囲気。日々の活動報告など LINE で詳しくお知らせしてくれる。
- 同じ程度の障害の子どもと関われるか子どもの困りごとにアプローチしてくれるか頭ごなしに子供を怒らないか。
- 同じ学校の子が通っているのか、スタッフは丁寧に指導してくれるのかを重視し、コミ障だった為。
- 先生との相性が大事だと思います。私も子供も勢い良く話してくる方が苦手なので、落ち着いて話せる先生がいる所に決めました。実際、ガーっとすごい勢いで話してくる先生もいました。
- 療育施設を探したのは、8年ほど前です。うちの近くでは療育の施設が少なく、すぐ利用出来るところに行くことにしました。息子は、聴覚過敏があり友達とのトラブルもあったので個別療育にしました。息子が嫌がったら辞めさせるつもりでした。
- 仕事をしてるので園の方に送迎があるかどうかと、作業療法士が個別指導してくれるところでしたので選びました。施設によって力を入れていることが違うし、送迎がつかないところもありました。
- 預かり時間就業しているので。
- 現在通っている民間療育は、元々通っていた区の発達支援センターの先生から、子供の特性に合っていて、かつ口コミの良い施設を紹介してもらいました。実際に体験・見学に伺い、子供がとても楽しんでいたので、それが決定打です。
- 幼稚園時代は医師からの提案されたところに行ったので親の意見はなし。入学以降は他の習い事と掛け持ちになるとも考えて、家からそこまで離れていないことや、サービス内容や雰囲気なども見て、本人も連れて行き、本人の意見も聞きました。
- 本人が馴染めているかどうか、見学した時の表情で、施設の人と楽しそうに過ごせているかを重視しました。本人が通わせてから嫌だとかストレスを減らしてあげたかったからです。
- 紹介された先にそのまま通い始めたが、子どもの特性をよく見きわめて指導をしてくれた点が自分の希望とマッチしていたように思います。

Q5. 療育施設選びで意識したポイント

●近い雰囲気子供が行きたいかどうか。

●初めての放デイは、最初に見学に行くと、仲良しのお友達が居たので本人が決めました。次の放デイは、前デイと違いアットホームな感じで、本人がゆっくり出来そうな環境を重視しました。前放デイは学校の延長な感じの空間や指導で、親子で注意を受けたり嫌味を言われる事があり、ストレスになってました。

●親子療育ができる点。私自身が、子どもにどう接すれば良いのか、そのことを誰に相談すれば良いのか分からなかったため。

●息子が気に入っているかどうか。

●施設全体の雰囲気とスタッフの方の人柄。多くの時間を過ごすことになる場所が居心地の良いものであってほしいと思っていたため。

●幼稚園の失敗で1番苦しかったのが、直接指導する先生が我が子を嫌いになった事だったので、指導者がきちんと療育される人を理解しようとしているか？我が子を心で受け入れてくれるかどうかを重視しました。

●はじめは勉強面が心配で、勉強面が強い施設を探したり、預かり曜日や時間が合うか、送迎があるか、家から近い等、親目線のみで選んでいました。今ではもう少し子供の立場で探しても良かったかなと思います。最終的には、施設の理念や方針、家から近い所、利用時間、曜日で、第1希望に見学に行き、子供達の雰囲気やスタッフさんの雰囲気、本人の雰囲気で決めました。

●吃音もありましたので、話し方教室とサポートルームで迷いました。しかし、グレーゾーンであること、学外通級は欠席扱いにならないことなどから、私立や医療機関ではなく市内の小学校に設置されているサポートルームを選択しました。

●学校の授業の一環として認められている為、学校を遅刻、早退の扱いにならなかったと（通級学級）先生との相性が良かったので選びました。

●うちの子に合っていそうな所を2箇所教えてもらい、後は通いやすさと、雰囲気で選びました。

●はじめは紹介された施設であり、特になにも考えずに利用を開始した。その後、他にも事業所があることを知り、はじめのところは個別で親子通園だったが、集団療育にも魅力を感じ1ヶ月後に追加した。(子育て広場で同じく療育を受けていたお母さんに紹介してもらった。)さらに一年後、未満児での幼稚園入園を障害により拒否され、しっかりと療育を一年して年少への入園に繋がたくて追加した。当時はあまり事業所がなく、とりあえず入れるところに、入れる日数だけ、藁をもすがる思いでお願いした。幼稚園の途中でいくつか事業所が新しくでき、見学もしたが、三ヶ所の事業所と幼稚園の併用でうまくいっていたのと、新しくできた施設の実績、職員の質も未知数であったことや環境を変えたくなかったのて、そのまま卒園まで変わることなく利用を続けた。今年小学校に入学し児発から放課後デイに変更。こちらは年中のときから見学や情報収集をおこなった。三ヶ所利用している。1つは児発からの持ち上がりでスタッフや環境に慣れているところを。2つ目は塾も併設されており、デイを見越して親以外から教えてもらえる環境を整えたく年長から利用していたデイ。(個別指導で特性がありしんどくなってもデイの

Q5. 療育施設選びで意識したポイント

部屋で休憩できるエリアがあった。学校と同じ机や椅子で勉強でき、学校へ引き継ぐ課題も見えて参考になった。デイではメンバーとははじめてでもスタッフが同じでなれているためスムーズに入れた。3つ目は1つ目が幼稚園が母体であり、高学年になると物足りなさを感じる懸念があったため、低学年中心と高学年から中高層中心の2施設を持ち学年があがってもスムーズに移行できそうな施設を選んだ。

●体験の際にこども本人が楽しそうにしているか。指導員の方の接し方が丁寧であるかどうか。通う本人が先生を信頼して過ごして欲しい為。

●子供がどんなタイプでどんな1日を過ごすのが好きか、それが合ったところを探しました。うちは、放課後あるていど自由に遊べる時間があるところ、宿題も見えてくれるところを探しました。家まで送迎をしてくれるのも良かったです。

●公立の児童発達支援センターは睡眠障害と情緒障害は対象外で利用できず、主治医の先生の診療所で行う心理療法しか選択肢がありませんでした。

●通える距離、施設の職員さんの雰囲気重視シングルマザーで下にも妹がいたので市内の通える距離を重視しました。

●子供の特性を理解して、のびのびとありのままを受け入れてくれる環境であること。?同じ学年くらいの子が通っていること。(就学に向けて来年からの本人の安心感に繋がるのではと考えて)

●先生方の子供への関わり方や、専門の先生がいらっしゃることで、沢山のヒントを得ることもでき、相談もでき、安心して通えると思ったからです。

●役場と相談員さんに勧められた施設。第1子が通っていて先生方とのコミュニケーションが取りやすいため。

●心理士、言語療法士、作業療法士、保育士の先生方が一人一人のお子さんに必要な療育プログラムを考えてくださるところがいいと思っていました。どの部分につまずき、どのような支援が必要か、さまざまな角度からアプローチして下さると思ったからです。

●家でも怒られるようなことをきちんと叱ってくれるところ(膝をついてご飯を食べない、好き嫌いはなるべくしないなど、)

●安心して預けられるか、療育中の我が子の様子をみて楽しめているか、スタッフの声かけやかかわりかたが適切かどうか。親も相談しやすいか。

●主治医が毎日通所できる所が良いと言ったのであまり選ぶ余地はありませんでしたが、先生方の雰囲気や方針などが子供に合っているかどうか意識しました。

●集団療育の方は役所からの紹介だったので特に選んだとかはないです。個別療育の方は、出来れば個別でアドバイスしてくれて、専門的な知識がある先生に見て貰えるところ。親の私が質問等しやすいところ。先生からのフィー

Q5. 療育施設選びで意識したポイント

ドバックがあるところ。身体を動かせるところ。

- 預かりより内容がしっかりしている所を選んだ。診断して頂いた病院にも勧めて頂いた所。
- 定期的に通うので、幼稚園、家から近いこと。毎週水曜日は幼稚園を早退、金曜は朝療育を受けてから行く時間帯だったので、自転車で移動できる場所に入所できたのは幸いでした。
- 送迎があること。施設に同じ学年の子が居るかどうか。男の人が基本的に苦手なので、女性職員さんが多めの所。
- 母親が勤めている放課後等デイサービスにしました。
- 放課後に送迎ありで、宿題もすべて見ていただき、運動や療育が受けられる点。細かなこともお伝えすれば、それに応じたプログラムを組んでくださるところ。
- 職場内に施設があるので、見学に行き、本人が楽しんでいた。
- 人数が少ないこと。テンションがあがって他害を防ぐこと。幼稚園児ということもあり、穏やかなスタッフがいるか。送迎ありかが1番重視しました。車を運転しないので。
- 本人の負担にならないように。また、自信や自己肯定感を高められるところ。
- フルタイムで仕事をしているため、自宅や保育園までの送迎の有無が私の中では1番重要でした。その中で更に専門資格(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)を取得している先生が一人でも在籍しているかどうかポイントでした。
- 親子通所では無いところを選びました。そこ当時、母への後追いなども多く見られたため、母子分離で行ってくれるところを選びました。
- 自宅ではなかなか体幹を強化するのは難しく、そのトレーニングを行なっている場所を探した。また子どもは診断がつかない「グレーゾーン」だったので、同じような子がたくさん通っていて、中身が簡単にならないような場所を選んだ。
- 午前だけの短い療育よりもお母さんは大変だけど母子登園の1日の療育がいいのではと言われ、私も療育の先生の対応をみて息子にどう接したらいいかわかると思い、母子登園の療育にしました。
- 特に気になっているのは発語に関してだったので、発語に関して実績があるか、発語に注視して療育をしてくれるかに注目して選びました。
- 先生が楽しそうであるか、先生と通っている子供の関わりや送迎してくる親との関わりはどうかということ。娘は新しい場所に不安を抱きやすかったので笑っていて楽しそうにしているのを見せて一緒に楽しんでほしかったからです。

Q5. 療育施設選びで意識したポイント

- 人見知り場所見知りが酷い為、初めての場所でも部屋に入れるのかを見ました。体験の際に、部屋に先生と一緒に入って一対一で問題なく過ごせたので、子供にとって居心地が良い場所だと思いました。
- 母親自身が精神障害があり、車の運転ができなくなった為、自転車で送迎できる療育園を探しておりました。園に見学は行きましたが、短時間で「ここ！」という決め手は、清潔感があるか、生徒人数に対して何名の先生がいるかが決め手でした。
- 威圧的だったり、決めつけてくるような先生がいるところには行きたくありませんでした。理由は、そのような医師に関わり、親子ともども傷ついたことが何回もあるからです。
- 普段家でできない経験をできるシングルマザーで、私1人で外に連れ出すのはなかなか困難なため公園遊ぶだとか、みんなでプールに入るだとか、そういう経験をさせてもらえるところを選びました・集団行動ができる幼稚園でも孤立していたので、小学校にあがっていくにあたり集団行動に慣れてもらいたかったからです。
- 場所を探す余裕がなかったので、人気の場所を教えてもらい、見学に行きました。失礼な話ですが正直に、言葉を使わないので暴力、暴言があっても言えないので心配ですと伝えたら『そういう場所があるのも事実ですが、うちは絶対にありません。自信があります。』と言いきってくれたので、預けてみようと思いました。
- 本人が施設見学時に楽しそうにしていた、仕事をしていたため送迎サポート付き、施設長さんとスタッフがしっかりした意見を持っていた。
- 市の相談で、家の近所の療育センターを紹介されて受診したので、複数の施設から選んだ訳ではないが、心理士さんと話しやすく子どもの接し方のアドバイスが受けられたことと、作業療法では、作業療法士さんの対応も良く、遊び感覚で楽しく通えたことが良かったと思う。
- 子供が楽しんで行けそうかどうか。子供のタイプに合っていそうかどうか。意志が強い子なので、行かされているものは続かないと思ったから。
- 最初は医療機関で療育を受け、その後は通いやすい時間帯と場所を重視した。
- 当時は車を持っていなかったため、自宅付近で通えそうなところを考えました。現在の教室は、先生とマンツーマンのレッスンで、親はガラス張りのドア越しで観察できるのも魅力的でした。教材が豊富で、子も楽しそうに興味津々に取り組んでいました。それを見て決めました。
- いつでも勉強ができ、スパンがひろかったこと。

Q6. 施設ではどのような療育が実施されているか

●子供 10 人～ 15 人に対して 先生は常時 7 人以上。通常 集団指導だが 個別指導できるお部屋もあり その時々で臨機応変。施設に到着後 すぐに学校の宿題を中心にお勉強をして その後ソーシャルスキルトレーニングを取り入れた ゲームや運動を曜日によって変えてある。最後に手を洗っておやつを頂き 順次帰る準備をするが常に SST を意識して行動させるようにしている。

●発達支援コーチを主体とした支援。集団・個別と両方の支援指導がありました。スタッフの人数は、5 名～6 名。

●スケジュールがあって、4 人くらいで活動し個別でお勉強したりします。

●OT では遊びを取り入れながら楽しんでしてくださいました。1 対 1 での個別指導。ST はまず、困ったときはこの言葉など、生活していく上で優先順位をつけて教えてくださいました。こちらも 1 対 1 での個別指導。デイサービスは基本子供 10 人に対してスタッフは 5~7 人。集団でのコミュニケーションを学びながら個別に好きなことをさせてもらっています。

●最初は個別療育で遊びを通じての SST や OT 後にペアや集団による SST や OT 就学前は集団による学習もプラス。

●自治体は母子通園で、小集団での活動で、親子の関わり方などを特に学べてます。民間の療育は、個別で、幼稚園での困りごとなどを伝えると柔軟に支援に入れてもらい、今は体の使い方と言語について学んでいます。どちらも、隣に 1 人先生がついてくれる感じです。

●ST。先生がひとりとうちの子との個別指導。おもちゃで遊びながら会話をし、遊びの中で言葉を増やしていくような感じでした。

●個別指導スタッフ 1 名 1. 止まれの練習 2. 順番が待てる練習 3. 運動面での練習 4. 並んだ絵を見て、覚える練習 5. 集中して行えるよう、囲まれた空間で全て行いました。

●個別指導一対一授業のようにはじめは名前を呼ぶ→返事だれときたか何日天気その後？本？パズル?? 楽しい遊び子供に選ばせて決めたりしていました。

●職員は 5 名程度、児童は 10 名以下。サーキットやだるまさんがころんだなど身体を使ってするもの、絵具・粘土・鉛筆等を使った机上の活動などいろいろ。集団では順番やその遊びのルール等を学ぶ。

●二学年の 20 人くらいの子供たちをふたクラスに分け、八人ほどいる保育士が交代で関わってくれました。基本的には、集まりからはじまり、終わりの会まで、集団で活動をすることが多かったです。

●少人数での集団療育です。スタッフさんはマンツーマンでつける人数確保されていました。日によって音楽療法やサーキットなどの多様なプログラムが組まれています。昼食もあり食事の練習もできました。

●隔週、月 2、3 回。集団療育。(似た特性の子達と、4 人) 1 回 90 分。

●集団・個別指導が共にあります。まずはトランポリンや平均台で体幹トレーニングを行ったり、絵カードを用い

Q6. 施設ではどのような療育が実施されているか

て言語訓練や、SST を取り入れています。

●発達センターでは5、6人での集団での療育。(何をするのか、例えば?あいさつ?紙芝居?工作?パズル?皆でゲーム?おわりの会)先生は一人に一人ずつ。指先を使ったり、皆の前で発表したり、子ども同士の関わりを持たせる機会も。療育センターでは個別にOTを受ける。月1回1時間程度。輪ゴムを引っ掻けて形を作ったり、お箸を使って穴に綿を詰める、取る作業、間違い探し、パズル、同じ図形を描く、トランポリン等。指先を使う訓練、解らない時に人にどう聞けば良いのか等も学んでいった。また、不正解に対して恐怖心を持っており、そうした事も恐れず、挑戦出来る様に声掛けを行っていた。

●地域の療育センターは、子ども9人1クラスに対し先生が3人(他ボランティア1名)個別指導はその子のいま1番伸ばしたい部分などを、課題として練習します。グループ(小グループ)などで、順番待ちや他の子の動きを見るなど。児童発達支援では個別で手先の動き、グループでレク活動など。

●少人数で6名の4~5歳児が過ごしていましたクラスは2クラスでそれぞれ児童指導員が1人と保育士が1人の計2人体制で毎週カリキュラムを変えながら子どもたちの出来ることや苦手なことをバランス良く取り入れていました例えば…ハサミや粘土を使った工作、お菓子作りルールやお約束のあるゲームなどコミュニケーションを大切にした療育でした。

●息子は個別で月1回、私も同席スタイルで先生1人 5つの課題(トランポリン、絵本、すごろくなど)?基本は個別で同席なし。マジックミラーで中の様子が見られる。先生1人月に1回コミュトレで数人のお友達と一緒に楽しく療育が出来る日がある年長からだった為(ひらがなの書き順の歌などを聞いた後なぞりをしたりブロックパズルや100玉そろばん、数字のうたなど)

●未満児は集団指導、音楽療法、食事療法でスタッフは4人ぐらいでした。4歳からは、個別指導、作業療法、言語療法で全てマンツーマンでした。

●10人以上集団指導では、特性が目立つばかりで我慢することが中心になっていたので少人数で対応してくれる療育に変更しました。子供4~6人に対してスタッフさん3~4人で指導。全身を使う遊びや体操、指先をつかう簡単な創作、おやつタイムなど一斉活動が中心でしたが、一人ひとりのコンディションに合わせて個別対応してくれました。指導の最後には、スタッフさんと親が話す時間があり、振り返りや相談ができました。

●専門の理学療法士、作業療法士、言語療法士、心理療法などが受けられた。また、個別の時間もある。小集団で療育を受け、お昼寝もあり午後は帰りの会のみで終了。スタッフは、市の施設の為公立保育士が移動で入れ替わる。その為、障害に知識のない職員が配属されるが、数年間働いてスキルを身につけた職員もいた。

●集団指導です。子供3人療育者も3人です。

●個々に先生がついてくれ、個別に説明してくれたり、集団での活動があったり、最初は、思いっきり体を動かし、日頃のエネルギーを発散させてくれました。運動療法で、サーキットのようなものをしたり、バルーンで体を動かしたりしました。

Q6. 施設ではどのような療育が実施されているか

●丁寧な個人計画の指導案が組まれていました。言語訓練もあったので、言語訓練の指導案もありました。担任は複数担任でした。年長児クラスでもそうでした。言語訓練では、別室で言語聴覚士と一対一で行っていました。防音室でした。月ごとのイベントもありました。発達障害児の保育園、幼稚園という感じでした。

●定員 20 人に対して先生は 8 人。集団での手遊びや、体操。個人では手先の動かし方などの指導がありました。

●通所では集団と個別の指導言語作業療法は個別の指導。

●先生方は 10 人程いて、担当制ではない為、その日によって先生が変わりますが、皆さん優しく温かく受け入れてくださいます。息子に何かを指摘する際には叱らずに冷静に伝えてくださり、良いところを沢山見つけてすかさず褒めてくださいます。息子は週 2 日で、個別と集団 1 日ずつです。

●個別指導。コロナ対策で集団療育は中止。音楽 感覚 料理 運動 など。担当制。スタッフは数名いるが、療育指導者は 2 名ほど。

●個別指導は心理と言語の先生 月 2 回ほど グループは年長のときに月 1 回をはじめる年長のときに言語は一度終了し心理だけ続け小学生 2 年になりグループ指導中心になるそして月 4 回グループになり現在 4 年になり落ち着いてきたので終了となりました。

●言語療法では 1 対 1 で言葉のやりとりを中心に指導施してもらいます。また別のところでは集団指導 (利用者 7 名ぐらい) を 5 名程度で指導してもらっていて、指示を聞く、当てられたら答える、ハサミを使う、などを行っています。

●個別指導ですが、先生が 2 人ついてくれたりします。新聞紙を使って遊ぶ遊びなど、身近なものを使ってお金を使わずできる遊びがたくさんあることに気づかされます。

●少人数の集団指導で、年齢は縦割りでした。 同じような特性のある子と、衝突しそうになる場合は、個別にしたりと配慮して下さっていました。室内で出来る運動遊びや様々な課題学習、発表、読み聞かせ、先生と遊ぶ等でした。

●先生と一対一で 45 分間行っています。定期的に面談をして、伸ばしたいところをメインにプログラムを組んでいただいています。最初の頃はことばが遅かったことがあり、絵本を見ながらことばのやり取りやカードを使っての対応が多かったです。最近は小学校就学を見据え、座って指示を聞くことをメインにプログラムを組んでいただいています。また、年に数回小集団での療育に参加しています。

●一コマ 60 分 (支援時間 :45 分、フィードバック :15 分)・個別指導と集団指導 (集団は子供最大 5 名につき、先生最大 2 名)・個別指導では、親のニーズに合わせて個別指導計画が立てられ、それをもとに支援が行われていた。年少時は数字や色の名前、製作やゲーム、パズル等、年中時は年少時の内容+運筆練習 (迷路やひらがな等)、簡単な算数 (足し算等)、年長時は年少時・年中時の内容+就学準備…といった内容だった。学年が上がるごとに、机上での学習が増えていったが、たまにトランポリンや簡易的な平均台、ボール投げ等、体を動かす内容も組み込まれていた。・集団指導では、個別指導の内容に加え、子供同士を意識した活動 (ゲーム、共同製作等) が組み込まれていた。

Q6. 施設ではどのような療育が実施されているか

まれていた。

●初めは、子どもが慣れて落ち着くまで全身運動を主に。その後、作業療法等を受けました。人数6人に対し先生は3人。学期末に知的、精神等の検査を受け、懇談で正しい発達、自分の子の今の発達状態、今後、家で必要な療育の指導のお話を1～2時間かけて聞き、指導計画書を作りました。また、月に1～3回親の勉強会もあり、理解して家での療育を行えるようサポートを受けました。

●長い時間だと行きたがらなくなったので、1時間枠の個別指導にし、いろんな職種の方がいる所にしました。今は小集団で学んだりしています。

●療育施設は3カ所通わせていただきました。?1時間半の個別指導、?預かり型(約5時間)の児童発達支援施設、?1時間半の集団指導?幼稚園と同時に始めた療育です。マンツーマンで先生がついてくれ、まず体を使った運動や遊びを介して気分を高めた後に机上での作業でした。作業療法士さんが付いてくれてました。ここの療育は母子分離だったので、慣れるまでは私も一緒に部屋に入っていました。?幼稚園を退園して半年あたりに他の子供と生活、接点が欲しくて預かり型の療育施設に就学前まで通いました。通っていた療育施設は看護師さんもいて肢体不自由なお子さん多いらしい少人数の施設。集団生活がメインだったので、作業療法士や言語療法士さんは在中していなかったものの、施設の先生方は積極的に療育的な作業を取り入れてくれてました。?就学に向けて発語を促したくて、言語療法士がいる療育施設に1年間通いました。集団指導だったので言語療法士さんがいつも対応してくれることはなかったのですが、癇癪がある息子に根気強く接していただきました。

●スタッフの人数は全員で8名ほどで、1人のこどもに対し3名ほどで、1時間みっちり全身遊びを取り入れてトレーニングしました。食べ物や調味料等もこれはいいとかこれはあまり薦めないとか教えて下さって助かりました。これをしたら脳にどんな刺激があるのかとかきちんと教えてくださるところでした。

●お友達、先生との遊びの中でのコミュニケーションスキルのアップや個別ではお名前の練習や就学に向けてのひらながの練習など。

●個別指導、SST 小学校に入学するにあたって、まず席に座って何かを言うところから始めてもらいました。挙手をすること、板書をすることなど、あとは個々の苦手(待つ事、勝ち負けへのこだわり、苦手な学習)小集団指導3人から5人で運動療法にて、運動はもちろん順番を待つ事、守る事など。

●個別療育(民間)・個室に1対1で入り、親はマジックミラー越しにチェックシートを記入しながら様子を見学する。集団療育(民間/児発)・〇〇式運動療育。個別療育(公的)・1対1での作業療法。集団療育(放デイ)・今流行りの玩具が多数あり、自由に遊びながらルールや他者との関わりを学ぶ。集団療育(放デイ)・学習指導、ダンス、演劇。

●部屋は、いくつかに分かれ、体操の場、落ち着かないときにクールダウンさせるための部屋。照明も工夫され癒やし効果を出していた。療育は、視覚的に効果的な絵カードを使った、時間の味方や、行動療育、SSTもありました。

●年中の頃は個別療育で手先の不器用に対する作業療法を、年長になってからは就学に向けて集団療育を受けました。

Q6. 施設ではどのような療育が実施されているか

●スタッフは施設の広さなどにより異なる。集団、個別ともに利用している。療育の質としては、何処も納得はしていない。見方によったら学童と一緒に、ハッキリとした違いが分からない。基本的に何処も余暇活動だと思います。一つ一つの活動の意味をスタッフは説明出来ない部分が多々あると思ってます。

●毎回一対一で関わって貰える。絵カードを用いての説明など。

●外遊び中心に体幹づくり、本人たちがやりたいことをやらせてくれる。一人になりたい時は一人にして寄り添うなど、集団生活のなかでも個人の意志を尊重してくれる。送迎含め、スタッフは多いと思う。定員 10 人の施設で子ども 1 人に関わるスタッフの人数は多いと思う。基本は集団指導だが、一人ずつのペースでやってくれる。

●感情の言語化を目標としているが、目に見える変化はなかなか見えない。利用予定の児の障害の程度で 1 階フロアと 2 階フロアに分かれて小集団で過ごしている。

●叱る時は本気で叱り、色々な経験や体験をさせてくれた、よく外に連れて行ってくれた。(1 番最初の療育施設)
※ここが 1 番良い変化が見られた 2 番目の療育先は低学年 (当時 10 歳) 向きの療育内容と知的や養護学校に通う子もいたので小 4、小 6 の 1 学期まで通ったが学年が上がるとともに内容が幼稚過ぎて合わず、放課後デイサービスの先生に見つからないよう家に帰ってきて嫌がるようになった現在、中 1 だが SST を主にコミュニケーションや、気持の整理をする練習をしたりしているが、登校しぶりと家庭内暴力 (弟など) 絶賛反抗期中。

●毎週土曜日だけ通っていますが、先生は管理者の先生含めて 4、5 人いるかと思います。午前中は、朝の会、ラジオ体操、自由時間、個別指導があり、午後は集団でお出かけしてます。

●小学 3 年生から中学 3 年生まで 3 箇所個別療育を受けました。スタッフは、1 名から 4 名ほどでした。OT、ST、ビジョントレーニング、気持ちのメモリ、感情の表し方などゲームや運動で楽しく取り組ませてもらいました。

●スタッフはその日の子供の人数によってかなと思います。集団 5 人くらい指導の中で作業療法士の個別指導も 20 分程度ありました。

●現在通っている民間療育は、少集団で、1 クラス 3～4 名に対して、先生が 3～4 名程ついています。75 分間の間に、しっかりとした時間割があり、音楽・運動・スノーズレン・制作・読み聞かせ・他、色々工夫された内容です。保護者はモニターで観察する事が出来、毎回フィードバックもあります。

●幼稚園時代は集団のみで幼稚園でするようなことを丁寧に行なっている印象入学以降は集団と個別集団？スポーツ重視の療育 月毎に種目が変わり、ルールを教わって実践 子供 3、4 人にスタッフ 1 人？日毎に活動内容が変わる。高校生から幼稚園児までおり、動き回る子や小さな子にスタッフが集中するため、活動に参加できている子は活動を指導している先生か、年長者がサポートしている。(うちの子もよくサポート側に回っている様子。これはこれで良い経験ではある) 子供 3、4 人にスタッフ 1 人個別マンツーマンの学習指導なので、子供 1 人にスタッフ 1 人。

●スタッフさんはいつも 2～4 人いらっしゃるかな？くらいでした。小学校の教室よりひとまわり小さいかなと感じるほどの部屋で、1～2 時間を 10 人弱の子供たちでカリキュラムをしていました。個別指導、2 対 1 (先生)、集団指導、就学前指導などありました。子供と先生の距離を縮めるために愛着行動になるものもありました。

Q6. 施設ではどのような療育が実施されているか

●個別療育) 臨床心理士と親子で実施言語療法) 言語聴覚士と本人、必要に応じて親子で実施いずれもコミュニケーションを取りやすくするための内容で、それぞれの専門内容からのアプローチだった。

●個別指導遊びながら挨拶や名前を言う練習。

●今の放デイは、子供10人に対し大人3～4人。毎日スケジュールを組んであり、知育の日、運動の日、社会貢献活動の日と色々あります。子供の気分等に寄り添って下さったり、子供が学校での出来事も話しやすい環境を作っているように思います。

●1クラス9人担任3人(6クラスありました) 集団指導子どもの年齢によりますが、入学時2歳児の場合、最初の半年は親子で月曜～金曜10時～15時まで。その後、週一から子どもだけで通います。2年目の途中から、行事の時以外は子どもだけで通うことになりました。

●1年目は子ども7人の小グループでの療育でした。週3日、子ども1人につき保護者と先生が1人ずつつきました。幼稚園に入る練習として、お帳面にシールを貼ったり自分の荷物を所定の位置に片付けたりしてから朝の会みたいなものをして(出席とり、歌、手遊びなど) プレイルームで遊んだり(トランポリン、ボールプール、大きなブロックなど) 外で泥遊びをしたりして、弁当を食べて、帰りの会をして帰る(9:30～14:00くらい)... というような感じでした。月に1回自由日というのがあって、親がつかない(療育の時間、子どもから離れられるという意味で自由日?) 日がありました。幼稚園は年中、年長の2年通いましたが、その間療育も週1回、幼稚園降園後に通いました。年中の頃は1:1で加配の先生がつき、年長では3(園児):1(先生)で加配がつきました。

●個別と集団の療育を利用しています。個別では心理士、作業療法士、言語療法士の方と1対1、45分集団では同年代の子4～5人と、同人数のスタッフの方のサポートを受けて1時間半の療育。

●2～3人の小集団での療育でした。それに対してスタッフの方も2人以上で担当のような形で指導して下さいました。3時間弱の時間の中で、小集団での時間、個別指導(作業?)の時間がありました。主にteach?を土台に療育をして下さる施設でした。

●2～3人の幼児に1人ずつスタッフがつくかたちの集団指導で、好きな遊び、好きなおもちゃで50分、思い思いの時間を過ごしていました。決まりごとは、終了5分前に絵本を読んでくれるので、椅子に座って聞く。手をつないでさよならの歌を一緒に歌う。それは出来なくてもいいけど、少しずつ出来るように促していました。

●個別指導で一对一の1日45分 母子付き添い可能の所とひとクラス7人程でひとりの先生につき2、3人の児童、1日5時間母子分離の集団指導の2ヶ所をスケジュールを組み合わせて通っています。

●集団で活動やお出かけしたり、個別でレベルにあった課題を出してくれたり、分からない時もそれぞれに合う教え方をしてくれます。やりたい事やらせたい事等あれば、可能な限り対応してくれます。

●集団指導(最大で4人)でしたが、学齢が低かったこともありハサミで切って切り絵を作る、みんなとウノ(カードゲーム)を繰り返してルールや勝ち負けを理解する、トランポリンや跳び箱、など、保護者目線では“何に役に立つのか…??”というような内容ばかりでした。

Q6. 施設ではどのような療育が実施されているか

●療育センターでは1クラス5～10人の少人数で、先生が2～3人ついてくれます。小集団活動の中で個別指導の時間がありました。民間の療育施設では個別指導をしていただきました。先生は1人付きました。空きがあれば小集団活動に参加できる事もありました。

●児発では個別療育、月2から3回、1回1時間の親子通園でティーチ中心で担任制。集団療育、週2からはじめて最後は週3で10時から14時。本人のみ。幼稚園が母体なのもありこじんまりとした幼稚園のような雰囲気。相手とのやりとりを丁寧にしてもらったり、野菜を育てたりといろんな経験ができた。毎年担当はつくが、みんなで見ている。個別療育、こどものみで週1からはじめ最後は週2就学前は10時半から13時半、幼稚園入園後は16時から17時半。ティーチ中心クールで淡々としている印象だが、個別でしてくれるのが良かった。デイすべて集団療育。1つめは児発からの雰囲気そのまま。2つめは塾も経営されており、元教員のかたや地域の大学生などもこられている。理科の先生をされていた方がされているので、実験や観察などの体験も取り入れてくれている。3つめは土曜日利用。買い物やSNSの使い方など課外活動も多くそのなかで学んでいる。動く時間と静かにする時間がありエリアも分かれている。どこも友人や活動を通し、まつことやルールなど丁寧に関わってくれている。

●少人数で遊んでもらい、公園などでおにごっこや、ドッジボールなど子供たちで触れ合いができる遊びをしてもらったり、室内では的入れや小さい卓球や、工作など。スタッフの方も、4,5人はいたと思います。

●主治医の先生の診療所で心理士の先生と行う、1時間の心理療法（プレイセラピー）でした。前半は子どもと先生の一対一、後半は母も参加して、お話ししながら様子を見ます。週1回、1年間の予定でスタートしました。

●心理士さんとの個別指導や小学校入学前はグループ指導と併用し子ども6人程度に対しスタッフさんは3人居ました。

●就学前/親子療育/集団全5クラス、1クラス10人程度(所属は1クラス30人近くいました)、先生は2-3人1日の流れ登所→朝の会→課題遊び→給食→昼の会→課題遊び→帰りの会→降所(課題遊び…自立課題、散歩、感覚遊び、制作など時々→運動遊び、音楽療法、避難訓練)年少/子供だけの療育(親は隣の部屋で待機)/小集団子供は3-6人、先生は2-3人クラスは固定(平日は午後2クラス、土曜は午前2クラス、午後2クラス。DQが近い子でクラス分けされている)。4-9月で全10回、10-3月で全10回。1時間くらいの中で、挨拶→お友達と簡単な課題?をやる→休憩→自立課題→帰りの挨拶をします。(うろ覚えです)この療育は希望すれば年長まで通えますが、半年更新なので必要なくなれば更新をせず卒業となります。うちの子も1年で卒業して、現在は言語療法に通っています。(私が言語療法を希望したため)

●集団指導 お友達と思いきり遊ぶなかで、感覚を使う粘土遊びや紙を破くなどの遊びをしたり。友達とごっこ遊びをしたり、のりを使ったり本人の力を伸ばすような療育をしています。絵カードなどで活動の見通しがついたり、お集まりの時間もあり。簡単なマカトンサインによる支援など視覚支援が豊富で視覚優位の息子もわかりやすいようです。13人に対し5人で見てくださっています。?月1でSTの訓練があります。

●先生3人に対して子どもが4人の少人数グループです。手遊び歌の挨拶したあと、先生の話聞き練習をして最後にサーキットをやって終わりです。

Q6. 施設ではどのような療育が実施されているか

●2歳から始めて、最初は個別指導。保育所に入ってから、先生が保育所へ来てくれて、個別だったり、少人数指導だったり。小学生になってからは放課後デイサービスで療育を受けている。(個別指導)

●3歳からは集団(4人グループ)、それ未満は個別。スタッフは10名程度。自由遊びから座って授業形式。

●個別指導も集団指導も経験しました。個別では、本人の好きな遊びをする中で、職員や保護者との関わりや、遊びの幅や興味を広げられるような支援がされました。集団は、毎回違った遊びを設定してくださり、思う存分親子で楽しみながら取り組むことができました。1クラス子供5人に対し、先生は3~4人でした。また、全体(大人数)でリトミックや感覚遊び、ふれあい遊びなども行いました。

●子供によって毎月の目標があり、クリアできなければ何ヶ月でも同じ目標で少しずつできないことをできるようにしてくれた。

●運動療育、知育系個別療育、ABA療法(セラピストに自宅で指導を受けた)、小集団10人での活動をしている療育(感覚統合や外出訓練、ST)

●療育というよりは、保育園のような形でひとクラス8人で担任の先生が3人ついてくれています。毎日登園で、週一回は親子登園です。伸び伸びとした環境で子供の成長を促すというような考えなので、やっている事は通常の遊びや製作などになります。あとは、親同士のグループ相談や園長先生との発達の相談など月一で行ってくれているので、とても勉強になります。

●集団療育スタッフの人数は4人。普通の幼稚園の中の一室で行われている。時々幼稚園の一時保育の子供達と一緒に活動している。生徒が6人の小さなコミュニティで、先生にとっても手をかけていただける幼稚園という感じ。生活習慣やお友達との関わり、おもちゃで遊ぶ等して慣れるということをしていただいています。?個別療育臨床心理士の先生が、息子と一対一で関わってくれる。パズルや積み木等のおもちゃを使用して息子の困っている所や問題点を見出し、対応を考えながらしてくれている。親も同席する事ができ、最後に先生からのフィードバックがある。とても的確で家で実践してとても効果を感じている。次の療育日に報告して、どんどん問題解決に向けて先生と相談しながらやっていける感じがしている。

●個別指導の後に集団指導我が子の場合はソーシャルスキルトレーニングをメインにお願いしている。大体5~6の子供利用でスタッフの先生も同じくらいか1~2多いかもしれない。

●週二で通いましたが、一日は集団活動でスタッフは子どもよりも多いくらいの人数で指導が行き渡っていました。もう1日は朝、就学に向けての個人指導で、始業と同じような時間にスタートし、席について字を書いたりしていました。

●感覚統合やマッサージ、運動療育。SSTもありました。また理学療法士の職員もおり、巧緻運動等の療育。

●感覚遊びや体を使った遊びで、その子に合わせて集団や個別指導がある。

●数カ所通いましたが、最初に説明受けた療育は結果的に実施されているところはありませんでした。集団が主で

Q6. 施設ではどのような療育が実施されているか

す。療育方法は、TEECH 使います！と言っていたのに言葉だけの指示。そのような所が多かったです。スタッフの人数はどこの事業所も入れ替わりが激しく把握できてませんでした。

●本人に合った学習支援。職員 1 人に対し、2～3 人の個別指導でした。

●市の療育センター利用時はコロナ禍ということもあり、月 2 回約 2 時間、2～3 人の集団の中にスタッフが 2 人、親子同伴での療育でした。こちらでは主に運動療育と感覚統合訓練のようなものがメインだったと思います。年少児になってからは受給者証を取得し、民間の児童発達支援に切り替えました。こちらは週 1 回、約 3 時間、5～6 人の集団の中にスタッフが 3～4 人でした。毎週違ったプログラムで、季節の製作や体操、サーキット、外遊び、言葉の練習やお勉強など様々なプログラムを通した療育が行われていました。

●コミュニケーションが取れなかったため、先生とおもちゃで遊んだり、手遊び歌や歌を歌うことで発語を促してもらったり、椅子に長い時間座れなかったため、好きな遊びの時は椅子に座るという方法です。療育中は先生対子どもの 1 対 1 で行っています。施設内には、八人ほど先生がいます。親はマジックミラーで外から療育を見学でき、他の先生がいろいろ親の話を聞いてくれたり、子どもができるようになったことなどを教えてくれます。

●体幹トレーニングや SST を積極的に行う療育だった。集団指導で小学 1 年～高校 3 年生までが通っていて、基本的に全員で同じトレーニングをしている。細部は個々のレベルに合わせているよう。みんな知的遅延などがないグレーゾーンな子が多く、レベルも「簡単すぎず難しすぎず」であり、とても満足している。

●療育では午前のカリキュラムと午後のカリキュラムがあり、午前は主に音楽に合わせて体操や歩いてお友だちとふれあう練習でした。集団で同じ行動を練習したり体幹を維持するためにたかばいは手押し車もやりました。できなくてもその子に合わせてできそうなところで先生が個別に対応していました。過敏症の子達も多かったのによくスライムや小麦粉粘土をして、嫌がる時は先生がたまに強引にドロドロにした小麦粉の手で触ってパニックにしてどうなるか反応をみたりどうしたら落ち着くか、どれくらいで落ち着くのかをみたりして目の前で対応していく姿をみてこうしたらいいのかと親も学んでいました。

●2 件併用・親子療育週に 1 度親子で通園。担当のスタッフの方が決まっており、年少児までは個別指導。・親子分離療育 1 ヶ月に 2-3 回通所 10 名ほどのスタッフの方がいらっしゃり、集団での療育。

●週 2 回、市内の別の施設に通っています。両方個別指導ですが、月 1 回日程が合えば集団指導に入れてもらうこともあります。両方スタッフは全員で 6 人程。毎週違う先生が担当してくださいますが、皆息子の小さな成長にも気づいて声をかけてくださいます。1 箇所は、45 分間で歌や手遊び・ブロック・音当て等のテーブルで行う療育を行なった後、教室を出て同じ時間帯に別部屋で療育をしていた子たちと一緒に 10 分程平均台や鉄棒等で体を使って遊びます。もう 1 箇所は、45 分間で 5 つのことをやりますが、何をやるかは療育が始まる時にカードを本人に見せて教えてくれます。5 つの中には、粘土やパズル・ハサミ等テーブルで行う療育とバランスボールやトランポリン等体を使う療育の両方が入っています。

●スタッフは責任者兼保育士さん、指導員 3 名で毎月スケジュールが配られ、10 人ほどの集団でお散歩や水遊び、粗大運動、制作、クリーム遊びなど季節や子供たちに合ったカリキュラムが組まれています。他にも歌を歌ったり手遊びをしたりメロディーをつけて絵本を読んだりしています。

Q6. 施設ではどのような療育が実施されているか

●先生は毎回違いますが、最初は慣れる為に個別指導にしました。フラッシュカードを用いた視覚的な療育が多く、楽しくカードを見ていました。座学が50分ですが、その内10～15分程の粗大運動があり、少し広い部屋に移動して体を動かしました。個別指導に慣れて来たら、2人での集団指導も取り入れてもらいました。

●療育園では主治医の先生の診察をもとにSTさんOTさんをお願いして共にマンツーマンです。デイサービスでは保育士、看護師、支援士がいて、多くても子供は3人程度の中で過ごしています。

●1 クラス、10人の生徒に対して4人の先生がついてます。通い始めて半年後の状態により、個別指導が始まるということです。1. 発達の専門家によるアセスメントと助言保育士や児童指導員をはじめ、心理士（公認心理師・臨床発達心理士・臨床心理士など）、言語聴覚士、社会福祉士などの専門資格を有するスタッフが指導にあたっています。2. 日常生活の指導 3. 個々の発達特性に応じた個別と小集団による指導 4. 自発性を大切にした言語コミュニケーション指導 5. 地域との連携による支援（園のHPより）

●集団指導でした。スタッフの方は全体で8人ほどいらっしゃいました。療育は週一回、五十分のクラスでした。保護者は毎日の様子を三行ほどでメモし、一週間分の様子を責任者の方に提出していました。一週間分の様子について、責任者の方が毎回アドバイスや肯定的なコメントを書いてくださり、それは保護者にとって支えとなるものでした。療育は主に体幹を鍛える体操をしていました。また平均台の上を渡ったり、バランスを鍛えるものや、袋の中に手を入れて何があるか当てるものもありました。体操やその他の活動も、まずは先生の指示通りにすることを徹底されていました。

●2箇所通わせてもらっていたのですが1箇所目は、3歳～小学生が中心お買い物の経験だったり、みんなで公園に行ったり、お昼の時にみんなで外食に行ったり、アクティブな療育施設でした2箇所目は、毎日のスケジュールを基本的に大きく変えないで、休日などはみんなで料理したり、公園に行ったり、遠足に行ったり、イベントごとがとてもおおく、外に出る経験をたくさんさせてもらいました。

●臨床心理士さんが居てるので、スタッフさん全員がちゃんとした療育の知識があって対応をしてくれて、家でも出来るやり方を教えて頂いてやっていたら、成長スピードがすごかったです。（絵カードの使い方、SSTのやり方とか）発達障害の子は、教えた事を1年で出来たらラッキーだと教えてもらい、すぐに出来なくてもイライラしなくなりました。あと親のメンタルケアもしてくれるので助かりました。

●療育園に4つの部屋（教室）があり、身体に障がいがある子（入園時に歩けない子含む）のクラス、発達に遅れがあるクラスがあり、登園したらお着替えやトイレなどの指導、朝の会では子どもの大好きな絵本を読んでもらったり、エプロンシアターや手袋シアターをしたり。お茶休憩をしたら集団指導で巧技台やマットを使って運動、小豆やボールを使って感覚遊びや近くの公園までお散歩したり。職員は1クラスに4～5人。個別活動はクラスなどによりますが、他にもSTを1人3回ぐらい外部の言語聴覚士が来て個別に遊びながら行い、終わったら保護者にアドバイスなどをしてくれたり。お昼ごはんを食べ、帰るまでに遊び、着替え、帰りの会は全体で体操と歌を歌って降園。

●心理の個別相談では、毎回心理士さんと一対一で、カードやボードゲーム等で遊んだり、気持ちの信号機（青黄赤）で、気持ちを可視化して、赤になる手前の黄色で、落ち着く行動をとる（息子の場合は布団にくるまる等）こ

Q6. 施設ではどのような療育が実施されているか

とができるように話をしてもらったりした。作業療法では、作業療法士さんと一対一で、トランポリン、フラフープ、お箸の練習、ビー玉を転がしてキャッチする等、身体の粗大運動や手先を使う作業をやらせてもらっていた。

●個別指導でした。療育内容は、1. 縦に並んだろうそくを息を吹きかけ何本消せるか 2、チューインガムをふくります 3、お尻歩きやボールプールをつかった療育などをしていました。

●遊びの中で感覚統合療法などを集団指導されていました。トラブルなどが起こった際には、スタッフの方に個別指導、仲介などに入ってもらいました。

●個別指導 (作業療法) 集団指導 (体操教室、太鼓の練習など)

●一時間のレッスンで、主に個室で先生と一緒に机で取り組み、運動も 10 分ほど大部屋で行っています。現在は三名のスタッフさんで運営されています。入室した当初は 3 歳だったため、主にリンクカード (視覚情報) で「これは何？」や、手先を使った教材で遊ぶような感じでした。徐々に単語が出てきてくれていたのは覚えています。現在は年長のため、就学に向けた学習の土台作り (読み・書き・推論) のプログラム、SST などです。普段は個別指導ですが、スケジュールが合う日に集団指導に参加しています。

Q7. 子どもは積極的に施設に通えているか

- 見学に行ったときは一言もしゃべらず ずっと不満そうにしていた。契約に行った日に 生徒が全員帰ったあと 先生方が おやつと一緒に食べてくださり 部屋の中を先生と散策、道具を使って先生と楽しく遊べたことで心を開き 一週間後に初めて通所しましたが 「もっと行きたい」「友達できた」など 楽しそうでした。お勉強の説明もわかりやすかったらしく 一人でできたと プリントを見せてくれました。
- 私の勤める日以外は行き渋りました。少しずつ、他児との交流が増えてきてから楽しんでいました。
- 楽しいところに行くよっと声かけすると毎回楽しんで行ってくれます。
- 子供は療育施設だと全く感じていません。遊びの場だと思って毎回楽しんでいってくれました。
- 最初は通所や母子分離が難しく親子で療育を受けていたが徐々に母子分離が可能になり、友達も出来て工作や体を動かす遊びなどを楽しみに楽しく入学前まで通所出来ていた。
- とても喜んで通っています。また、褒めてもらえることで、できた！を感じることができ、自信に繋がっています。また、特性などの対応の仕方も親が気づかないことも、気づいてもらえてアドバイスいただけるので、その点でもかなり助かっています。本人もそれが分かるのかすごく毎回喜んで通っています。
- 最初の3日間ぐらいは泣きながらいったのですが、先生たちも優しい方ばかりで、バスにも慣れて、今では楽しく行っています。
- 療育は楽しかったみたいで、毎回行くことにためらうことはなかったのですが、行ったら帰りたくないという気持ちが強く、帰ることに苦労しました。
- お勉強に行こうねと話してました行き渋りもなく通えました。
- 通い始めの数日は泣いていたけれど次第に慣れていき、今では「今日は〇〇の日？」などと自分で確認するようになりました。
- いつもありのままの子供を受け入れ、じっと待ってくれる、そのような姿勢が保育士全員にあったので、毎日喜んで登園していました。
- 母子で通っていた時は大丈夫でしたが、母子分離に挑戦してからは泣けてしまう時間が多かったです。スタッフさんが根気強く対応してく下さり、週2回ほど、3ヶ月ほど通ってやっとほとんど泣かずに楽しめるようになりました。
- 最初は泣いていましたが、先生と仲良くなると楽しく行くようになりました。
- 自分から積極的に通っていました。
- 市の発達センターでは集団で何かやることはどうしても参加が難しかった(好まない)が、周りの先生方の声掛

Q7. 子どもは積極的に施設に通えているか

けで少しだけ参加出来る様にはなったが、遠くから見守る事が多かった。母親である自分もそばにつくことがあった。それにより集団は参加。療育センターでの OT は初めは作業療法士に対して「こわい」と言っていたが、次第に楽しい、と思うようになった。保育園も皆より早目にお迎えに来てもらえることから、待ち遠しかったのもある。子どもの好きな物や事などを提示して「療育の時は〇〇持っていこうか」「療育終わったら△△しよう」等と楽しみを作っていた。とにかく不安に思わない様に、「楽しい」「楽しみ」な事を話して余裕を持って参加出来る様に心掛けた。

●通えていない。集団が苦手なのか毎回愚図っている。

●親子通所型でしたので幼く意味が理解出来てはいませんでした。おもちゃで遊ぶ時間だけは楽しめていました。集団になると居なくなっていました。

●見通しがある方が、本人はラクなので事前になにをするか聞いて、今日は〇〇だって、楽しみだね。など声かけをしました。わからない時でも、今日はお弁当あるね〜など、1つでもいいので、見通しが立つものを伝えました。

●週4日は幼稚園に通っていましたが馴染めなかったりついていけない部分もあったのですが療育だと自分のペースでゆっくり過ごすことができたので子どもたちは楽しく通っていました。

●安心して行き渋りは無く通いましたが私が一緒にのせいで癇癪を起こしたり、ふざけたりしました。?は週1。私と入れなくて最初の数回は出て来てしまったり泣いて出来なかったりと大変でしたが慣れてくると、すんなり入れるようになりました。終了後に10分程、同じ時間に療育していた子達と先生と遊べる時間もあり、それが楽しみだったようです！

●初めはなかなか慣れず、観て過ごす事が多かったです。好きな事は参加したり、無理矢理に参加はさせませんでした。どんどん慣れて、今日は行く?と聞かれる事が増え楽しんでました。

●療育のお友達ができて、楽しく通っていました。

●療育施設の名前を前日から言ってます。子供は施設に行く道中で施設までの道を覚えているので喜んでます。

●月に1回だけだったが、センターに通うのを楽しみにしていた。親と一緒にだったからか、安心して遊んでいる様子もみられた。

●最初は嫌がっていましたが、療育課題が楽しくこなせるようになってからは、積極的な通所を。施設を楽しんでいました。

●最初は特定のスタッフさんとしか打ち解けることができなかったのですが、今はどのスタッフさんとも同じ距離で接しています。自分の中で遊ぶことが優先でなければ嫌がることなく楽しんで通っています。

●息子には、習い事というように伝えています。息子のお友達に伝える際は、「今日は習い事があるから遊べないんだ。お勉強をしに行っているんだよ。また遊んでね!」という感じで明るく伝えています。息子は療育を楽しんで

Q7. 子どもは積極的に施設に通えているか

でいますし、早くも効果が表れているように感じています。

●親子療育で楽しく遊びなれさせた。

●楽しく通っています。私は普通に今日は療育センターだよ。／今日は保育園だよ。という具合でしか伝えていません。本人も楽しいところというイメージなので、今日はこっち(センター)なんだ!といった具合です。

●最初は緊張していましたが、1ヶ月ほどで慣れました。行くのを嫌がるということはありませんでした。

●最初は一人で真剣に取り組めたのですが、通い始めて半年で嫌々な時期があり親も療育に参加したり、玄関で療育を行ったこともありました。先生も凄く工夫して下さり、今は一人でまた療育を受けることが出来てます。そして楽しみにしてるのが親にとっても嬉しいことです。

●毎回楽しみに通っていました。時に、幼稚園の方が良いと渋る日もありましたが、大体はこちらから働きかけなくても積極的に通っていました。

●こどもは人見知り、場所見知りがなかったので嫌がることなく現在まで通っています。好きなことを取り入れてプログラムを組んでいただくので、行くことは好きです。

●集団では、教室に入るまでに時間がかかることが度々あったり、教室に入れても、活動を拒むことがあったが、先生は子供に無理をさせず、子供のタイミングを見計らって、活動に参加出来るよう働きかけてくれた。支援時間の中で、子供が楽しめる内容(ボール投げや風船遊び等)も組み込まれていたため、それを励みに、苦手なことも頑張って取り組んでいたと思う。

●基本的に遊びが多く、楽しめるカリキュラムだったので、嫌がらず通えました。

●最初は同じ園の子が通っている時間にしたりして環境に馴染めるように配慮をし、個別にしてじっくりみてもらえるようにしました。体験の時から楽しそうにしていたので、馴染めるまで時間はかかりませんでした。ただ、療育に行くまでにお腹が空いて機嫌が悪くなるので、療育前に糖分補給させるようにしています。

●家まで迎えに来てくれるので、その車に乗るのが楽しみでした。

●3才の時は発語もなく認知も乏しかったので、言って聞かせることは出来ず。見通しが立つように施設の写真を見せたり、行く前に何かを選ばせる(例えば、靴下を3組ぐらい用意してどれにするか?など)、気分を調整しました。うちの息子は、嫌がりながら逃げるのを追っ掛ける「おっかけっこ」が楽しかったらしく、2、3分もやれば納得するようで、スッと気持ちを切り替えてくれました。

●行きたくないということは1度もなく、長男が生き始めると次男も行きたいと行って途中から2人とも通いました。

●お友達と楽しく遊べる事が楽しかったようで本人から次行くの?と聞くようになった。

Q7. 子どもは積極的に施設に通えているか

●保育園に行かなくても良いけど、療育の方には行ってほしいな？ちょっとの時間だけだから行こっか？等の声かけ。月に一度の科学のイベントなどはとても楽しそうでした。未就学児の時は楽しく通えていました。とても施設の雰囲気が良かったですし、息子との相性が非常に良かったです。その分入学してから、別の施設に通っていますが（未就学児までの施設だったため）苦戦しています。

●楽しんでいる様子はみられなかったけど、小学校に行くための練習っていうとそれなら行く…っという感じで参加しました。

●楽しく通える所へは、積極的に参加するが、親が良いと思える所でも、感覚過敏が強く出してしまう施設などもあった。療育を優先していた時期があったが、療育よりも子供が興味を持った活動を優先すべきだったと思う。

●幼稚園の不登園からの移行だったので、とにかく安心出来る楽しい場所だよ！先生は嫌なことを強制しないし、助けてくれるよ。というのを何度も一緒に施設に遊びに行くことで獲得していくようにしました。2歳から通った施設も同様にまずグループで遊ぶ活動に何度も参加して、場所や先生や楽しい場所というのに慣らすようにしました。

●子どもには習い事感覚でお勉強しに行くよと話して楽しく通えていました。

●全て我が子と見学して決めました。一番目は、初めは楽しめていましたが最後は苦手なお友達との相性が続き辞めました。2ヵ所目と3ヵ所目は継続中です。我が子の意見を尊重しました。低学年の時は行きたくないを毎日言ってましたが、現在は平日をセーブし、土日に積極的に利用し楽しめています。

●とても楽しく通えている。現在も楽しんでいる。

●結果的に辞めた所は、本人と療育内容が合わず、本人から行きたがらなくなった。→先生が厳しく、カリキュラムにこだわりがある施設・今も続けている所は、楽しみにしている位で、積極的に通えている。→自由度があり、本人のその日の気持ちに合わせて柔軟に対応してくれる施設。

●子どもにも自分にはそういう気質がある事を理解して、自分と上手く付き合っていくように話している（診断は自閉症スペクトラム）

●ママがいなくても、まわりの人に助けを求める練習に行くんだよ！と伝えました。最初の1、2回は大泣きして「帰る」と怒っていましたが、少しずつ慣れさせて今では笑顔で行きます。

●私も具体的に何をするのかわからなかったの、息子に「習い事をしてみようか？」と声をかけました。なんの抵抗もなく行くことになりました。息子の初めての感想は、「簡単に楽しかった。」です。その後も楽しく通所出来ました。

●楽しみにしているときもありましたが、行かないと言ってることもありました。

●初めこそ緊張していたが基本的にその日にやることを楽しみに通っていた。

Q7. 子どもは積極的に施設に通えているか

- 楽しく通えましたし、そこの施設の名札を着けただけで、ルンルンでした。
- 幸運にも、子供は最初から楽しめていました。好きなキャラクターでデコレーションしたリュックを、療育専用の通所バッグにし、幼稚園の登園バッグとの差別化をしました。また、子供専用のカレンダーに、幼稚園・療育・リハビリ・その他用事をマーク(イラスト)で書き込み、いつも見えるところに貼っています。
- 見学で本人自身が行きたいと言ったところにしか行っていないので、行きたくないと言われたことがない。通うのが楽しみな様子。
- 行きしぶりはありましたが、行けばお友達や先生とこんなことしたよと楽しいお知らせもあったので、行けたことを褒めてあげたり、やってきたことを聞いて褒めたりしていました。
- 小学校に行くための練習だと言っていたので、スムーズでした。
- 通い始めは場所に馴染むまで落ち着かなかったが、やることが理解できたら抵抗なく通っていた。
- 今の所は、まだ2ヶ月程度ですが、楽しかった～と帰って来ます。本人と一緒に見学に行き、行事に参加させて頂いた事で、本人が行きたいと言いました。前の放デイが嫌で、すぐに次の放デイに変われるように急いで手続きして頂きました。
- 一年目は嫌がる日もありましたが、先生も明るく接してくださり、なんとか毎日通っていました。
- 保育園よりも楽しいようです。
- 基本的に一対一で接して下さるので、子どもは担当のスタッフの方の事が大好きでした。「子ども達が問題行動を起こすのは環境が整っていないから」という考え方で接して下さっていたので、自己肯定感も上がりとても積極的に通ってました。
- 施設が嫌で行きたくないということはなかったが、年齢が上がるにつれて成長して、「今日はAくんが来るから嫌だ」ということはありました。
- 特に子供には働きかけません。まだ義務教育ではないので、通ってみて本人が楽しければ続ける、嫌がったらやめると決めていました。今の所、家で先生の真似をしたり、施設での遊びを繰り返して喜んでいるので楽しんで通っていると思います。
- はじめは夏休みからだったので、お出かけが楽しみ過ぎて毎日ルンルンで通えました。最近は自分の家でやりたいことがあると、なかなか切り替えれず車に乗らずにグズる日が多々ありますが、興味のある事で気を引いてくれたりしてなんとか車に乗ると何事も無かったかのように楽しんで帰ってきます。
- 特に疑問に感じた様子はなかったです。また、行きたくないと言われたことは一度もありません。通うなら本人の自我、周りの子どもたちの“他人が何をしているのか”の認識、が低いうちがいいとアドバイスいただいていた

Q7. 子どもは積極的に施設に通えているか

ので、クラスのお友達もどこに行っているのかなど質問さえしてこなかったようです（担任の先生のご配慮は、あったかもしれませんが不在だったのでその辺りは不明です）

●通級学級を見学及び先生との面談で本人も行ってみると（小さい頃からイヤイヤ期がなかった）言ったので、小学校二年生～六年生まで週一回楽しみながら通う事が出来ました。

●2ヶ所並行で通っていましたが、いずれの場所も楽しく通っていました。

●うちの子は場所見知りがあって、初めての場所は苦手でしたが、慣れるまで側に着いていました。慣れてからは楽しんで行っています。

●楽しく通えていたし今も通っている。2歳前から通っているのので、生活の一部になっている。幼稚園では行事もあり、その都度どちらを選ぶのか本人と相談して決めていた。

●初日からお迎えを楽しみに待っていた。先生の話や遊んだ内容を楽しく話すように心がけた。

●本人は好きな遊びをするだけなので、楽しんでいて特に抵抗はなかったように思います。セラピーの時間が夕方だったので、家にいることが苦手な子だったこともあって、お弁当を作って出発して、公園で食べて遊んでから行くこともありました。

●特に行きしぶりなどはありませんでした。体育館などで思いっきり走ったりできたことが楽しかったのだと思います。

●幼稚園の不登園からの移行だったので、とにかく安心出来る楽しい場所だよ！先生は嫌なことを強制しないし、助けてくれるよ。というのを何度も一緒に施設に遊びに行くことで獲得していくようにしました。2歳から通った施設も同様にまずグループで遊ぶ活動に何度も参加して、場所や先生や楽しい場所というのに慣らすようにしました。

●喜んで通っています。

●我が家は出席率 No.1 だったと思います。母子通でしたが、私がとにかく楽しむことに徹しました。私が楽しければ息子も楽しい。そんな感じで親子で楽しく通うことが出来ました。

●保育所に預けている間に担任の先生と一緒に受けていて楽しそうだった。

●私が楽しんでいる様子が、子供も楽しいと思えることに繋がったと思います。親子で一緒に全力で楽しむことができたので、出席率は一番良かったと思います。

●ディにいる時の方が楽しいみたいで、熱があっても隠してまでディのイベントに参加しようとしていたくらい楽しんでた。

Q7. 子どもは積極的に施設に通えているか

●とても楽しそうに通っています。入園前に、週一回親子で通い場所慣れさせてくれ、入園後1週間は慣らし保育として親子で通い給食なども一緒に食べました。自分で体験し楽しい所だと認識していたので、スムーズに登園する事ができました。

●集団療育今もお母さんで行きたいと家を出る前は毎朝駄々をこねるが、お迎えのバスが来たら笑顔になり自ら進んでバスに乗り込むようになった。先生が好きなので、今日は〇〇先生がバスに乗っているかな？と言って気分を盛り上げたり。バスの待ち時間が退屈なようなので、絵本を2冊持っていくと子供と決めて読むようにした。待ち時間も退屈しないし、家を出る前も絵本の時間なくなっちゃうよ？と言うとさっと動いてくれる事が多い。？個別療育おもちゃで遊べるのが楽しすぎて、毎回通うのを楽しみにしている。

●楽しく療育を心掛けてくださっているのでもいつも楽しく通えている。見通しがたたないとダメなタイプなので慣れるまでは次回は何をするのか本人に説明して下さっていた。

●集団活動は身体を動かすことが多いので、スムーズに通えていました。個人指導は後半は就学前の半年程は行くのを嫌がり、連れて行っても何もしないで座っているだけということもありました。

●イベント等が多めで、長期休みも積極的に通えている。学校以外で友達が出来ると楽し、施設に行けば一緒に遊ぶ設定がなされているので、自然と関わり合いがある。

●中学生だったので小学生の中でお兄さんの存在として、楽しめていましたが母親が出勤しない日の利用は難しかったです。

●事業所の初期メンバーとして入ることが多く、信頼しているスタッフがいなくなると辞めたがりました。数ヶ月続いた場合には、いったん回数を減らしたりしました。

●慣れてくると、職員とも話をし、他の友達とも話せるようになった。レクリエーションの機会は、年齢が上がるとにいやがる事があったので行かなくなりましたが、普段の通所は意欲的に通えました。

●利用当初から息子は通所を楽しめていたと思います。保育園とは違う少人数集団の中で、スタッフがすぐ近くに居て困ったときにすぐヘルプを出せる、良いことも悪いこともすぐにフィードバックしてもらえる環境が良かったと思います。

●まだ小さかったことや、場所見知り、人見知りも無かったので、毎週楽しく通っています。

●トレーニングはきつい時もあるが、褒められると嬉しかったり、イベントデーがあったり、子どもが楽しく通えるような工夫をしてくれている。振替や祝日で開所する時も自分から「行く！」と言うほど、楽しみにしている。

●初日は何かわからず行きましたが2回目は自分の思いどおりにならないとわかって教室に入りませんでした。先生はその姿をみて「自分にとって嫌なところってわかるのが早いね～。それを自分でわかって行動で見せてるから偉いよ」って入れないことをマイナスからプラスの考えに変換してる先生の姿には目から鱗でした。通ううちに慣れて楽しく行くようになりました。

Q7. 子どもは積極的に施設に通えているか

●もともと人見知りはしないので、親と離れて先生と2人きりで教室に入ることを嫌がることはなく、毎週楽しく通っています。ここに来ると先生と遊べる！と思っているようで、通い始めて2年目になりますが嫌がって泣いたのは2回だけです。泣いてしまっている先生がおもちゃで上手く誘導してくださるので、全く何も出来ずに帰るということは一度もありませんでした。

●全く通わなかった。遠くて通うのが大変だったこと、放課後に遊べないことに納得がいかなかったこと。特別扱いをされてるような雰囲気が我が子には合わなかったことで、毎回引きづりながら連れて行くようになりお互いに疲れてやめました。

●半年間は送って母子分離するのに時間を有しました。しかし泣きながらも先生に抱っこされて私の姿が見えなくなるとすぐに泣き止んで遊び出していたので、先生からのアドバイスもあり、泣いていてもサッと退出するようになると、次回からは自ら支度を済ませて大好きな先生の元へ行き、私に手を振り遊び出すまでになりました。

●事前予告をしており、「明日、お教室行くよ」と言うのと理解していました。回数が増えると、楽しそうに通うようになり療育の日を楽しみにするようになりました。

●OTさんのお部屋へは積極的に向かい楽しんでいますが、STさんのお部屋は多動な娘には物足りなくお部屋から出て廊下を走りたがります。デイサービスでも、療育園でも、ルーティーンを決めそれをするのが楽しみなようです。出来ない時は泣いて切り替えができず時間が過ぎます。

●最初は、月1、半年後に週1、さらに1ヶ月後に週5で通っていますが、最初は、朝自転車に乗っている時までは機嫌良く通えましたが、教室に入るとたちまち機嫌が悪くなり大変でした。しばらく1日付き添っていましたが、なかなか慣れることができず、途中で抱っこされたまま寝てしまったりということもありました。ですが、通い始めて2ヶ月で、毎日通うのが楽しくなってきたようで、全く食べなかった給食も、少しずつ食べられるようになりました。

●担当だった先生との相性がよく、楽しく通えていました。しかしその先生が辞めた後は、だんだん嫌がり、それと引越しが重なりやめました。

●平日は幼稚園から直接先生にお迎えに来てもらい、そのままデイに通っていましたが、車の中ではどうしても手持ち無沙汰になってしまいガサゴソ・・・ですが、いつも満面の笑みで帰ってきていました。

●最初はいやがってましたが、いまでも楽しく通っています。

●子どもが入園したのが1歳10ヶ月。3歳児になるまでは何もわからないまま行っていたのですが、それを過ぎると通園バスに乗るのが楽しみになっていたの本人は楽しめて通っていたと思います。

●通い始めた頃は、送迎車のチャイルドシートに座らず拒否し泣いて嫌がるが多かったです。その時はスタッフ2人がかりでお願いすることもありました。慣れてくると、多少嫌がるがあっても療育施設に行くと楽しそうに療育をしていました。

Q7. 子どもは積極的に施設に通えているか

- 子どもは、遊びみたいなことをするのと、たくさん褒めてもらえるので、嫌がらず、普通に通っていた。
- 子供の好きな遊びを取り入れながら楽しく療育していました。兄弟が多いので、療育の日だけは、2人でお出かけだったので嬉しかったそうです。
- 遊びに行ける楽しい場所という認識だったようで、特に行きたくないということもなく、通っていました。
- 当初は「お勉強に行こう」ではなく、「遊びに行こう!」と言っていたと思います。なので、毎回「教室楽しみー」と言っていました。楽しく通っています。現在でも、先生と楽しくレッスンしています。

Q8. 療育施設に通わせたことで見られた変化

●異年齢との交流やスタッフとの関わりで家庭、学校以外の世界が出来ました。また、家庭では末っ子でしたが、放デイではお兄ちゃんと頼る子供達もあり成長を感じられました。

●言葉の数が増えたと思います。

●年中の秋に途中入園で楽しく幼稚園に通えるようになった。また出来る事が劇的に増え、自己肯定感が高くなり、こだわりが緩和された。意見や気持ちの表出が可能になり、コミュニケーションスキルが獲得、お友達と良い距離感で園で問題無く過ごすことが出来た。

●気持ちを伝えることができるように、また、最初に悩んでいた幼稚園での他害も今はなくなりました。子どもだけではなく、私自身も相談できる人がみつき、気持ちの持ちようが全然違います。子育てで外で辛いことがあっても、療育の先生という味方がいるというだけで、私自身も強くなれた気がします。本当に療育に行ったこと療育の先生に出会えたことは感謝しかありません。

●療育センターに通うことで3歳ころにはうるさいくらいおしゃべりになりました。あと、いつも家で二人きりだったので、子どもが誰かと関わることができてよかったです。あと、先生が子どもとどのように関わっているかを身近で見ていたので、いいと思ったことを真似したり出来ました。

●2歳で単語しか話せなかったのですが、通い始めて1ヶ月で話せる単語がいっぱい増え、2語文も話せるようになりました。また、一番年下なので、お兄さんお姉さんの真似をして、なんでも積極的にやりたがるようになりました。

●まずは、療育というものがどのような事かわからない状態でのスタートでした。少しずつ人の話がきけるようになっていたり、勝手に出掛けたりしないようになってきて、変化が現れました。子どもにもプラスでしたが親にもプラスな面がたくさんありました。ADHDと言われることに最初は抵抗がありましたが、今では同じ悩みを抱えているお母さんの相談にもものれるぐらい、療育が大切だということがわかりました。

●落ち着いて座って療育がうけられるようになった（40分）1番〇〇2番〇〇のように療育でやっていることを実践すると私生活楽になりました。はじめましょう終わりました手話が有効だということもわかり、曜日、幼稚園など単語の手話をYou Tubeで覚えて活用もしました。

●療育に通い始めて半年経たないうちに幼稚園が始まり、どちらでの影響かは分からないけれど順番を待つことやお友達に優しく接すること、困った時に大人に「〇〇さんお願いします」などと助けを求められるようになりました。

●急がされず、その子が納得できるように時間をかけ待ってくれるので、自分でできることが増えました。遊びが広がりました。喋れるようになりました。こだわりがほぼなくなりました。偏食も弱くなりました。

●初めて長時間親と離れたことで、自分でやってみようという気持ちが少し芽生えたように感じます。療育施設で母子分離を経験したことで、次年度からの療育園はスムーズに慣れてくれました。子供が療育施設でたくさん遊んでもらうからか、帰ってくると家でもご機嫌なことが多いです。子供を預けることで、自分や夫に時間と気持ちの余裕が出てきて、前向きに子供と向き合えるようになりました。我が家は一人っ子ですが、きょうだいのいらっしや

Q8. 療育施設に通わせたことで見られた変化

るご家庭ではきょうだいの子にとっても良い影響があるのではないかと思います。

●カバンの中の物を出して、箱に出すなど、家ではやらなかったような生活動作を施設では細かくやるため、こんなことうちの子できるんだ、できるようになったんだと思うことが増えました。そして、その動作を家でもできるように、先生とよく情報交換し、習慣化できるようになってきています。

●特に変化はありませんが、似た特性の子の様子も見たり、それに対する対処の仕方を学んだりプラスしかないように思います。

●言葉がとても増えました。その他にも、トランポリンで体幹が鍛えられ、椅子に座っていられる時間が増えました。

●やはり療育を受けることで、専門の先生方や色々な子どもと関わってきた先生、療育を受けた子ども達の様子を見る事が出来たこととその親との交流など（交流は発達センターのみ）親としてネットや本だけでない生の情報を得られる機会があることで、気持ちやこれからどの様に子どもに接していけば良いのか、勉強になることが多かった。それを通じて保育園の先生とのコミュニケーションも取れ、先生方もどう接すれば良いのが明確になり、子どもも安心して過ごせたと感じる。保育園と療育があったからこそ、今小学校で長い時間過ごす事が出来ていると思う（普通学級と支援学級両方通う）スモールステップではあるが、多動がある中で確実に「〇〇しなければならないこと」に対して取り組む回数が増えた。「△△の時はこうした方が良い」ということも理解出来る様になった。

●私自身は変化はよく分からないが、託児所の先生からは「とても落ち着いてきてる」と話があった。

●はい、一時保育の時よりも楽しそうでした！そして、子どもだけでなく親も子の特性を伝えるスキルがついたと思います。子どもがクールダウンスペースがあると落ち着きやすい。など、小学校へも引き継げて、落ち着く場所を作ってもらえました。

●療育から幼稚園のほうに園訪問をしてきていたので幼稚園での子どもの対応がわかりました絵カードや写真なので子どもに対応してくれたりまた加配の先生がついていなかったのですが療育の先生から園に伝えてくださったので長女は年中さんから長男は年少さんから加配の先生がついてくれたので不安だった園生活もスムーズになりました。

●文字、数字に全く興味が無かった息子が、自分から家でも文字を書いたり明らかな成長が見られました。文字も読んでくれることも増えビックリでした。

●有り余った力や我慢した感情を安全に発散する場所ができました。本人の理解しやすい方法で友達とのやりとりや、集団での過ごし方を身に付ける事ができました。家族の相談場所が近くにできたので、安心でした。

●保育園にはそのまま通うことはできなかった。療育に通い始め、家庭以外の居場所が見つかったこと、社会に慣れていくことの大切さを知った。療育で、保育とは違うアプローチを知った。娘も、家族以外の人と関わりを持つ中で、次第に人への興味を示すようになったり、意思表示がはっきりとしてきた。また、障害を持つ親として、娘と離れる時間も必要。その時間が持てたことで、娘と向き合う時間に余裕が出たり、良い距離感で生活できた。

Q8. 療育施設に通わせたことで見られた変化

●大きな期待をしてしまうと目に見える成果？効果？がないと私がしんどくなるので、通い始めから、最後まで楽しめる事！が一番。強いて言うなら、支援時間内の大まかなプログラムを子供が理解し、切り替えが出来ると先生が言ってくれたので、子供なりに状況判断ができてると嬉しく思います。これが、効果かな。

●特性はあるものの、お友達との譲り合いや、コミュニケーションの仕方を学べたと思う。

●お友だちのマークを覚えるのが楽しくて、全部覚えていました。給食も食べていました。お家では食べない物も食べていました。なかなか進まなかったトイレトレーニングもトイレでの排尿に成功し、オムツがとれました。言葉も増えてきました。会話ができました。お遊戯会も運動会も頑張っていました。椅子にじっと座る事ができ、名前を呼ばれたら手をあげていました。先生の話聞いていました。次の活動の見通しを持って動いていました。

●言葉がなかなか出てこずでしたが、フラッシュカードをずっと続けていて、喋れるようになってから、物や動物の名前など、スラスラと言えていて、きっとフラッシュカードで覚えたんだなと実感しました。

●幼稚園の先生やお友達からの声掛けに返事ができるようになったり、自分から自信を持って大きな声で話しかけるようになりました。苦手だった自己主張をすることもできるようになっています。先生が担当ではない為、色々な人と関わる経験を積むことが出来て息子には良い経験になっています。

●保育園での集団生活と違い、自分のやりたくないことでも少しずつではありますが、その場でやるようになりました。まだまだ育て欲しい部分はありますが、彼女のペースという親も客観的に見れるのはとても良いと思います。

●先生の関わり方が勉強になり家族や保育園の先生とも共有できるようにしたり自分も相談したりできたのでとても良かった！子供も今までは感情のコントロールが苦手で大変であったが今では時々、波はあるがしっかり話せるようになり学校でも特に先生も困ってない様子である。

●思っていたより、効果はありました。すぐには、成長はみられませんが、何ヶ月か経過してみると、ちゃんと挨拶ができたり、待てることができるようになったり、物を考えて作るようになったり、好きなことが見つかったりできたりと沢山増えていきました。親の不安なことも相談にのってくれたので、とても心強かったです。

●指示を聞けることは多くなったと思います。友達との関わる姿が増えた。

●言葉数が増え、会話ができたり、人が言っていることを理解できるようになりました。保育園でも以前は一人遊びが多かったのですが、お友達とも関わりをもつようになりました。大人の人と会っても人見知りせず接することができてます。おむつがとれない、身体的な遅れなど、まだまだ課題はあります。

●子どもの特性を知ることが出来るので、この場ではこう、あの場合は…など心構えが出来るようになりました。子ども自身は理解してくれる人（先生）がいるから、自信がついたように思います。

●幼稚園と合わせての効果だと思っていますが、ことばは現在ではコミュニケーションに困らないくらいには成長しています。経験を話すことが苦手であったり、自分の言いたいことを優先してしまう部分はありますが、成長しています。幼稚園からも療育の効果を感じると言っていたいただいたこともあります。食具を使うことが苦手でしたが、

Q8. 療育施設に通わせたことで見られた変化

療育で取り入れてもらってから持ち方が正しくなったり箸にも興味を持つようになりました。

●何をするにも自信が持てず、「僕できない」と言っていた息子が、療育を受け続けていくうちに、「僕できるよ！」と言って活動に積極的に取り組むようになったことに、一番驚かされました。療育に通ったからといって、自閉スペクトラム症の特性が無くなったわけではないし、苦手なことや生きづらさを感じることは、定型発達の子に比べたら多々ありますが、この自信は経験によって培われたものです。ただ経験するだけではなく、どのように人（先生やお友達）と関わり支援を受けてきたのか、ということも大きなポイントだと思います。療育施設は子供だけではなく、子供の発達に不安を抱えている親にとっても必要な場所です。親が一人で抱え込まず、療育先の先生と不安や喜びを共有することで、子供にも良い影響を与えられると思います。療育を受けることで、子供だけではなく親にとっても期待以上の効果が得られました。

●家での療育をどのようにしたら良いか等を教えてもらう事で、発達が目に見え、理解出来るので親に余裕が出来たらか、自傷行為をする事がなくなり、パニックの頻度も減り、落ち着きました。

●当初はコミュニケーション力の向上を狙っていましたが、療育施設ではたくさん褒めてもらえるのでそれが自信につながったようで、以前よりも出来る事が増えました。コミュニケーションに関しては、言語聴覚士さんがいる療育施設に新たに登録し通っています。

●少人数の集団なら、落ち着いて活動に取り組めるようになりました。朝やお昼、帰りの支度など、毎日のルーティンが自然と身に付いて、自分でできるようになりました。運動指導もあるので、足腰も強くなった気がします。

●オムツがすぐに外れました。低筋張だったので、少しずつ体幹がよくなってきた気がしました。今小6ですが、すごく運動神経がいいです。私も食べ物とかにも気を使えるようになりました。

●コミュニケーションが上手になった！色々な年齢の子が居るので年下の子には優しくおもちゃを譲ったり年上の子には色々な事を教えてもらったりして幅広い年齢の子との関わりを持てた。個別療育ではなかなか読み書きが難しいが本人のペースに合わせた内容を組んでくれたので焦る事無く本人も楽しく勉強が出来た！

●だいぶ席についていられるようになりました。ひらがなや時計の読み方も定型発達児に比べれば遅いですが、出来るようになっていきます。遅くとも最後まで。負けても前ほど癇癪を起こしません。一人っ子で他の子供と触れ合うのが苦手な子でしたが、療育の小集団の運動療育では新しく入ってきた子や年下の子を率先して声掛けしたり教えたりしていたそうで涙が出ました。先生方からもとても優しく、うちの子がいるからここに入りたいと言ってうちの子と同じ施設に決められたお子さんが居たそうです。とても嬉しかったです。

●正直、効果があったと実感できるような感じではなかったけど、子供の苦手がしっかり見れた気はする。

●本人にとっては、定型発達の子と過ごす時間、発達障害の仲間と過ごす時間、両方があって自分を知ることにつながっていると感じる。親にとっては、第三者が介入することで、子供の特性を知ること、理解すること、支援すべき事が見えやすくなる。療育以外の保育園学校などに支援を要請しやすくなる。

●人と話す事を楽しいと思えてきた。電気のスイッチ、扇風機に対するこだわりが緩和され、パニックを抑えるこ

Q8. 療育施設に通わせたことで見られた変化

とができてた。イライラしたときにもスタッフのサポートのおかげで切り抜けた。不登校になりがちでしたが、デイに行く楽しみからしっかり行けるようになった。

●効果は特に分からないが、相談場所がある、同じような保護者の方と話せるのは心強かったです。

●高学年で3ヵ所目に通所し、長期休暇を服薬無しで過ごして体重も安定。良くも悪くもお友達と刺激あって色々な経験をして沢山の事を学べていると思います。

●親としては、同じ1年生の女の子で友達を作ってもらえたら…と思って、施設を考えたり選んだりしていました。しかし、結果的には、高学年のお姉ちゃんや、中学生のお兄ちゃん達が、あたたかく接してくれた事で、学年を超えた「友達」が作れました。本人の意見を一番に考え行動した事で、不登校だった小学校も、療育と足並みを揃える事で2年生から通えるようになりました。

●気の合う子とのコミュニケーションが増えた。通い始めたタイミングで、支援学級になったこともあり、学校でも少し落ち着いて過ごせるようになった。学校では授業中に廊下は出てウロウロする事も多々あったが、すごく減った。授業に集中できるようになった。施設に行っている間だけでもゲームをする時間を減らすことができるのありがたい。嫌々行っても、それなりに楽しんで過ごしてくる。現在も通っているので、まだまだこれから変化を期待したい。

●期待している変化はまだ見えない。ロングスパンで経過を見ていく必要があると思うので、通う意味がないとは思わない。

●小3の7月から利用して、偶然同じクラスの子が居て意気投合し目線が合うようになり、8月には宿題やゲームなど行き詰まると自傷行為をする回数が増え、10月に転居の為近隣の放課後デイサービスに3年弱通いました。そこにも同じクラスの子が居て仲良くなりその頃には自傷行為は全くなり、音読が苦手な事で途中躓く事がありましたが、小4の時音読放送と行って昼休みスラスラ音読もできるようになりました。小5辺りから友だちを家に連れてくるようになり、コミュニケーションがだいぶ人と取れるようになったので辞めさせましたが、また気持ち不安定になりだして再度療育施設を探して、今度はVR学習（職業訓練やSSTなど）のメインのところに通わせるととても気に入ったようで喜んで行くようになりました。しかし、その後その放課後デイサービスのスタッフが退社してVR学習などをせず中身が変わって来たのでその辞めたスタッフが経営している放課後デイサービスに通っています。

●初めは、療育のことがわからなかった所以効果への期待は、なかったです。学校が辛い息子の楽しく過ごせる居場所になればいいと考えてました。現在、息子は高校1年生になりました。小学3年生からはじめて療育は、時間がかかりましたが効果は、ありました。息子の場合は、学校で苦手なことが多くて自己肯定感が低くなっていました。また、聴覚過敏のため大きな声でパニックになっていました。そのため、教室に入れず短時間登校になっていました。学校生活が上手くいっていない中療育の効果は、なかなか現れませんでした。中学1年生の頃、療育施設や家庭では少しずつ落ち着き、出来ることも増えてきました。しかし、学校ではまだ、パニックになることもありましたが。転機は、中学2年生のとき周りのことが見えてきて、一方的に話していると相手は、楽しくなさそうだと気付いたり、パニックになると恥ずかしいと思いクールダウンするためにその場を離れたりできるようになりました。療育でやってきたことが全て繋がって効果が現れてきました。そうすると息子は、どんどん成長し自分の苦

Q8. 療育施設に通わせたことで見られた変化

手や特徴を理解していききました。

●自分の気持ちを伝えることなど効果はあったと思う。

●長い目で見て…とは言われましたが、四歳で通い始めて3ヶ月くらいで、言葉にするのは難しいですが、なんとなくいつもと違う(良い方に)と感じました。6ヶ月たつと、四歳でしゃべれなかった息子がなんとなく自分の意思や、私に気づいてほしいことを単語で言うようになりました。調子が良ければ、会話がワンストローク続けることが出来るようになりました。

●正直、プラスでしかありません。いきなり言葉が喋れたり、コミュニケーションが上手くなるわけではないけれど、スモールステップで確実に成長しています。子供の成長はもちろんの事、保護者である私達も日々発見・成長出来ていると思います。

●ifの世界がないので、療育がなかったらどうだったのかはわからない。後で後悔しないように、できるだけことはしたと納得できるように通わせている。我が子は学校などでは友達作りが苦手だが、療育施設で出会う子とは仲良く遊ぶことができる。何故かはわからない。子供については学校や習い事などでも経験を積んでいるので療育によるものがどれくらいなのかはわからないが、親についてはプラスだった。何か悩みが出て来た時や困った行動があった時にすぐ相談できる人がいるのはありがたい。しかも、その人は普段の子供の様子を知っているし、その後療育施設でも相談内容に基づいて様子を見てくれる。医師とすぐ相談できるから不要という方以外は、相談先の確保という面でも療育施設の利用をおすすめしたい。

●コミュニケーションや、先の行動を見越したことが少しできるようになりました。なにより、こちらが子供に対してどんな声かけや、対応をしたらいいのか、とても勉強になりました。行かせたおかげで小学校も普通級で今がなばれているとは思います。

●保育園で困ってることに對しての解決ができればっと思いつたが、保育園自体が発達障害の子に対して積極的な対応ではなかったため、成果についてはわからなかった。他の同じような障害のお子さんやご両親との情報交換ができて力強かった。

●少しずつコミュニケーションスキルの向上があがり意思の疎通がしやすくなった。また、いろいろな専門家の意見を聞くことができ、親の意識も改善できたと思う。

●変化なし。

●共働きの為、下校時間後どこかしらで待ってもらわないといけません。まだ数ヶ月で効果は分かりませんが、本人が楽しく、家や学校で学べない事を学んで来ると思うだけで安心して家族も過ごせます。他人と数時間過ごすだけでも、コミュニケーションのトレーニングと考えてます。ただいま～ではなく、おかえり～と帰って来てた息子が、最近はただいまだったかな？と言ってるのだけでもプラスです。

●家の外に出られなかったり、冬でも長袖が着られなかったり、靴がはけなかったりと、生活に支障が出る事が多い子だったのでその療育施設で個別で「感覚統合指導」というのを1週間ほどしてもらったことがあり、(広い部屋で色んな遊具を使っていっぱい体を動かすような感じのこと)その後ガラッと変わったことがありました。こ

Q8. 療育施設に通わせたことで見られた変化

れまで困難だった上記のようなこともだいぶできるようになったりしました。それから、これまでは1人でも同年代の子供がいたらその場所には行けなかったのが幼稚園に行けないのでは...と思っていたのですが、少しずつ子供の中にいられるようになりました(療育のおかげか、成長のおかげかはわかりませんが)

●集団に馴染めにくい子でしたが、以前より積極的になりました。家では絵を描くことなど集中が続かないですが、療育では集中して工作や絵を描いているようです。

●幼稚園と療育施設を並行して通っていました。本人の特性をまず見抜いて下さり、保育所等訪問、3者間ノート(保護者、療育施設、幼稚園)での情報共有などを行うことで、本人の安心する場所が増え、とても効果があったと思います。「お集まりの時には自分の場所にいる」「先生の指示に耳を傾ける」「集団の中でのルールを守る」などが出来る様になるとお友だちの輪の中にも入れるようになり、コミュニケーションを取ることを「楽しい」と感じれるようになったと思います。

●母親の通訳がなければ会話もままならず、笑うこともなかったが、小学生間近になり、よく喋り、よく笑い、友達との関わりがなければ、障がいがあるようには見えませんでした。数値も平均的になりました。

●本人が家族以外の人間を愛し愛される事ができたら、と願っていた事と同じ歳の子に興味を抱いてほしいと思っていた事が叶いました。同じ歳の子との関わりは想像以上で、みんなの名前を覚えてさらに自分から声をかけたりとコミュニケーションを積極的に行ったりするようになり、前の幼稚園で少しあった他害も全くないので、本人も安心して通っているのだと感じました。

●だんだんと自分で切り替える術を身に付けて、喚いたり暴れたりもまだまだするけど、自分で落ち着いたり妥協点を見つけることが出来るようになった。お出かけで色々な所に連れて行ってもらって、色々な体験をさせてもらえて、プールが好きになったり、興味の幅が広がったかなと思う。家でお出かけしても偏ったりするので、色々な所に連れて行って貰えるのはとても助かるなと思いました。

●トレーニングを、することにより期待していた成果は得られた。主にティーチや感覚療法等のトレーニング等を行なっていましたが、とても集中力がつき、出来なかった計算も出来るようになりました。コミュニケーション能力も低かったが、トレーニングをする事によってコミュニケーション能力も上がりました。

●順番待ちのルールや、お友達との貸し借りが特にスムーズに出来るようになりました。

●まだ通っている途中なのですが、自分の意思を伝えられるようになってきました。いろいろ相談にのってもらえるので、親の私も助けられている事がたくさんあります。

●集団療育にかよって一年程度でぐっと発語が増えた。また、ルールがある遊びを通して色々なことを学べたと思う。三ヶ所いていたが、本人のなかですみわけもできており混乱もなし。個別→小集団→幼稚園という大きな集団での活動に繋がったと思う。幼稚園がモンテッソーリであったのも良かったと思う。

●人と関わりを持ちたがるようになった。ルールを守ろうと意識する様子が見られるようになった。

Q8. 療育施設に通わせたことで見られた変化

●大人と一緒にないと遊ばなかったけど、子供同士でコミュニケーションが取れるようになり自分達で遊べるようになりました！！

●まず実感できたのは私の気持ちの変化でした。よほど危険なことがない限り、何も言わずにニコニコと見守るセラピーの基本姿勢が、その後の育児でもとても役に立ちました。私が私が！と気負うのではなく、子どもの「いま」を認め、前向きな言葉をかけ、寄り添うことの大切さを知りました。子どもは私の関わりが変わったことで少しずつ少しずつ気持ちの落ち着いている時間が長くなり、今ではポジティブで自信に満ち溢れ、チャレンジ精神旺盛な心の強い子になりました。これが本当の姿なんだと思います。それを潰してしまうことなく引き出せて良かった。それが療育の1番の成果だと思っています。また、親以外の大人との愛着関係を結ぶことの訓練にもなったと思います。それが入園後、子どもが加配の先生と早い段階から良い関係を作り、園生活での先生からのフォローを上手に受け止め、飛躍的に伸びる要因となってくれたと思います。

●当時は療育に意味がないと感じましたが(実際通所をやめる親子もありました)療育施設に通っていなければ、普通の小学校への入学は難しかったです。現在、高校進学し色々あるけれどもなんとか進級出来てるのは、早期療育をしたおかげだと実感しています。

●期待以上の効果がありました。信頼できる環境で、のびのびと素直に成長していくことが出来ていますし。ここまで言葉もだいぶ増えてきました。なによりも沢山の信頼できる大人に見守られて成長することが出来ているので本人も力を思いっきり出して行くことが出来ているように思います。親もまた、どのように本人をサポートしていったらいいのかを聞くことができますし。相談に乗ってもらえる環境で、不安を解消しながら子供と向き合えています。相談しやすい雰囲気を受け止めてくださる事も私達にとっては大きなサポートだと思っています。

●積極的に自分から動くようになった考えるということをするようになった。

●集中力は身に付いてきたと思う。

●第1子は落ち着き、就学後は通所予定はありません。第2子は現在通っている通常保育所から療育型の保育所への転園を療育所の先生方と相談中です。

●プラスしかありませんでした。3歳児当初は発語もないところから、年中時期にはお友達との関わりを楽しむまでになりました。年長時には、STにも力を入れてくださり、音読もできるようになりました。こだわりも徐々に少なくなり、情緒面がとても落ち着いたことが、その後小学校へ入学してからのいろいろな積み上げにつながったと思っています。

●自分の気持ちを言葉にできるようになってきていた。

●言葉が増えてやりとりも増え、興味が広がり明るくなった。親も子どもとの関わりかたを改める良い機会になった。

●同じ年齢くらいのお友達に全く興味を示さなかったなかのが、今ではお友達と遊ぶくらいにまでなりました。初めは自我もあまりなく、言われるがままでしたが、嫌なことは嫌、などの意思表示もしっかり出てきました。言葉

Q8. 療育施設に通わせたことで見られた変化

もかなり増えて、家ではやっていなかった体操や、手遊びなども覚えてくるようになりました。

●集団療育お着替えや手洗い等の習慣は、他のお友達の影響でもの凄く出来るようになった。お友達との刺激が良いのだと感じる。私にはまだ抱っこを凄く求めて歩かないが、療育ではお友達と手を繋いで歩いていると聞き驚いている。貸してを言えるようになった。時々懇談会があり、他の保護者の方とお話する機会があり、皆頑張っているんだと思えてありがたかった。？個別療育息子の癇癪の対応を教えてもらって実践すると、頭をずっと悩んでいた頭を打ちつける行為が減った。言葉掛け一つで息子の行動が変わるのを目の当たりにして親や周りの人の対応の仕方でのこの子の将来が変わるのだらうなと思わされた。子供のことで相談場所が出来た。満足すぎる。どちらも先生方が本当に優しく、私も子供も暖かい気持ちになれてとても感謝している。居場所を作ってくれてありがたいです。

●通い初めて2年半今では皆のお手本になっていると言われ嬉しく思いました。今年、1年生初めての運動会でリレーも他の競技にも参加できました。通級にも通っているので見通しがたち、自己紹介も前に出て話す事ができた。行事も立候補して取り組んでいます。

●似たタイプのお子さんもいたり、少し安心して活動できているようには感じました。子どもはもちろんですが、隣に親の待機部屋があって子供の様子を見れたり、療育のあいだ親はそこで話をしていられるのでお互いに相談したり情報交換したり、手の空いている先生が話を聞きにきてくれたりと、親にとって気持ちを保つために大変貴重な場となりました。

●挨拶が苦手で、いつも父親から怒られていたが、自分が出来る挨拶をすれば良い事がわかり、会釈という挨拶方法を習得した。元気な挨拶だけが挨拶では無いし、無視するのは一番良くないと本人も分かっていたので、相手から挨拶されたら、会釈しながら小さい声で挨拶するまでに成長した。施設での自分の役割や求められている事を理解して動ける場面も出て来ている。

●いろいろな友だちができたり、学校や家でできないような体験をさせてもらえてるよう感じます。手先をいろいろ使って家で使えるものを作ったり、こうやって作ったよ、と報告してくれたり、褒められたり、すごいね、かわいいね。とか言われる機会も増えて本人も嬉しい様です。

●感情のコントロールが利用当初から目的ではあるのですが、効果はあまり感じません。ある事業所で、スタッフ（管理者）の方に暴言を吐かれ一時期荒れて大変でした。どうしてもテンションがあがるとわかってても、止められないです。ただ、自分でテンションがあがるとどうなるかを知れたのは、事業所に通ったからだと思います。

●医師には高校受験は無理、負担だろう。といわれていたが、本人に合った指導や理解があったことで、希望する高校に入学できた。職員とも付き合うことで社会性がついた。人と付き合うことに抵抗がなくなったようだ。

●間もなく就学を迎える息子ですが、療育を通して活動をやり抜く力や、集団生活の中でのルール、我慢することなどを身につけることが出来てきたと感じます。また気持ちの切り替えができず、見通しが立たないことに癇癪を起しやすい息子でしたが、癇癪の頻度は療育開始当初と比べると格段に減ったと感じます。

●普段、子ども園に通っているため、どちらの効果があったとかはあまり分かりません。が、毎週私が外から見る

Q8. 療育施設に通わせたことで見られた変化

ことで、新しく好きになったもの、新しくブームがきているものが、発見できたりします。まだ、発語はありませんが、一緒に手遊び歌で手遊びしたり、コミュニケーションが取れるようになりました。

●体幹トレーニングによって、授業中の姿勢の悪さが改善されたそう。ふらついていた上半身もしっかり固定されるようになってきた。SSTによって、「〇〇の時はどう対処するのが相手にとっていいのか」や「相手の気持ちを考える」ことができるようになった。また滑舌トレーニングで早口ことばを言うことがあり、そのためか宿題の音読が上手くなった。

●親だとこれをしてたら嫌がってその後長引くとわかっていてできないことを療育ではしてくれました。過敏症で手をつなぐこともできなかったのが散歩のお陰でできるようになり、急に嫌になって立ち止まってもずっと先生は付いてくれて「大丈夫、大丈夫」と母親の私も励ましてもらいました。通うことで私も息子の対応に慣れてきました。そして、トイレも自分でできるようになり、オムツも取れました。何よりも一緒に来ているお母さんたちとの繋がりがとてもありがたいし一緒に頑張っているという絆ができました。

●相手の気持ちを考えた行動や、時間のオンオフがとても旨く出来るようになってきた。一番はとても落ち着いて対応できるようになったということ。椅子にも長く座るのが難しかったが、少しずつ長い時間も座れるようになってきた。

●信用できる大人がいること、色々な子がいてみんなが理解されてることを見て人への見方が変わった。

●2歳1ヶ月から通い出して8ヶ月経ちました。未だに喋ることは無いですが、ほんの少しの単語や模倣は出るようになりました。気持ちが荒れていることもあります。切り替えができたり療育でたくさんのできた！という経験とこれはなんだろう？やってみよう！という経験のおかげで笑う喜ぶ楽しむ回数も増えました。本人の世界が広がったように思えます。

●最初は仕事の都合上週1回通っていましたが、記憶の定着が薄いと感じたので、段々2回、3回、4回と増やし今では週4回通っています。週3回にした辺りから明らかに記憶の定着がしっかりしてきたように思います。分かる事や出来る事が増えた為、本人の自信にもなり、意欲にも繋がっています。楽しく通っているの、吸収力も早いと感じています。1年半通っていますが、最近の発達検査では、発達指数が伸びており大変な効果が表れています。

●言葉がない、理解がない、嚥下障害がありSTさんを利用していましたが、お部屋で落ち着く事が出来ない、好きな事ができない事に癇癪をおこし切り替えができずにいます。なのでリハビリや情報交換も行えません。嚥下は現在改善されていますが、言葉がない事は一番気になります。OTさんの感覚統合は娘にはピッタリです。少しずつですが出来る事が増えてきています。

●発語が無い子（今でもありません）なのですが、呼びかけに対しては、なんとなく理解できていると感じています。今まで集団生活は経験がなく、他人と関わることがほぼ無かったのですが、良い刺激を受けているようです。

●指示が家でも通りやすくなりました。また、体操のやり方をプリントで渡して下さり、宿題として家でやっていたので、良い習慣になりました。親としても、責任者や先生とのやりとりにとっても支えられていました。

Q8. 療育施設に通わせたことで見られた変化

●お友達と話せるようになった！幼稚園では加配の先生をつけてもらって、基本的には先生と1対1生活だったのですが春に向かっていくにつれて行事が増えていく中で、お友達と関わりが増えてきて、卒園間近には、みんなと過ごせる時間がとても増えました！（それまではほぼ別室）視覚支援でのスケジュール表がとても生きた！療育施設でもスケジュールはかなりやってもらっていたのですが、同じように家でもしたらとてもスムーズに進むようになりました！

●小学校へ行きだしてから、卒業するまでに学校の用意を1人でしてほしくて、やり方を教えてもらい、やり続けたら4年で忘れ物なく出来るようになりました。その頃から言葉も出てきて、失敗が嫌いで初めての事が苦手だったのに、5年生から自己肯定感が爆上がりして、失敗をしても『次頑張ればいいか！』や『またやったらいいね！』と言うようになりました。

●大好きな事はたくさんできるようになり、大好きな通園バスに乗っていると3回ぐらいで道を覚え、「右（左）に曲がる」や「まっすぐ進む」と言えるようになりました。その言葉を言葉につまづきがある子がうちの子が言っているのを聞いてしばらくしたあと「言えるようになった」と。他の子の見本になったのが嬉しかったようで褒められるようにできない事も「イヤだ」「できない」と言いながらも頑張っていました。

●発語がなかったので、療育施設に通えば次第に発語が増えてくるのではないかと考えていましたが、他の部分は伸びていく中で発語は一向に見られませんでした。療育開始から一年くらい経ち、発語はもうできないんだと諦めてしまいましたが、その後少しずつ単語が出始めて初めてママと呼んでももらえました。

●作業療法については、未就学児しか受けられず1年半で終了になってしまいました。その後も、1、2年、療育センターの運動療法のようなものに通いましたが、運動は、相変わらず苦手で、手先も不器用です。でも、通わなかったよりはマシだったのかなと思います。心理発達相談は、子どものアンガーマネジメントが課題でしたが、療育を受けていくうちに、癇癪やパニックが治まってきて、効果を感じました。また、私も相談に通えたので、親の接し方を学んだり、困った時の育児相談もできたので、自分の心も支えて頂けたと思います。

●何年もかけてですが、椅子にすわって授業を聞くことが出来るようになったと思います。小さい頃のソワソワ落ち着かず、じっと座ってられないのを見てきているので、繰り返し療育してきた効果だろうと思います。

●通所当初は身寄りの無い地域に住んでおり、周りに気軽に相談できる人が居なかったため、子供がというよりは親が先生方と話して気持ちが楽になる部分が多かった。特性を理解し、なるべく叱らないように気を付けるようになった。お友達とのトラブルに繋がらないよう少し距離をとったり、他のことで気を紛らわすよう工夫した。

●一言で言うと「話せるようになった」です。療育に通っていなかったらどうなっていたんだろうと思うくらい、子は話せるようになりました。私の念願の「喧嘩」もできるようになりました。贅沢な話ですが、「少し黙ってもらってもいい？」と思うくらいよく話してくれます。

Q9. 施設利用を成功に導くうえで大切なことは何か

●中学1年までは、学校、教育センター、病院、家庭での療育でしたが、療育の専門家に相談する機会が増える事が良かった点。他のお子さんの成長と比べてしまう事が多々あり、その面では悪かったかな？と思います。

●毎回楽しんで行ってる所です。療育に通わないと行けない子供が多くて回数が少ない所です。

●すぐに成果が目に見えるものではないし、時間も取られます。なので、定期的に通うとなると保護者の負担が増えますが、長い目で見ると成長し、楽になっています。これはなかなか家庭ではできない経験もあるので、利用したからだと思っています。

●困っている事や悩んでいる事を相談し、専門的な意見を聞いて家庭で出来る取り組みは実施などの連携を図る。親が療育を理解・学習し、子供と一緒に楽しむ。

●通っている療育先、どちらも子どものできないことより、できることを見つけています。また、相談したことは一緒に考えてアドバイスしてくれます。相談は、本当にささいなことだったりもしますが、そんなことでもしっかりと聞いてもらえて、その面でもすごく頼りになります。親身になってくれるのが私にとっては大事な。と思います。

●勧められるまま利用をしていたのでなんとも言えませんが、悪かったところが今のところないので、迷っているのであればとりあえずやってみるのもいいかもしれません。

●理解ある先生や、指導者。または、身近な存在で同じような悩みを持っているお母さんたちに療育への理解ができるよう話を聞いたり説明したりできると成功すると思います。私は悪かった点はありませんでしたが、一番は家族の理解だと思います。家族の理解度で悪くもなり良くもなると考えています。

●親が入室しなくてもマジックミラーで外から見る事が出来るので安心でした（療育してくれる人も色々だから窓のない個室は心配）成果が直ぐには出ないので行っているときは不安になったりしたけど今ならわかる発達テストなどその子に合わない方もいるので見極めたほうがよい障害のある子は特に敏感だから療育が終わったあとにすぐ褒める。

●療育に通い始めて半年経たないうちに幼稚園が始まり、どちらでの影響かは分からないけれど順番を待つことや友達に優しく接すること、困った時に大人に「〇〇さんお願いします」などと助けを求められるようになりました。

●全員が研修を積み、発達障害についての知識を身につけられていれば、保護者に適切なアドバイスも出せますし、保護者は、自信をなくすことなく気持ちに余裕を持って、子育てができると思います。適切な子供への関わりに加えて、保護者へのアドバイスができる職員の確保が大切だと思います。

●施設探しは重要です。施設によって得意分野も考え方も雰囲気も全然違います。まずは親のみで見学して、2回目にお子さんと一緒に見学するとしっかり見極められるそうです。同じ施設を続けて利用できた方がお子さんも気持ちが良いと思います。親子で納得できる施設を見つけてほしいです。園や学校でもそうですが、スタッフさんとのコミュニケーションはやはり大切です。こちらから積極的に今の悩みや子供の様子を伝えることは、子供が療育施設で楽しく過ごせることに繋がります。療育施設で親向けのワークショップなどの機会がある場合は、積極的に

Q9. 施設利用を成功に導くうえで大切なことは何か

参加してみることをおすすめします。他の保護者の方のお話をきくこともできて勉強になりました。

●子供が楽しく過ごせるか、先生や他の保護者の方と情報交換できる環境なのかが大事だと思います。子供がどうしても嫌な環境であれば、無理せず他を探していいと思いますし、親としても、そこで学んで家で取り入れてられるような情報交換があるかも判断基準にしてもいいかと思いました。ただ通って帰ってきてだけの分断した生活だと、本当はできることも家ではやらない子になってしまうと思います。

●長い目で見ることが大切だと思います。保育園と違って色々求めてしまいますが、体幹トレーニングをまず行い、身体と心を共に成長させる事が重要だと感じました。息子は保育園よりも療育園の方がのびのびと楽しんでいて、通わせて良かった事しかありません。

●どんな時も親が子どもの気持ちに寄り添い、理解者となること。安心感を持たせてあげることが重要だと考える。ご機嫌を取るのではなく、しっかりと何故こらから〇〇するのか、何故△△しなければならないのか、ということもきちんと話し、先の見通しを立てる事も重要だと思う。成功かどうかは分からないが、子どもに合った方法を模索しながら、手探りでやってきた。自分だけで抱えず、夫とも療育や保育園、さまざまな人達の関わりの下、結果、「やってきて良かった」と思える成長が今、少しでも見えていると感じる。

●息子が集団で過ごすところを見たことがなかった為、療育に親子で通い息子の様子が見えて良かった。担任の声かけや接し方を見て私自身もとても勉強になった。

●急な成長を望まないこと。1ヶ月に一つでも、ゆっくり成長しているし、忘れた頃に成長を感じたり。それぞれの子どものペースがあると認識する事。うちの子だけ...という劣等感を持たないこと。今はできるようになる時期じゃないだけ。と先生に教わりました。子どもは可愛い！基本だよ。悪かった点...地域の小学校との繋がりが薄いので、同級生で知ってる子がなくて心配だった。

●まずは乳幼児時期に不安になったら相談窓口相談したほうが安心だと思います一人で悩むと行き場を失ってしまうので行政に頼ったり親子教室など必ず受け入れてくれる場所がありますそこから療育に？があれば子どもへの対応や接し方など教えてもらいながら親子で成長できると思います無理は禁物ですママやパパの笑顔が子どもの笑顔に繋がります。

●息子が乗り気じゃ無い時には、その状況に合った対応をしてくれる。そして泣きながら親子で行った際には親への配慮もしてくれ親子間の溝口を修復してくれる先生には感謝しなかったです。？の療育施設には息子さんが発達障がいのお母さんが先生で親の気持ちも理解してくれたので私にとっては療育施設選び大成功だと思います。悪かった点...やっぱり片道30分弱を連れて行ったりという親の労力があります。でもそれ以上の成果がありました！

●子供に楽しい事を伝え、毎回通えるように促してくれたり、家で困った時の対応を一緒に考えてくれました。また、親だけの交流会とかあり、親同士が仲良くなったので、子供の為に通う苦痛が無くなった事がよかったです。

●何ヵ月、何年という長いスパンで利用し、結果や変化を直ぐに求めない気持ちは大事だと思います。子供本人が楽しく通えているのか、とても重要だと思います。

Q9. 施設利用を成功に導くうえで大切なことは何か

●自分の子供にあっていないか、よく内容や中身を知ることが大事。今現在、希望や理想とした療育施設を利用できていない。発達にはさまざまな差があり、さまざまな子が一緒に生活することで、刺激を受けることもあるが、辛いこともある。子供の状態にあった場なのかを見極める。今まで利用してきた療育は、良かった場合もあればそうではない場合もあった。ただ、発達や障害の違いで受け入れてくれない場所があり、生活する場を探すのにも一苦労。だから、現在は預かり支援メインで自分の仕事を優先に場所や通い慣れている事を理由に利用している。子供だけじゃなく、親にも生活がある。そこの2つ両方の状況を叶える場所を見つけられる事ができるのか…今はそんな気持ちでいる。

●保護者会もあり、他の親の話もきける。集団の場合では、特性あるものの、普通級へ進学。小1 だかこだわりがあり、自力排便がまだ出来ない。集団でうまくいっているのが目的？なのか家だけでの困りごとには先生もノータッチである。自信もつけてほしいので現在は、放課後ディサービスを使用している。除々にならしていき、本人は今も楽しんで通っている。

●迷われているなら、まずは見学をしてみたらいいと思います。集団生活に入れたら、子どもは伸びます。子ども同士の見えない力があります。定型の子育てでもそうだと思いますが、子育ては1人ではできません。沢山の人の頼るべきです。その分野のプロもいますし、療育施設への通うことでアドバイスや悩み相談もできます。

●まず、楽しいと思わせて通う事が大事だと思いました。良かった点は、色々な子供達や大人と関わる事ができ、刺激になっていた事。集団生活のルールが学べた事悪かった点は、子供達一人一人に手がかかるため、職員の数もう少し増えるといいとおもいました。

●もともとグレーゾーンのうちに療育を開始して一年経ってからきちんと診断を受けることができたのですが、自閉症スペクトラム症という診断だったので、以前と比べて言葉が増え他者とのコミュニケーション手段が増え早期に開始していてほんとうによかったと思っています。

●嫌なものにならないように、楽しい！という雰囲気を息子と共有する○「今日は療育に行かなきゃ」ではなく、「今日の療育は製作かな？トランポリンかな～？楽しみだね～♪ママもモニターで見るね♪」というように、想像を膨らまして楽しめるようにする。○無理をしていないかどうかは気にかける○行きしぶるときには無理して連れていかない。○先生に息子の困る言動を伝えたり相談する際は、息子が活動している際に別の先生にお伝えするなどして、息子の目の前では話さないようにする。○お家で頑張っていることなど前向きなことは息子の前で先生に話すようにする。

●施設、親の方向性のすり合わせ。療育スタッフや親の、取り組みへの熱意。継続。

●前提は親がどれだけ子どもの困難さ、特性に寄り添えるかだと思います。成功に導くというよりもこれはどこでも言えることだとは思いますが、安心。承認。この子はこのペースでいいんだよ。でもこういうところが苦手だよ。というのをフランクに話せることが1番なんだと思います。親の受け取り方もそうでないと難しいことだとは思いますが。

●療育と聞くとうちの子は障害児だとショックが大きいですが子供の特質を知る場所としてみると素晴らしい施設です。子供のいいところをのばしてあげれることができる場所であることをもっと知ってほしいです。母として困っ

Q9. 施設利用を成功に導くうえで大切なことは何か

ているときはまず話をたくさん聞いてほしかったので気持ちを受けとめた上で子供にとって損なことではないことを話してあげると一歩踏み出せる親も多くなると思います。

●子どもの弱点をわかってくれる施設と出会うことは大事だと感じました。今現在2つ目の施設に通っていますが、1つ目のところでは「できてることが多くてなんで通ってるのか？」のようなニュアンスのことを言われました。周りの子と比較してのことかもしれませんが、私の悩みを共有できなかったのが残念でした。2つ目のところでは説明会のときから「あ、子どもにあうのはここだ！」と思い、通っています。私の知らない弱点も見つけてもらえて、強みも見つけてもらって先生方と同じ方向を向いてるのかなというところで今も継続して通っています。

●療育の先生方、通っている幼稚園や保育園などの先生方、保護者の共通理解が大切だと思います。幸いにも子どもが通っていた幼稚園の先生方、今もお世話になっている療育の先生方がとても良くして下さい、今があると思っています。些細な事でも気軽に話せる関係が持てるのが理想です。

●通い続けること。通って1年くらいしてから効果が出てきたとを感じるようになりました。先生の異動が多かったり、経験が浅かったりで合う、合わないと感じることもあります。通い続けないと効果は無いと思います。子どもにとっても幼稚園以外に行くところがあるのも気分転換になるのか良いと感じています。個別療育なので親が子どもに必要なこと、望むことを考え伝えることも大事だと感じました。

●療育施設に少しでも疑問に思ったことや改善してほしいことがある場合は、その都度先生に伝えるべきです。また、一人でどうしようもない悩みを抱えている時なども、先生に伝えてみてほしいです。私の息子は年中の時に幼稚園から退園勧告をされました。その時はとても辛い思いをしましたが、療育の先生に話を聞いてもらったところ、先生が幼稚園に出向き、息子の療育先での様子や、息子への接し方等、園長先生や担任に直接話をしてくれました。息子の園での様子も、私に教えてくれたりと、とても親身になって対応してくださいました。結果、息子は今年の3月に無事に幼稚園を卒園することができました。発達障害児を育てる私達に必要なことの1つとして、「周りへの理解を求めること」が挙げられると思います。でもそれは、親だけでは対処しきれない場合もあります。そういう時に、療育の先生に頼ってほしい、一人で抱えてほしくない、と切に思います。それが子供を笑顔にする方法にもなり得るからです。

●一先生方との信頼関係が大切。また、任せっきりでなく、親も変わって行ければ良いのかなと。同じ障害を持つ親と友達になれるのは、精神的な支えになりました。療育施設の発達指導の先生には、本人だけでなく、きょうだいの相談にもものってもらいました。ただ、私の子どもは軽度だったため、重度のお子さんの親との温度差は少ししんどかったです。(お宅は軽度だからいいじゃない的な)

●うちの子の場合は母子分離が難しいので、長時間の利用は嫌がって出来なかったし、情報量の多い療育施設は泣いて嫌がったので、本人のペースに合わせてもらえる所にしました。良かった点は、子供の出来たを増やして下さい。悪かった点は、親の家事をする時間が削られ、私が夕方にバタバタしてしまってゆっくりと過ごす余裕がない事。

●まずは、子供が楽しく活動できることが大切だと思います。我が子は、癇癪はなく、人懐っこいので、自然と先生との信頼関係はできていますが、なかには先生とのコミュニケーションが上手い出来ない子もいるので、支援者はどう対応すべきか、考えていく事も大事だと思います。

Q9. 施設利用を成功に導くうえで大切なことは何か

●子供と利用施設との相性が大切じゃないかと。やはり、本人がやりたくなるような通いたくなるようでない、親も本人も疲れると思います。短時間でも、本人が行きたい！と思っていれば吸収するし笑顔も増えます。あと、子供のことも大事ですが付き合う親のことも考えてみて下さい。短時間の療育で毎日自転車通っていました。幼稚園を辞めて学びの場がなかったので行けるだけ有り難かったし先生達も根気強く対応してくれてましたが、私の体力が意外と消費され体調を崩し気味でした。

●その子に合った療育方法を施設の方と話をし困り事なども積極的に伝えていました。施設の方はやっぱり知識豊富な方が多いのでこれはこの方が良くないですか？と色々提案して下さい私自身もこんな考え方ややり方もあったのかとビックリする事がある。

●とにかく見学！子供の現状や苦手など細かく把握して伝える。体験などがあったり見学会があればみに行くことをお勧めします。それでも良いところや人気のところはすぐに埋まります。新設の施設以外でいつでもどうぞや、短期間に職員が変わるようなところは、それなりの理由があります。あとは衛生管理。このような時代のせいもありますが、もともと衛生管理が杜撰なところは信用していません。衛生管理出来ないところで、個々の細やかなケアができると思えないので。特に未就学児の施設。

●私もでしたが、デイや施設の力を借りることで、より子供と笑顔で向き合えた気がします。時々家族の休憩のためにも、デイにはほんとに感謝しています。

●療育施設が交通の便が悪く通うのが大変だった。療育施設のスタッフとの信頼関係は大事だなと思った。話を聞いてもらえたり心強かった。

●施設スタッフの異動速度はチェックが必要で、信頼関係が築けるかどうかはポイントです。環境が許せるなら複数契約での利用で沢山の経験をさせる。合わない施設は迷わず契約終了する。

●親しか子供の事は気づいてあげれないので恥ずかしいとかの気持ちはすて、些細なことでも相談しながらその子のいい所を伸ばすために必要だと思った。

●療育先を考えたり、通わせる事事態に、私（母親）自身も不安だらけでした。しかし、いざ通わせてみると、親の思っている不安は子供にとっては不安にはなってなかったり、逆に全然違う視点で「吸収してきてくれた良い体験」などもありました。通所は強制するものでもないし、施設説明と通わせてみたら全然違う事もあります。親も子供も、「いつでも辞められる。施設は変えられる」と思って、気楽にスタートしてみると、気負わずいれると思います。また、実際、小学校を不登校になりだした際、【学校、子供、勉強、家での生活】と色々板挟みになり、親自身が悩みにハマっていた頃がありました。とても不安だった時に、療育先のスタッフさんが同じ目線で相談にのってくれた事で、親も子もとても楽になりました。相談できる人を一人で増やす事は、療育施設利用の大きなメリットだと感じます。

●家庭でのサポートには限界もあり、活動の幅が広がると思う。療育施設によっては、思ったようなサポートを受けられない所もあると聞いたこともあるので、いくつか施設を当たって、本人に合う場所を試してみることは必要かなと思う。私の子どもは、まだ1施設しかお世話になっていないけど、とても合っていてしばらくは他の所に行く予定はないです。

Q9. 施設利用を成功に導くうえで大切なことは何か

●子どもがどんな事で躓いているのかをよく観察して、施設の様子と自宅での様子、学校での様子を施設スタッフと親、できれば月の先生とよく共有すること。

●3人兄弟で3人とも療育に通っておりますが、1番下の今年長の子は2歳になる前から何も診断はついてませんが兄達のことを考えて療育に通わせてます。後、中1は通常学級ですが、小3次男は支援学級(病弱クラス)を利用してほとんど通常学級に在籍しています。学力も普通よりいい方で、何より支援級の先生が何か有れば見守ってくださるので支援級で良かったと実感してます。普通級で40人ぐらいの生徒に先生1人だと手がかかるお子さんは高学年になるに連れて相手してもらえないから、後々、親が大変になります(家庭内暴力や不登校)

●我が子とはとにかく新しい環境に慣れるのに時間がかかるので、療育施設が安全な場所だと思ってもらうように、先生の提案で子供のペースに合わせて少しずつ、利用時間を増やしていきました。先生も本人のことを考えて、いろいろ対応してくれます。本人のペースに合わせて、とにかく焦らず！が大切だと思います。

●子どもが楽しく過ごせているかが大切だと思います。子どもの特徴を知った先生方に見てもらい、親も一緒に参加することで子どもの接し方を知ることが出来ました。焦らないでゆっくりな成長を見守ることも大切だと思います。療育施設、家庭、学校が連携することで効果がさらに出てくるのではないかと思います。

●人気なところは2年待ちで利用できませんでした。小学校準備の強化プログラムを利用してみたかったです。施設によっては色々な専門的な資格がある方がいるのがメリットだと思います。保護者に寄り添ってくれるところだとありがたいです。今は小学校にあがりパソコンを用いた施設なのですが、ゲーム目当てになってしまってるような気がしてしまいます。何が成功なのか、わかりませんが学童に入れるのは無理だったので、授業だけでは学習の抜けが沢山あり過ぎるので、少しでも学習ができることがありがたいです。

●療育施設は、子供の為だけのものではなく、保護者も一緒に成長する場所だと考え利用すると、本当の意味でのサポートが出来ると思っています。何か悩みがあったり、療育の内容に疑問があれば、その都度先生(スタッフ)に相談し、頼る事が大切ではないでしょうか。大人同士の気持ちや目指す方向にずれ違いがあると、子供は混乱してしまうと思うので。そういった意味でも、風通しの良い療育施設選びが重要だと考えています。

●親が良いと思っても、子供目線はわかりません。建物、スタッフなど雰囲気を本人に見せてあげた方が良いと思います。

●通わせるだけでなく、子供よりも親が良く子供の日頃の癖や性格、行動パターンをよく観察し、子供の話に耳を傾け、向き合ってあげること。療育施設や、保育施設など色々な方の協力を仰いで、どうやって子供に対応してあげたらいいか、親が前向きに療育に参加することだと感じました。療育の指導をするということではなく、声かけや対応だけでいいと思います。それを勉強するだけでお互いにストレスも減り、子供の癇癪が減ったり問題行動を減らせるんだなと思いました。

●良かった点はしっかり問題点が見えるところは解決方法まで相談に乗って下さり、アドバイスがもらえた。最終的には両親が決めることっていうことはわかってるけど、正直辛いところもたくさんあったので。悪い点は小学校に入るまでしかない。そして、小学校では当たる先生によって1年充実するかしないかの当たり外れがあること。

●子ども本人のスキル向上だけでなく、親の心理状況や家庭環境にも配慮し、きょうだい児へも接し方の指導をし

Q9. 施設利用を成功に導くうえで大切なことは何か

てくれたので、家庭全体に信頼される、安心して何でも相談できる事が本人への療育にも良い影響を与えると考えます。

●利用の前に、放課後デイサービスの存在を知る迄が長かった。知識があるからと信用して利用したのが悪かった。大人や他者の事情等は置いて、息子の気持ちを確認、理解した上で考えて行動すべきだった。環境が合っていない場合、全てがうまく回らず悪循環しなかった。

●先生に質問がしやすい雰囲気があると良いと思います。親子療育は、療育施設から帰った後も親は家のことをしなくてはいけないので、私は記憶がないくらいとても大変でした。だんだん先生からも「これを家でもちゃんとやらせましょう」とアドバイスをもらえるのですが、うまくいかないと、先生に「ちょっとやってる？」と聞かれ、「お母さんもっと頑張って」と言われ、相談をしにくくなってしまいました。ですが、幼稚園選びの際、事務の方に「発達障害がある子は、先生も足りないし、受け入れられるか分からない」など色々言われましたが、療育施設の先生が「幼稚園に、この子は大丈夫って説明するよ！」と言ってもらえて、とても心強かったです。

●先生との信頼関係、子どものことで困っていることは恥ずかしく思っても隠さず全部伝えることが良いと思います。悪かった点は特にありませんでした。

●施設の主となる人の考え方、スタッフの方がその主となる人と同じ方向を見て働いているかが重要だなと思いました。またもちろん、その考え方が家庭の教育方針と合うのかどうかが大切だなと思いました。ただ個人的意見になりますが、療育施設に任せっきりになるのではなく、親が主体性を持って「こんな風に育ってほしい」という思いを持って判断する事が大切だと感じます。特別支援学校に行った今も学校に対して同じように感じています。

●子どもがなぜこうなのか気軽に相談できたら良かったと思う。2歳半から幼稚園に通っていたが、幼稚園教諭、保育士から発達に関して知識が乏しいと感じることが多々あり、そういう先生に限って自分の保育に自信満々で指導していた。センシティブなことだけど、もっと早く相談できる療育というものを勧めてほしかった。

●療育という言葉に親が過剰になりすぎないように気をつけると良いかと思います。習い事に行くと思って体験にいきなり通ってみるかしてみて、続けるかやめるかを子供に決めてもらうか子供の状態をみてきめられれば大丈夫かと。知り合いのお孫さんで療育がうまくいってないかと思う話を聞きました。親御さんが頑張りすぎているのか、幼稚園のあとは毎日のように療育施設に行っているのに本人の多動や他害がひどくなる一方で最近では母親にも強く噛んだり引っ掻いたりどだい困っている。と聞きました。話を聞いていると親御さんは他害等、子供の問題行動は障害がさせていてその行動を療育で矯正させる、という考えらしいです。問題行動は心の制御の問題で、脳の障害で制御機能がうまく機能しないから障害者は普通の人より行動が表面化しやすいものである所以他害により体調や心の不良を訴えているのであれば親御さんが頑張れば頑張るほど子供が追い詰められて症状が悪化するのではないかと危惧しております。周りをみても、気楽に構えている親御さんのお子さんの方がうまく療育に馴染んでる気がしますので、あまり療育と言う言葉を気にしない事が良いかなと思いました。

●1番は子供がその環境を楽しめるかが大事かなと思います。スタッフさんとの相性も大事で、子供はスタッフさんの態度とか雰囲気で態度をかえていると思うことがあり、相談したこともありましたが。親子共に施設やスタッフさんとの相性が悪いとストレスになり良くないなと思います。

●親が『特別なこと』と捉えないことかと思っています。また、楽しい？何やったの？など根掘り葉掘り聞かずに、指

Q9. 施設利用を成功に導くうえで大切なことは何か

導者にお任せすること、聞きたいことは子どもからではなく指導者から聞くことを心がけるべきかと思いました。

●療育施設を利用し、トレーニングをする事は発達障害のお子さんにとって、とても効果があり、なおかつ発達障害を持つ保護者にとっても必要な場所であると思います。今は、発達障害を抱えながらもトレーニングをしたおかげで、娘は大学に進学し心理学を学んでいます。

●通いやすい距離というのが一番かと思います。子供連れで行って帰るだけでかなり疲れるので…母子分離の時間があると親が一息つけたり、他の利用者との情報交換ができたりと親の心に少し余裕ができます。民間の療育では担任制ではなく、毎回先生が変わってしまうので先生が覚えられなかったのが残念でした。

●本人の特性にあった施設を選ぶこと。またどの施設とも連絡をしっかりと取り合うこと。家庭と施設という関係だけではなく、幼稚園と各療育施設と横の繋がりで情報交換を行い、年に一回は会議をもった。また、施設⇄幼稚園が相互に見に来てくれるなどしてくれたのもよかった。途中で施設に不信感やうまくいかないときに焦りを感じることもあったが、すぐに諦めずにならず結果はできると信じることも結果的には良かったと思う。

●気になる事を遠慮なく聞ける関係性になること。その日の様子を詳しく話してくれるスタッフと報告の少ないスタッフで差がある。なので気になる点は自ら遠慮なく聞くようにしています。

●療育は子ども本人を矯正するためのものではなく、親が子どもとの関わり方を学ぶところだと考えると良いと思います。担当して下さる先生のことを信頼し、その上で疑問に思ったり上手くいかないことは正直にお話しして、自分も知識を得ながら進めていくと、先生は最強の伴走者になってくれると思います。私は最初、プレイセラピーについて「子供を遊ばせるだけのために往復3時間もかけて通うの？これ意味あるの？」と思っていました。始めてしばらくはそう思っていたが、先生と日々の困りごとや出来事を題材にケーススタディとして話し合ううちに、少しずつ知識が増え、対処法の引き出しが増え、子どもとの関わりがうまくいくようになりました。一対一なので、先生も子どもの姿をよく見てくださっていて、私の困り事などをすぐに理解してくださいました。私にとって療育は親のためにあるものだったと思います。

●通ってる最中は育児の大変さで療育の良さが中々感じられない事も多々ありますが、子どもが成長し、療育の有り難さを実感しています。スタッフさんの支えは一生の宝になります。スタッフさんと一緒に子どもの成長の手助けをする事がなにより大切だと思いました。

●良かった点・施設内に下の子の託児施設があったこと→下の子を連れて親子療育は難しい中、託児施設があるのは大変ありがたかったです。・先生が親の話も聞いてくれる→悩んだら話を聞いてくれましたし、こちらが言わなくても先生が気にかけてくれたりありがたかったです。・同じクラスのお母さんたちとの距離感→近すぎず遠すぎず、時々悩みを相談したり聞いたりといい距離感でいられました。今も繋がってる方も何人かいらっしゃいます。・金銭的負担がそこまでなかった→上限をこえた分は市が支払ってくれたので、お昼ご飯代と合わせて月に15000円前後で通えたので助かりました。託児施設のお金も月1000円で預けられました。悪かった点は特にありません。

●選ぶ時点で子供を一番に考えてくれている施設かどうか見極めるため見学や相談などとにかく先生や管理者とお話する。受けたい支援がきちんと受けられるのか確認する。親の相談にも乗ってくださるところなのか。本人が一番困ってることは言わずもがなですが、親も悩みは止めどもなくあると思うので、何でも聞けるところなのか。通

Q9. 施設利用を成功に導くうえで大切なことは何か

う前に体験などが出来れば、本人に慣らしの時間で安心してもらうことが出来て成功しやすいと思った。悪かった点は、すべての情報は一つのところにあるわけではなく、保護者が積極的にどんどん動いて情報を取りに行かなくてはならないこと。時間の許す限り色々動くことが大事だと思った。膨大な時間が必要で、膨大な情報にこれまた時間が必要だった。仕事などしては到底やりこなせないほどに。。。横の繋がりがとても大切で、同じ凸凹ちゃんのママと繋がって意見や情報をもらったり、情報を絞るのに助けられた。とにかく成功への近道は、親が動く！！！！

●まずは保護者が我が子の現状を理解し、良いところ、課題となるところ、できるようになってほしいことなどを把握することで、支援する先生方と同じ方向を向いて療育に取り組めたことです。そして、結果ばかり焦らないことも大切だと思いました。諦めない気持ちと根気強さを持てたことは結果としてとても良かったと思っています。

●家庭での悩みと、保育所での悩みを療育所の先生方とうまく擦り合わせをして、対応に差がないように注意しました。療育所の先生が保育所を訪問し、その際の様子や困っていることを教えてもらえて良かったと思います。

●保護者が受け身にならず、我が子と向き合い、理解したうえで、どのような療育が必要か考えられるまでになると、支援の先生方と同じ方向を向いて取り組んでいけると思います。連携もとてもスムーズになり、お互いにいろんなアイデアを出しあい、支援の引き出しが増えました。結果、より我が子を理解することができ、適切な支援、療育ができたと思います。

●うちの通っていたディは、職員同士の伝達があまりうまくいってなくて その度にイライラすることも多かった。子供が訴えているのにも関わらずそれを聞いてくれなかったりもあり、 ディの方針 うんぬんより、もっと職員の質を上げてほしかったです。

●家庭との連携が大事。療育に通うことで親も勉強して実践しなければ効果は期待しにくいと思う。

●まずは見学に行き園の雰囲気や先生の方針、通っている子供達の様子を見て、ここなら安心して通わせられるという直感は大切だと思いました。少しでも疑問に思うことはしっかりと聞き、クリアにした方がいいと思います。あとは、親が療育であれをして欲しい、ああいうことを教えさせて欲しいというより、自分の子供をしっかりと見て、この子には何が1番必要か考えることが大切だと思います。

●どういう目的で通わせたいのかを明確にしておくこと。私はプレ幼稚園でお友達と関わる機会が欲しかった↓その思いを汲み取って役所の方が幼稚園のような集団療育施設を紹介してくれた個別で指導して、問題点を親も把握できるところ↓個別で親も同席してフィードバックがある個別療育施設私の場合はこんな感じですが、言語を強化したい。運動面を強化したい。話を聞いてもらいたい。無理のない指導をしてほしい。等、子供の問題点と親の考え方、求めているもので違ってくると思います。そして利用している時は、こちらから主体的にこういう事を療育に求めている、子供の気になるところはこういうところとはっきりと意見を伝えて療育側と認識をすり合わせていく事も大切なことだと思います。

●幼稚園を遅刻、早退することに懸念は感じていましたが、遅れていってもクラスの子たちはおはよう！といつも元気に声をかけてくれて、早退時も何か言われることなく、とても自然に接してくれて親子共に安心しました。本人も1人違うことをしている、というのは少なからず感じていたと思いますが、友達が態度に変化がないことを

Q9. 施設利用を成功に導くうえで大切なことは何か

知れたことも成長に繋がっていたのではと思います。子供が経験を積んで、小さな成長をしていくことを一緒に感じることができたのは良かったと思いました。

●施設には、すぐに手が出てしまうお子さんや言葉でコミュニケーションをとる事が難しいお子さん等等、色々な個性を持った人が集まっているので、寄り添い、理解し合う関係性が持てるかが鍵だと思う。施設職員だけでなく、学校や医療機関からのご意見を参考に、施設の特色を調べて決める事、子どもが一人で生き抜くために必要な事を教えてくれる一つの機関として捉える事が大切だと思う。

●いろんな情報を集めたり、見学したりして、子に合った療育施設を選ぶことが大切だと思います。

●親と事業所のコミュニケーションは必要だと思います。管理者がしっかり対応できないところだと、1番困るのは子どもなので。子どもからスタッフや事業所の衛生面、最近の利用者の話をたまに聞くことも大事だと思います。いくら資格があっても、子どもとの信頼関係がないと療育にはつながらないと私は思っています。数力所利用しての率直な感想は、利用しないとわからない。です。

●本人に合っていること、普段がないこと。なにより、本人の特性を理解し受け止めてくれる場所。

●息子の特性や性格、困りごとを細かく把握したうえで、適切な療育を適切なタイミングで行ってくれた事が息子にとってはとても良かったなと思います。また保育園や家庭での様子も常に気にかけて下さり、適切なアドバイスを私や園にしてくれることもあり助かりました。家庭での様子や悩みごと、困りごとを聞いてくれる人がいたので、一人でモヤモヤと悩まずに済むことが増えました。様々なプログラム、スタッフが充実しているのも大切ではありますが…実際に通所する子どもだけでなく、保護者との相性も療育施設を利用する上では大切だなと思いました。

●子どもが楽しく通うこと。親が先生を信頼すること。すぐに結果を求めないこと。

●子どもが楽しく嫌がらずに通えることが一番大切だと思った。子どもが自分から積極的に通いたいと思うことで、SSTや体幹トレーニングの成果がどんどん出てきている。本人も身についているのがわかって、自己肯定感がとても上がった。自信がないことが気になっていたのも、とても療育に感謝している。

●私は母子登園でよかったと思いましたが、人によってはそれが辛いという人もいますので親の気持ちをよく聞くことが療育利用成功の大切な要素だと思います。療育に通い初めは担任の先生もすごく頼りになっていますがその前にその施設の相談員さんが施設の事を詳しく説明してくれたり、見学している時も常に声をかけてもらったりして息子がおもちゃや遊具が気になったら今はできないけどここにいるお友だちがいなくなったら遊ぼうねと具体的に息子に声をかけたりとしてくれたことも大切だと思います。とにかく、親が大変な思いをして覚悟してここに連れてきたこと、必死にこの子を社会に出せるようにと自分の思い(苦しい気持ち)は横に置いて来てくれていることをわかって対応してくれていることが伝わるのが大切だと思います。

●子どもに寄り添って接して下さること、これが一番だとおもった。あとは子どもが興味を持てる「なにか」があること。

●子供の可能性を信じて通わせてあげるのが良いと思います。療育施設に通おうと思った時は言葉の面しか見えて

Q9. 施設利用を成功に導くうえで大切なことは何か

いみせんでしたが、集中力の持続が短いことや得意不得意を見つけてくださいました。1年前保育園で「手先が不器用」と言われましたが、今では箸やハサミが上手に使えるようになりました。平均より体が小さいこともあり多くの面で心配していましたが、今ではボルダリングをスイスイやってしまうほどです。幼稚園でも担任の先生に「きちんと指示を理解して行動できています」と言っていたできるようになりました。毎週2回施設に連れて行くのは大変ですが、息子の成長が著しいので頑張っています。

●色々な事業所さんを見学することは大切だと思います。ここになら大切な子供をお願いできると心から思える先生、事業所さんが絶対にあります。親や子供にも療育の相性はあると思うので相談のしやすさも大事にできると思います。

●まずは、子供本人が楽しく通えるかどうかが一番重要だと考えています。すぐに効果が表れるのを期待するのではなく、コツコツ長期的に継続して通う事が大切だと思っています。子供のその時のコンディションによっては、やる気がなかったり気分が乗らなかったりもありますが、親ががっかりしたり叱ったりせずそんな日もあると理解する事も重要です。そして、子供本人が楽しい場所安心出来る場所だと感じる事も大切だと思っています。先生がスモールステップでとても褒めて下さるので、子供の自信や意欲に繋がっていききました。

●すぐに改善されるとは思わず、根気強く長い目でみて、特性を理解して焦らず余裕をもつ事だと思います。あとは支援して下さる方との信頼関係をもつ事です。娘の事を理解できていない支援員さんや私からの情報を聞いてくれない方へは懷かず泣いてばかりいます。先生方や支援して下さる方との信頼関係がないとまず何も進まないと思います。こんな事が嫌だったんだね！とか、こんな事は苦手だよ！これは好きじゃない？と理解してくれた上で接してくれてる方とは楽しそうにしています。苦手な事も信頼している方とは挑戦しようとしています。親だけではなく、家族、支援して下さる方との情報が共有できて楽しく過ごして成長できる事を願っています。

●担任の先生や園長先生と両親のコミュニケーションが大切だと思いました。日々、連絡に担任の先生より、今日はこんなことができました！こんなことをやりました！等、記入していただいたり、送迎の際に、少しでも会話ができる時間をとって下さる園に感謝しております。

●何ヶ所も見学に行き、ここに通いたい！と思う場所を探すことだと思います。周りから評判がいたところでも、実際見学に行くとうーんというところもありました。色々と不安や疑問を持った時に、しっかり先生が相談に乗ってくれる雰囲気のところがいいと思います。勿論、保護者側の、先生に対する丁寧な態度や、信頼して任せると言う気持ちも大切だとは思っています。

●施設、学校、親が同じ方向を向いて協力できるか。それぞれの場所でやり方、伝え方が違うと子供はパニックになってしんどいです。少ないとは思いますが、臨床心理士さんや専門の資格を持っている方が居る所がいいと思います。最近では預かるだけがメインの施設が多く、ADHDのお子さんに怒鳴って伝える所もあります。施設側が知識があると、保護者も正しい対応が出来ますし、そうじゃないと間違った対応が続いて悪い行動が増えてるお子さんもたくさん見てきました。見ていてとても辛いので、色々見学に行き、専門用語などを出して知っているか、知らないか試すのも良いと思います(笑)

●療育開始後1年半は1つの療育施設で週3送迎付きで通わせていました。ですが、療育施設でどのようなことが行われているか通っている保育園の先生方が分からず保育園で取り入れにくいと言われました。その後、相談し

Q9. 施設利用を成功に導くうえで大切なことは何か

て療育施設と連携が取れるよう療育施設のスタッフが保育園に訪問するサービスを利用したり、また同じような悩みの他児が通ってて発語が伸びたと言う療育施設も見学し週1利用を開始しました。その時々合った施設やサービスを利用することが大切だなと思いました。

●療育センターでは、定期的に医師の診察を受けるのですが、そこでお医者さんが合わないなと思ったので、一度変えてもらったりもした。相性があるので、心理士さんやお医者さんと、子どもも親も相性が合えば、より良いかなと思う。

●子供の特性を理解し温かくサポートしてくださるのでとてもありがたかった。自宅ではできない色々な経験(体操教室や和太鼓など)をさせていただいた。療育＝平日だったため、仕事を都度調整しながらやりくりしていた。



一般社団法人

人間力認定協会